

九州縦貫自動車道関係 埋蔵文化財調査報告

—XXXI—

福岡県小郡市三沢所在遺跡群の調査

下 卷

—古墳時代以降の遺跡—

—図 版—

1 9 7 9

福岡県教育委員会

九州縦貫自動車道関係 埋蔵文化財調査報告

—XXXI—

福岡県小郡市三沢所在遺跡群の調査

下 卷

—古墳時代以降の遺跡—

—図 版—

昭 和 54 年

福 岡 県 教 育 委 員 会



ハサコの宮2号墳南西部周溝内外縁出土ガラス練玉（2倍）
〔石丸 洋 摂影〕

例　　言

1. 本書は、九州縦貫自動車道路の建設に伴う事前の発掘調査のうち、昭和47年度に実施した小郡市三沢所在ハサコの宮遺跡、北牛田遺跡、松尾口遺跡の中の古墳時代以降の遺構に関する報告および上・中・下巻の図版編である。
2. 発掘調査は日本道路公团の受託事業として福岡県教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆は下記のとおりである。

I - 1(1)・(2)・(4)・(5)、2、3	森　田　勉
I - 1(3)	馬　田　弘　穂
II	森　田　勉
4. 遺構実測は上巻に示した各調査員が「行ったが」、遺物実測・製図にあたっては、中野恵子、芦塚照子の多大な助力を得た。
掲載写真のうち、遺物については九州歴史資料館石丸洋氏の指導のもとに、岡紀久夫・前田次郎・平島美代子の3氏があたった。
5. 遺物の整理作業の大部分については、岩瀬正信氏の指導のもとに、九州歴史資料館の整理作業員がこれを行い、出土品は同館にて保管している。
6. 本書の編集は森田、馬田が担当した。

本文目次

I 古墳時代の遺構と遺物

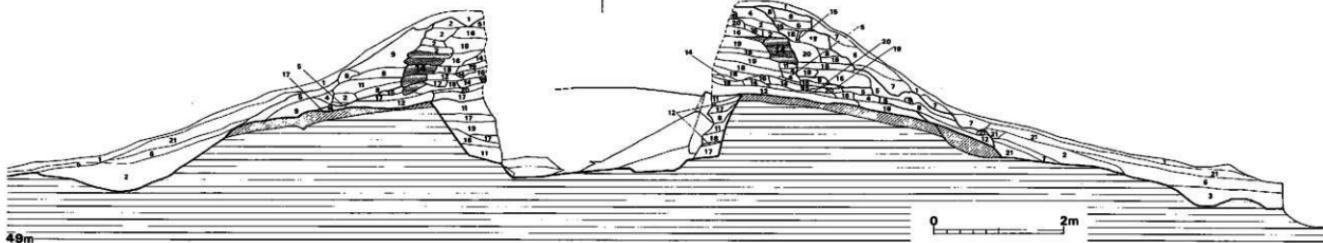
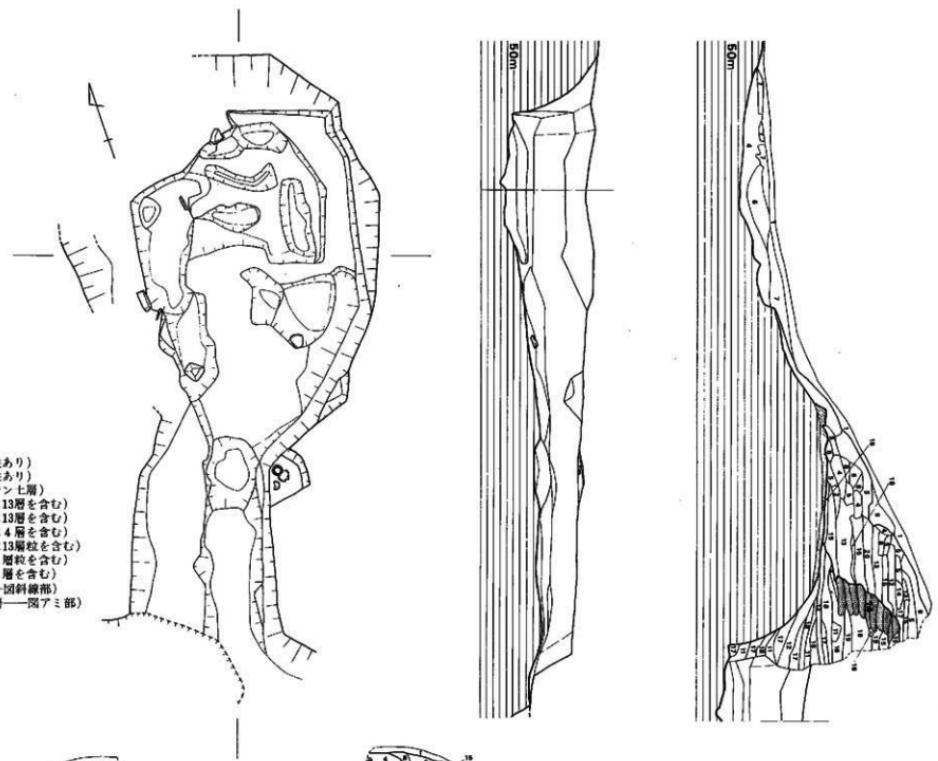
1 ハサコの宮古墳群.....	1
(1)はじめに.....	1
(2)ハサコの宮1号墳.....	1
(3)ハサコの宮2号墳.....	6
(4)ハサコの宮4号墳.....	20
(5)小 緒.....	20
2 北牟田1号墳.....	21
3 松尾口古墳群.....	22
(1)はじめに.....	22
(2)松尾口1号墳.....	22
(3)松尾口1号横穴.....	25
(4)松尾口4号墳.....	27
(5)小 緒.....	32

II 歴史時代の遺構と遺物

1 北牟田遺跡中世古墓.....	33
(1)はじめに.....	33
(2)1号古墓.....	33
(3)2号古墓.....	33
(4)3号古墓.....	36
(5)4号古墓.....	36
(6)5号古墓.....	36
(7)小 緒.....	36

Fig. 5 2号填埋丘断面・石室実測図 (縮尺 1/60)

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1層 現表土層 | 11層 明褐色地山土層 (粘性あり) |
| 2層 黒色土層 | 12層 赤褐色地山土層 (粘性あり) |
| 3層 暗赤褐色土層 | 13層 花崗岩層 (風化ハイラン七層) |
| 4層 黒褐色土層 | 15層 黒褐色底土層 (4層に13層を含む) |
| 5層 暗褐色土層 | 16層 黄褐色底土層 (9層に13層を含む) |
| 6層 暗茶褐色土層 | 17層 赤褐色底土層 (12層に4層を含む) |
| 7層 茶褐色土層 | 18層 赤褐色底土層 (12層に13層を含む) |
| 8層 橙色土層 | 19層 地山混土層 (13層に9層を含む) |
| 9層 黄褐色土層 | 20層 褐色混土層 (13層に5層を含む) |
| 10層 旧地表土層 (4層ないし5層の上部に2層が位置する層-一因斜線部) | |
| 14層 旧地表灰土層 (2層の上部に4層ないし5層が位置する層-四アミ部) | |
| 21層 橙色混土層 (8層に5層を含む) | |



挿図目次

古墳時代

ハサコの宮古墳群

Fig.1	1号墳墳丘実測図(縮尺1/200)	2
Fig.2	1号墳墳丘断面図(縮尺1/60)	3
Fig.3	1号墳石室実測図(縮尺1/40)	4
Fig.4	1号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	5
Fig.5	2号墳墳丘断面・石室実測図(縮尺1/60)	6~7
Fig.6	2号墳墳丘実測図(縮尺1/200)	6~7
Fig.7	2号墳墳丘実測図(縮尺1/200)	7
Fig.8	2号墳墓道東側遺物出土状態(縮尺1/20)	8
Fig.9	2号墳墳裾南西部遺物出土状態(縮尺1/20)	9
Fig.10	2号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	11
Fig.11	2号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	12
Fig.12	2号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	13
Fig.13	2号墳出土土器実測図(縮尺1/4)	14
Fig.14	2号墳出土土器実測図(縮尺1/4)	15
Fig.15	2号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	16
Fig.16	2号墳出土ガラス小玉・練玉実測図(縮尺2/3)	18
Fig.17	4号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	20

北牟田古墳

Fig.18	1号墳石室実測図(縮尺1/40)	21
--------	------------------	----

松尾口古墳群

Fig.19	1号墳石室実測図(縮尺1/40)	23
Fig.20	1号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	24
Fig.21	1号墳出土金環および実測図(縮尺1/1)	25
Fig.22	1号横穴実測図(縮尺1/30)	26
Fig.23	1号横穴出土鉄器復原実測図(縮尺1/4)	27
Fig.24	B地点地形実測図(縮尺1/500)	28

Fig.25 4号墳石室・地形実測図(縮尺1/60)	29
Fig.26 4号墳石室実測図(縮尺1/60)	30
Fig.27 4号墳出土土器実測図(縮尺1/3)	31

歴史時代

北牛田遺跡

Fig.28 1~4号古墓遺構・地形実測図(縮尺1/200)	34
Fig.29 1~4号古墓墳丘断面図(縮尺1/60)	35
Fig.30 4号古墓出土青磁実測図(縮尺1/3)	36

表 目 次

古墳時代

ハサコの宮古墳群

Tab.1 2号墳出土盤・环身一覧表	17
Tab.2 2号墳出土坏蓋一覧表	17

I 古墳時代の遺構と遺物

1 ハサコの宮古墳群

(1) はじめに

ハサコの宮古墳群はA地区で3基、谷を挟んで北側のB地区に1基計4基から成る。A地区的3基の古墳は1972年5月14日の分布調査の際発見されたが、その後、1972年に九州電力により高圧線鉄塔建設のため、3号墳は半壊し、4号墳はほぼ全壊してしまった。この3基の古墳は丘陵線上に南北に並ぶ径約17mを測る2号墳が最大で、3・4号墳は未調査のためその規模は不明であるが分布調査時の所見では径10m内、高さ1m前後の小円墳と考えられた。B地区的1号墳は土取りのために立木を伐採した時点で発見されたものである。

(2) ハサコの宮1号墳

墳丘 (Fig.1・2 PL.97)

丘陵先端部近くに位置している。調査前は、高さ約120cm、径130×140cmの不整円形の小さな土饅頭様のものであった。この土饅頭状の盛土を除去すると、石室の掘り方が検出され、その外側に溝があらわれた。溝は西側では2重にめぐらされており、外側の溝は石室の中点から半径約9mの円周に接する。このことから、石室の掘り方をまず行い、その後に尾根の基部方向にのみ墳丘のための地割溝を設けたものと考えられる。この地割溝を設定した後に旧地表を除去することなく盛土している。

石室 (Fig.3・PL.97)

略南東に開口する横穴式石室で、盜掘により、上部が削られた奥壁の一部および床の敷石の一部が残存するのみで、他は全て欠失している。墓塚は地山を10~40cm程浅く掘り、平面は4.0×4.5m弱の不整長方形を呈し、墳底は略水平である。蓋石の掘り方は中央部の奥壁部分のみが深く穿たれているため明瞭であるが、他は浅いためか不明瞭であった。

遺物出土状態

完全なまでに石室が荒されているため、原位置を保っていると考えられるものはない。石室内から出土したものは、鐵器類のみであるが、細片化している。完形およびそれに近い土器類が、石室掘り方南方から出土したが、それも原位置ではない。

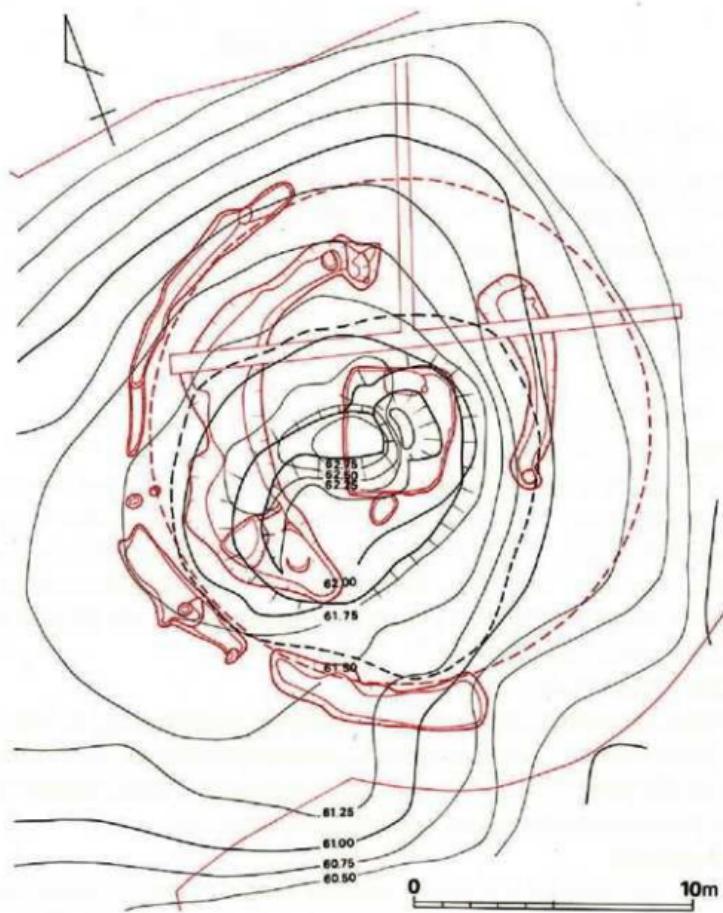


Fig. 1 1号填埴丘实测图 (缩尺 1/200)



1	表土
2	淡黃色土
3	暗黑茶色土
4	茶黃色土
5	淡黑色土
6	淡赤黃色土
7	黑色土
8	白黃色砂質土
9	黑色土（旧表土）
10	2と同じ
11	黑色土
12	淡黃色砂質土
13	黑色土
14	淡黑黃色土
15	明黑黃色土
16	淡茶黑色土
17	淡黃色砂質土
18	赤茶黃色土
19	淡赤黃色土
20	淡灰茶色土
21	白黃色砂質土
22	黃茶色土
23	混赤斑黃色砂質土
24	淡赤黃色土
25	黑色土
26	淡茶黑色土
27	白黃色砂質土
28	暗灰茶黃色土
29	灰黃色砂質土
30	混赤斑黃色砂質土
31	淡赤黃色土
32	黑色土
33	白黃色砂質土
34	淡茶色土
35	淡黃色砂質土
36	淡黑茶色土
37	黑色土
38	赤茶色土
39	暗茶赤色土
40	暗茶赤色砂質土
41	暗灰黃色土
42	暗灰黃色砂質土
43	暗茶赤色砂質土
44	黑色土
45	暗黑茶色砂質土
46	茶黑色土

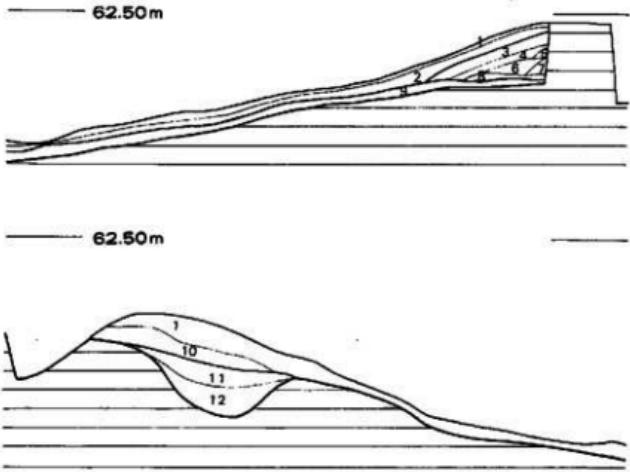


Fig. 2 1号墳壙丘断面図 (縮尺 1/60)

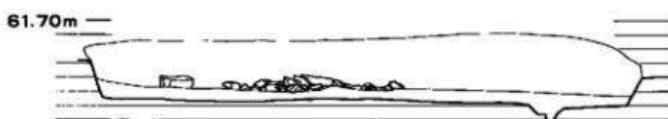
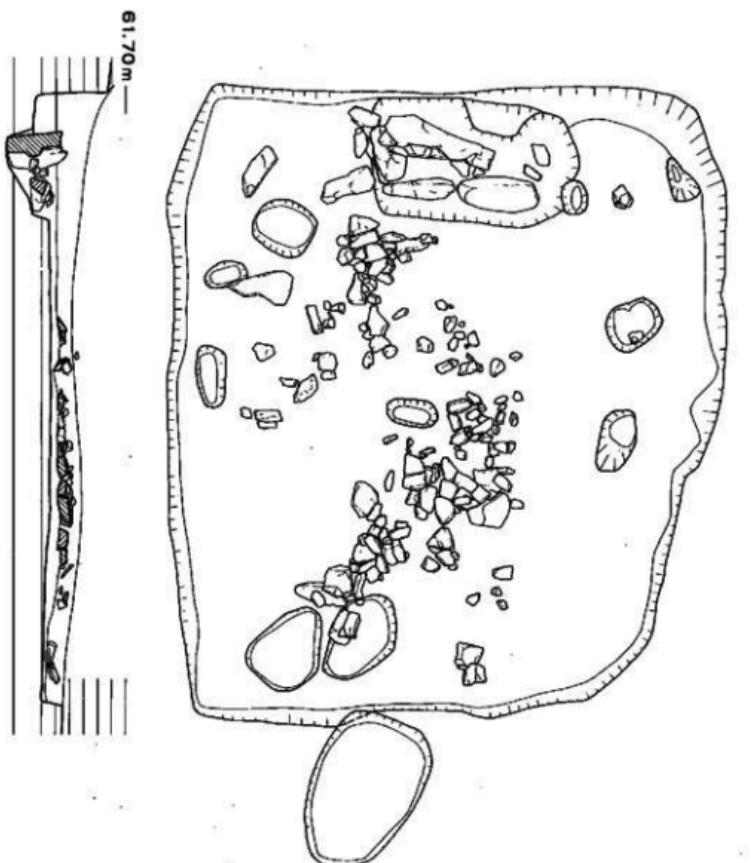


Fig. 3 1号石室平面图 (缩尺 1/40)

遺物 (Fig. 4, PL. 98)

土器器 (1 ~ 3)

盤 (1 ~ 3) 口径11.5~12.5cm、器高5.0~5.3cmを測るもので、器面は内外ともに良く研磨され密である。3個とも外面に黒漆を塗布しているが、大部分ははがれ赤褐色の素地を出していいる。

須恵器 (4 ~ 6)

环蓋 (4) 肩部に若干の段を有し、天井部を回転ヘラ削りしたものである。口径13.0cm、器高5.4cmを測る。胎土は精良で、砂粒は少ない。焼成は良好で、淡灰青色を呈する。ロクロ回転方向は右まわりである。

壺身 (5) たち上りはやや内傾するが、高さ1.5cmを測り、古式の特徴を残している。底部は回転ヘラ削り調整されている。焼成は堅緻で灰黒色を呈している。口径11.3cm、器高4.5cmを測る。ロクロ回転方向は右まわりである。

甌 (6) 口縁部の一部を欠失するのみで、ほぼ完形のもので、口径・器高とともに14.2cm、胴部最大径10.4cmを測る。外面の装飾は口縁部外面に細かい波状文、頸部上半には細かいが長い波状文、胴部中位には刺突文が施されている。焼成は堅緻で灰黒色を呈する。

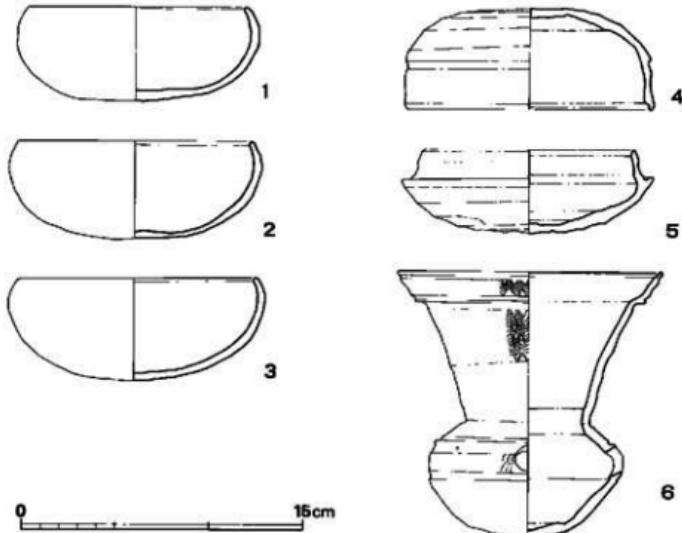


Fig. 4 1号墳出土土器実測図 (縮尺1/3)

(2) ハサコの宮2号墳

墳丘 (Fig. 5・6・7、PL. 99・100)

墳丘中央部に大きな陥没坑があり、南側墳裾へと続いていた。これは調査の結果、大規模な盗掘によるものであることが判った。標高は墳頂で53.05m・北側墳裾で50.50mを測り、墳径は東西方向で約12.7m・南北方向で約13.5mを測った。

土層図について (Fig. 5)

中央部の盗掘坑を清掃後、主体部主軸とそれに直交する北トレンチ西壁・東西トレンチ北壁の墳丘断面の土層を観察した。この時掘り方内埋土と盗掘後の流入土との区別は剥離して容易であったが、この剥離壁が石材を抜いたままの状態を示すかどうかは不明である。しかし、ほぼ奥壁および側壁の背面の位置は復原できよう。

旧地表は黒色土層の下位に、黒褐色ないし暗褐色土層があり、地山層は粘質の明褐色ないし赤褐色土層が認められ、その下に花崗岩の風化バイラン土層がある。旧地表は東・西側から緩傾斜で中央部へ高くなり、北側ではほぼ平坦である。この為地山整形はほとんど行なわれず、北裾部で若干施こすのみである。東裾部では周溝が検出されず、旧地表の削平のみで周溝に代えている。石材の搬入路との関連で注意されよう。

掘り方内は、壁の石材を安定させる裏込土である為に、旧地表上は一切使用せず、粘質の地山土で版築様に入念に埋土している。(第1段階)

次に天井部を覆う為に、地山土の粘質土層とバイラン土層の混土を使用している。粘質土は天井部の流水防止の為のものと考えられるが、天井外表面は石組みの凹凸が著しく、その隙間にまで土を充填させるにはバイラン土を混入させた方が所期の目的を達することができ、これも入念に施こしている。これは掘り方を若干覆う範囲にまでなされる。(第2段階)

統いてその墳形を一応円形に整える為に、旧地表土を反転させ積み上げている。この場合、1層づつ階段状に重ね上げるのみで、同じ反転土での控え積みを行なないので、特に西・北側での傾斜面の凹凸は著しい。なお、旧表土層を必ず反転するのは、墳圧により適している為と考えられる。(第3段階)

最後に円墳として整え完成させる為に、その墳裾部まで盛土している。この盛土は、再び粘質の地山土でなされている。盛土はその後、流出と擾乱を受けているが、西・東側で傾斜変換部を認めるので、二段構成であったものと考えられる。(第4段階)

このように墳丘の完成までには、少なくとも4段階の埋土ないし盛土が観察された。周溝の幅は、北側で3.60m・西側で3.00mを測り、墳丘規模は、旧地表削平部径が東西方向で11.64m・周溝外縁までを含めると14.64mを測る。しかし、南北方向は周溝外縁から墓道先端部で約17mを測る。

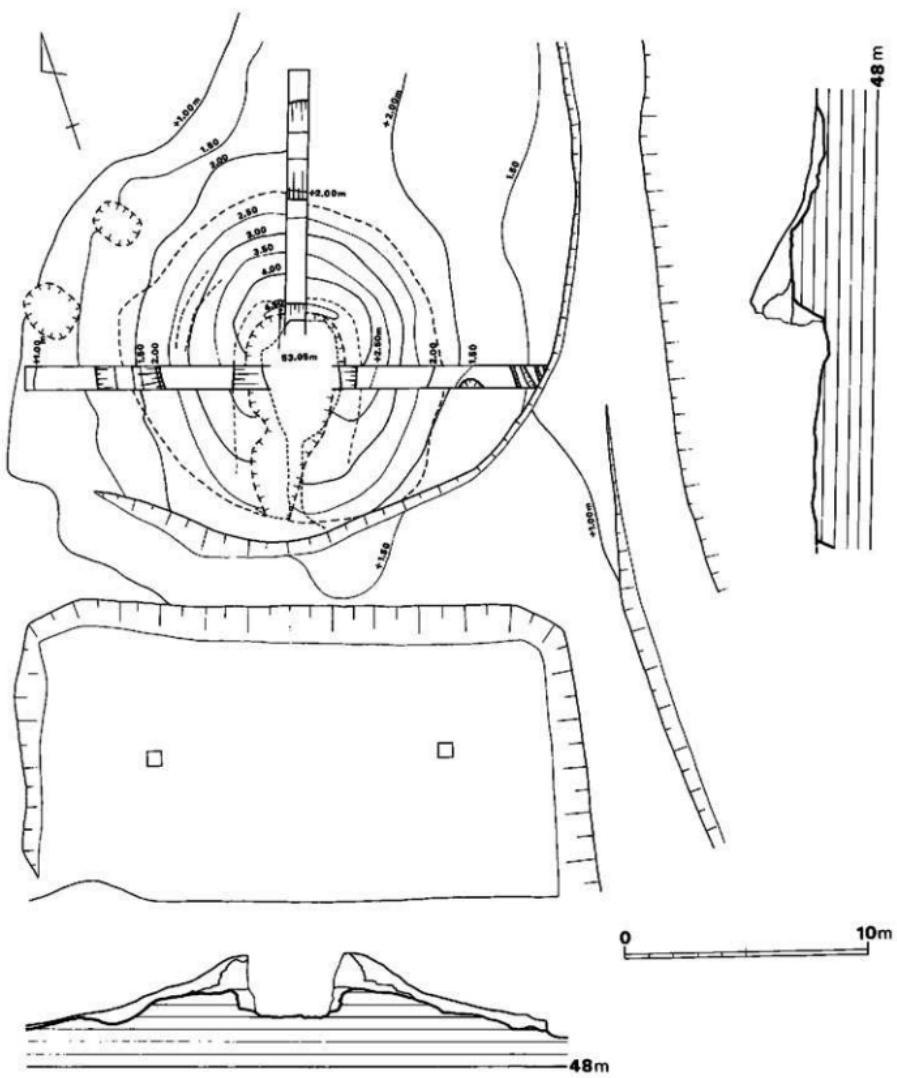


Fig. 6 2号坡填丘实测图 (缩尺 1/200)

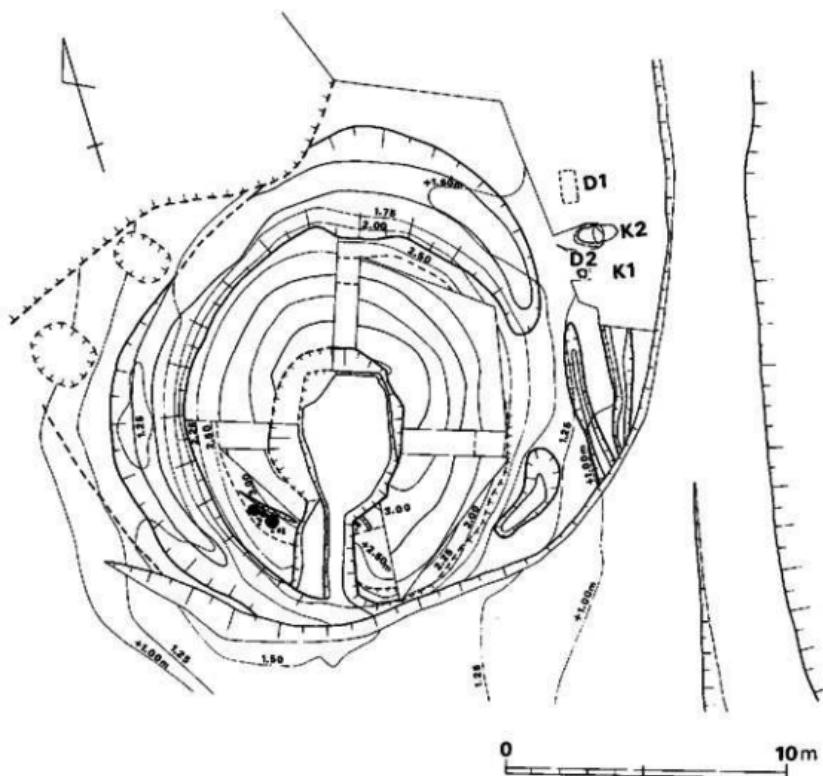


Fig.7 2号填埋丘実測図(縮尺1/200)

最後に、上述の4段階の作業に使用した土について若干補足する。主体部を掘り込む時の排土量は、第1段階の埋土量よりはるかに多い。また第2段階に使用した上は、バイラン土を混入するが、主体部掘り方床面は粘質地山層で、未だその下部のバイラン土層に至っていない。周溝も同様である。混入の為に、おそらく別の場所からバイラン土を採取して搬入したものである。なおこの混入土は、第4段階でも使用するので、その作業に支障のない周溝外に、旧地表土・粘質土・バイラン土と分離してまとめられたものと考えられる。また第3段階で使用された旧地表反転土の大きさは、断面図では 20.4m の大きさで均一である。運搬具の大きさに左右されたものであろうか。この土の大きさに限れば、むしろその使用量は体積よりも面積で推

計できる。厳密な量的計算は省略するが大略以下のように考えたい。断面図に認められる第3段階に使用した旧地表反転土層のみは、平均9枚検出された。上層ほど中心部に近くなるので最下層に使用する枚数程は必要としないが、実際には重ね合わせるので、今仮に最下層に必要な枚数で9層重ねたとすれば、掘り方の東・北・西側縁で40枚前後を使用し、全体で $0.4\text{m} \times 0.4\text{m} \times 40\text{枚} \times 9\text{層} = 57.6\text{m}^2$ の反転層面積となる。墓道を含めた掘り方内面積は約 30m^2 前後である。周溝内面積をこれに加えると、第3段階の土量にはほぼ充分である。第4段階で、周溝および掘り方内の残余耕土を使用するが、いわゆる墳丘の規模は当墳に関しては、第2段階の人念さと、それに混入したバイラン土の量によって帰結されたものであろう。

石室 (Fig. 5)

盜掘が著しく、石材はすべて除去されている。奥壁部掘り方は直線的で、墓道を結ぶ長軸方向はN-19°-Eを測り、略南方に開口する。主体部は盜掘で掘り方床面まで掘り下げられて、旧状を保っていない。両側壁裏込土の残り具合と難石の掘り方痕から、玄室東西幅は1.5mを越えないものであろう。また南半部の東西両方向も側壁の抜き痕とすれば、複室の可能性が強く、両室とも巨石を使用しない小規模の横穴式石室と考えられる。なお墓道はほぼ水平で、北側床面の掘り込みは閉塞部と思われる。

遺物出土状態 (Fig. 8・9, PL. 101-102)

主体部では盜掘が著しく、原位置で出土したものはない。その耕土中から若干の須恵器片と6個のガラス小玉が出土した。

墓道東部では、主体部掘り方近くで、4個の土師器のみの一群が出土した。墓道掘り方の東

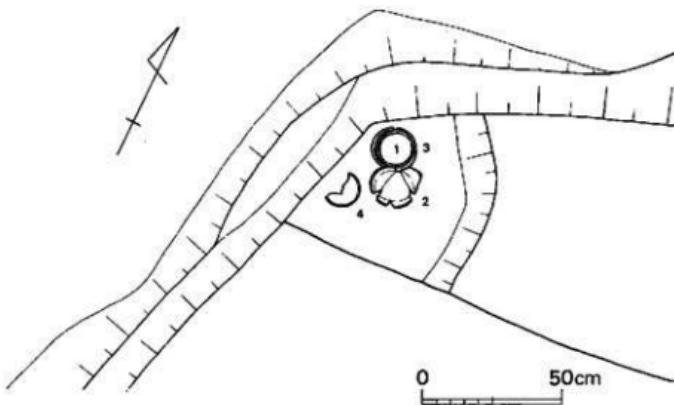


Fig. 8 2号墳墓道東側遺物出土状態 (縮尺1/20)

側面肩部は、いづれも幅1m前後で旧表土を削平しており、环身2個と环蓋が近接して置かれ、
蓋は环身上に重ねられていた。4個の出土状態から、环身と环蓋は当初から組み合せないままであり、また破碎された様子は認められなかった。次にその内容をFig.8・10中の番号で示す。

1. 盆（内面に丹塗痕を認める）

2. 环蓋

3. 环身

4. 环身

墳裾南西部では、墓道西側近くで、須恵器群と1個の陶質土器・土師器片1個が出土した。
旧表土は削平されておらず、大形表形土器2個の底部のみが旧表土を若干掘り凹め、他は直上
からの検出である。なお、前述の墳丘築造第3段階の墳裾部位で、第4段階で埋められていた。
次にその内容をFig.9・10・13～15中の番号で示す。

須恵器

5. 大甕（胴上半部は周溝内出土）

6. 増蓋（完形で、环蓋直下に口縁部を上にする）

7. 増蓋（完形で、2の直上に蓋せる）

9. 増蓋（完形で、口縁部を上にする）

10. 提瓶（口縁一部欠、把手片方欠）

11. 环身（破片）

12. 増身（完形）

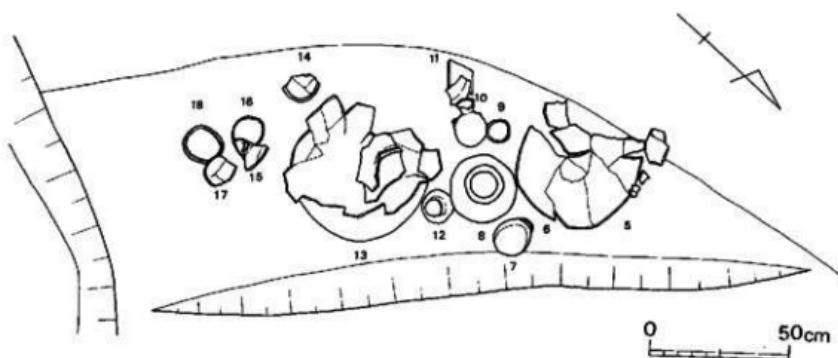


Fig. 9 2号墳墳裾南西部遺物出土状態（縮尺1/20）

13. 大甕（底部穿孔）
14. 环身（一部欠）
15. 高环（脚部は周溝内出土）
16. 环蓋（一部欠、口縁部を上にする）
17. 高环蓋（完形）
18. 环身（完形）

陶質土器

8. 小形甕（完形）

土師器

破片

南西部周溝内では、黒色土の周溝埋土中から出土した。次にその内容を Fig.11中の番号順に示すが、その他にも若干の破片が出上している。

須恵器

22. 环蓋（略完形で、口縁部一部欠）
23. 环身（完形）
24. 高环（环部欠）
25. 足（胴部半欠）

土師器

20. 横瓶（口縁部欠で、ミニチュア。周溝床面上）
21. 把手付壺（底部欠、破片）

南西部周溝内攪乱上層では、須恵器の环類および大形甕の破片が出土した。(Fig.11 26~29)

北東部周溝内では、黒色土の周溝埋土中から須恵器环蓋が若干出土した。次に実測できたものを Fig.12の番号順に示す。

30. 环蓋（略完形で、口縁部一部欠）
31. 环蓋（破片）

南西部周溝内外縁部では、表土下の茶褐色土層内でガラス製練玉が1個検出された。層位が乱れており、古墳に伴なうものかどうかは不明である。(巻頭図版)

南西部墳丘攪乱土層内から、土師器が出土したが、後世の遺物である。

遺物 (Fig.10~16、Tab.1・2、PL.103~105)

土師器 (Fig.10~12)

盤 1は器内外に化粧土を使用し、体部外面上部に明瞭なその削離痕を認める。器外は乾燥がある程度進んだ段階でのヘラ削りの為か光沢がある。丁寧なつくりである。39は化粧土を

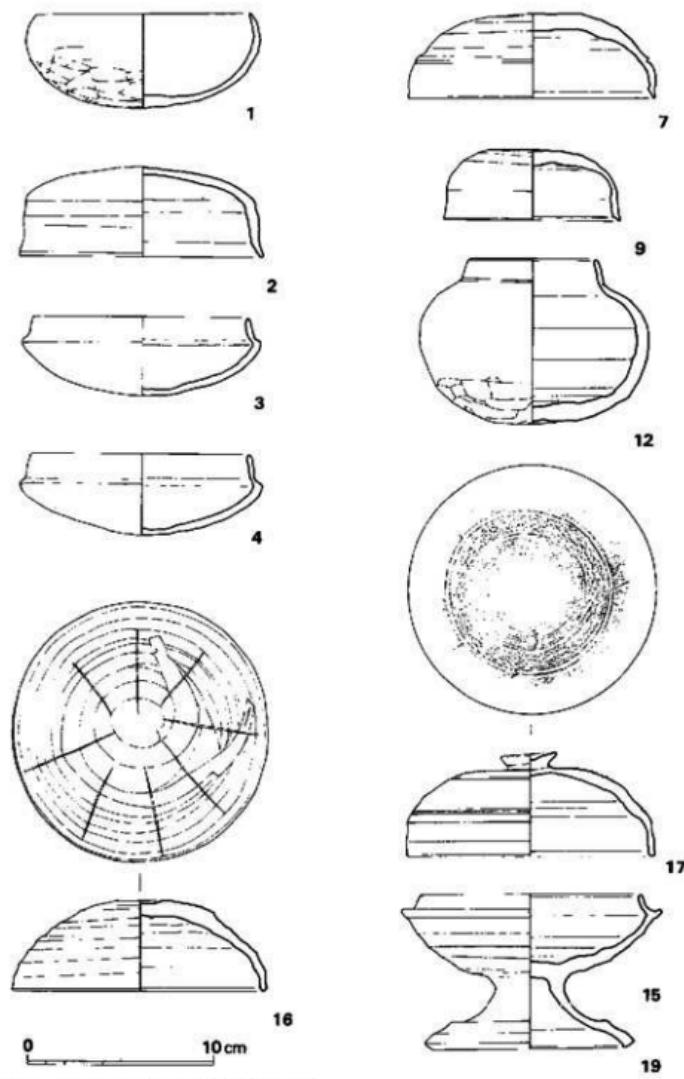


Fig.10 2号出土上器実測図(1) (縮尺1/3)

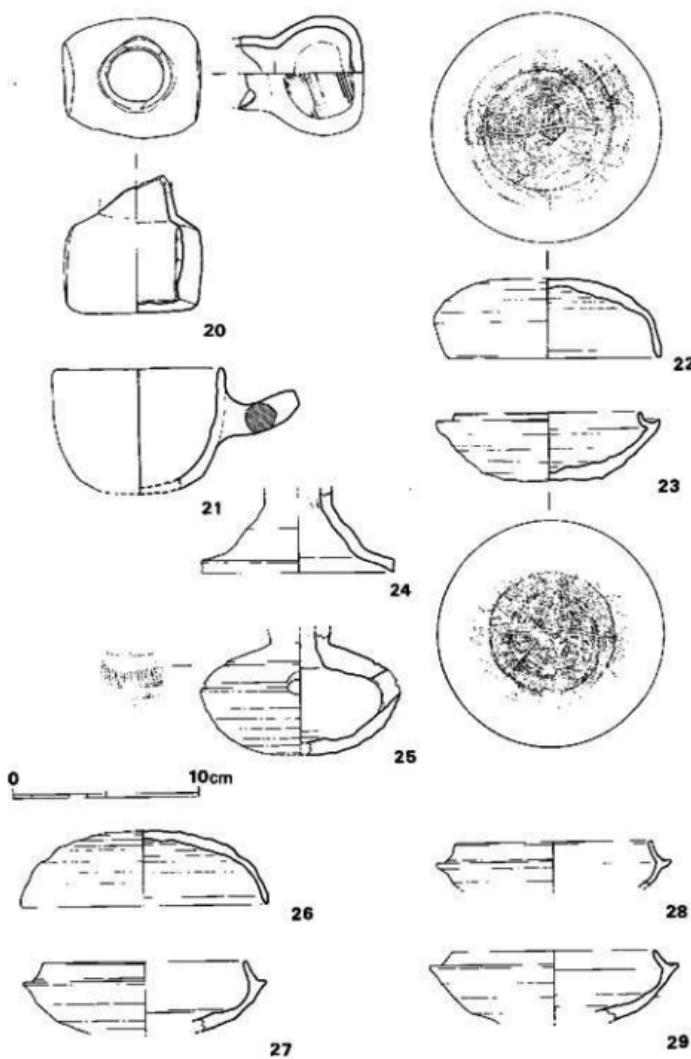


Fig.11 2号出土器実測図(2) (縮尺1/3)

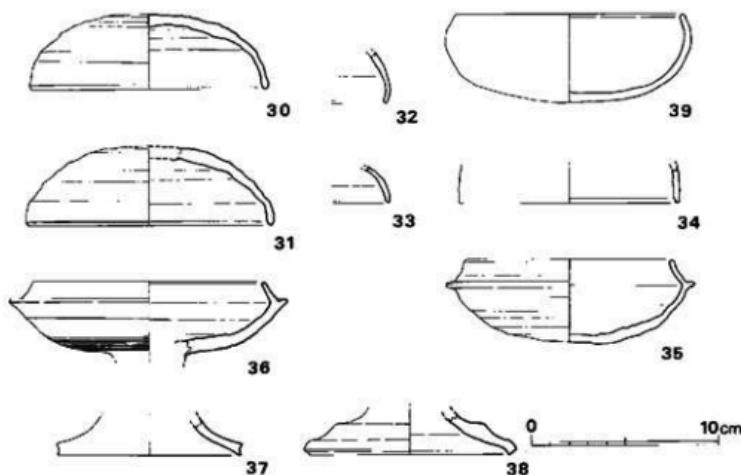


Fig.12 2号墳出土土器実測図(3) (縮尺1/3)

使用したかどうかは不明である。

环蓋 2は器内外に化粧土を使用し、器外は天井部と体部の屈折部に若干の凹部をヨコナデで施こし、明瞭な棱をもつ。器内口縁部はヨコナデのままで、体部から天井部にかけてヘラ研きを施こすのみで、この部位も棱をもつ。

环身 3・4は、共に器内外に化粧土を使用するが、剥離・ヒビ割れが著しい。

横瓶 20はミニチュアで、口縁部を欠く。底部は水平であるが、樽形に近い。砂粒を含み焼成は普通で褐色。

把手付壺 21は砂粒を多く含み、焼成は普通で褐色。

須恵器 (Fig.10~14)

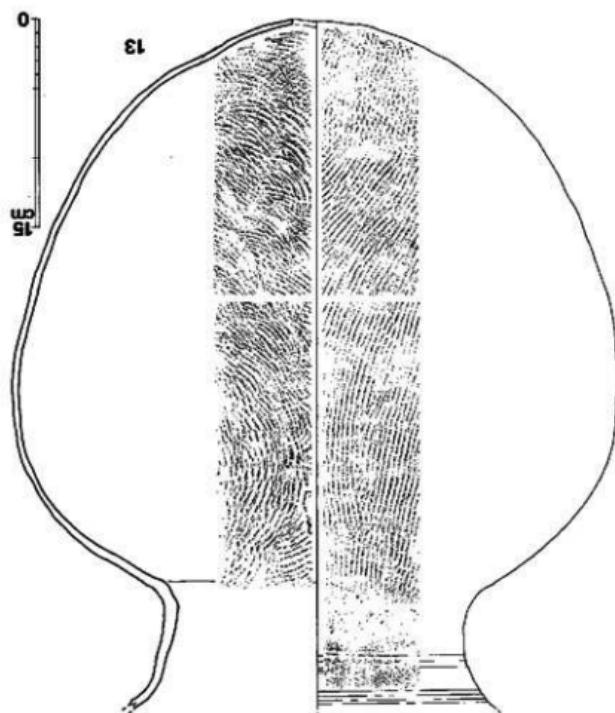
環蓋 9は口唇端部径9.2cm・天井部外径9.1cm・器高3.7cm・体部高1.6cmを測る。ヘラ記号は無い。砂粒をあまり含まず、焼成は良く灰青色。完形で、天井部内面はヨコナデのままである。

壺身 12は口唇端部径6.6cm・受け部径7.8cm・器高8.7cm・胴部最大径12.1cmを測る。器外刷下半部から底部にかけて、静止ヘラ削り痕を明瞭に残す。砂粒をあまり含まず、焼成は悪く灰色。

环蓋 16はロクロ右回転で、ヘラ削り始めとその抜き痕が明瞭で、ヘラ記号が入念である。22は体部の歪みが著しい(註1)。

环身 23の口径は他に比較して小さい。

FIG.13 2号墓出土土器表面图(4)(縮尺1/4)



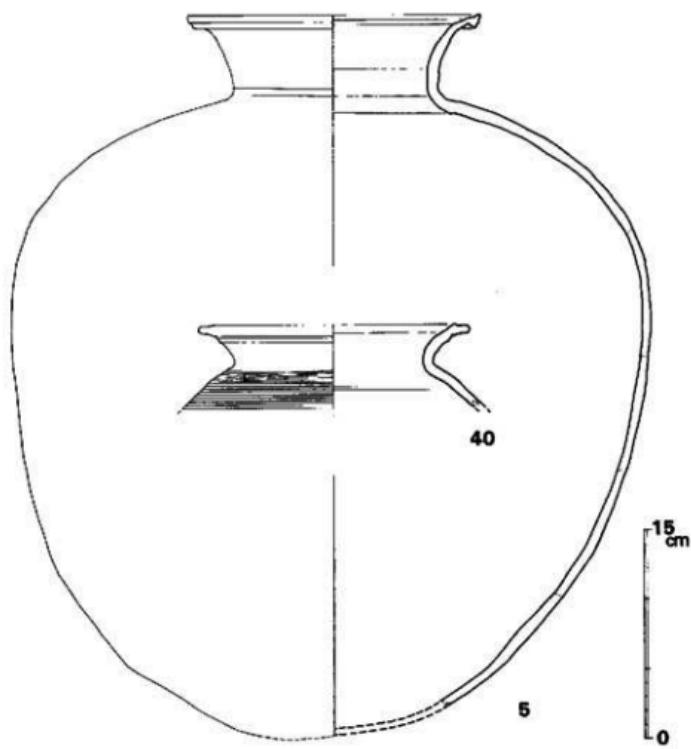


Fig.14 2号出土土器実測図(5) (縮尺1/4)

高環蓋 17は大井部外面の文様が特徴的である。ツマミの周囲から、カキ目・連続压痕・沈線文の順で施文する。なお、口唇端部は丸味をもたない。

高環 15は脚部に透を持たない。36も同様で、口唇端部がシャープなくつくり、37は接合しなかったが、同一個体の可能性が強い。

施 25は胴部のみ約1/2が出土した。

壺 40は肩部にカキ目を施す。砂粒をあまり含まず、焼成は普通で青灰色。

甕 5・13以外にも、別個体のものが若干出土している。

陶質土器 (Fig.15)

8は完形で、口径14.2cm・胴部最大径22.0cm・器高20.8cmを測る。口縁部は丁寧なヨコナデを施し、胴部とは明瞭な段を有す。口縁は口唇状を呈し、上方はやや丸味をなすが下方はシャープに仕上げる。胴部器外は、上部を横方向にナデる。中部上位はタタキ整形。下位はヘラ削りで面取り整形し、その後で底部から方射状にタタキで一挙に仕上げる。胴下部に1条のや

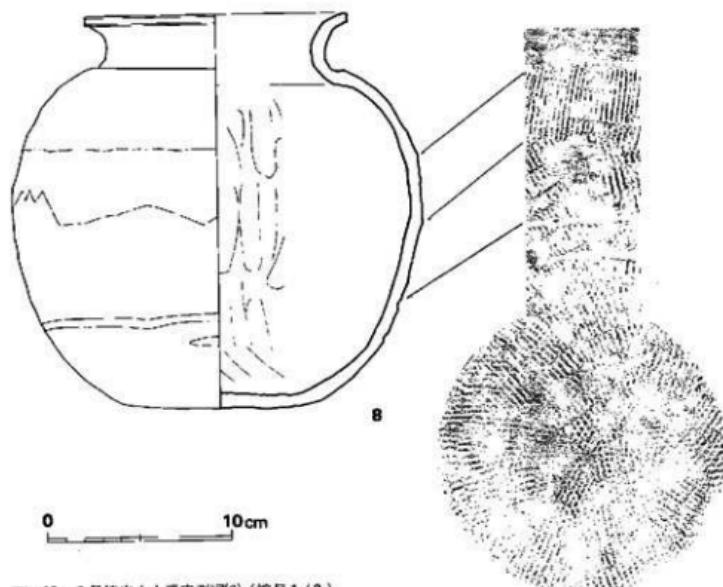


Fig.15 2号墳出土七器実測図(6) (縮尺1/3)

や幅広の沈線を最後に1条施こすが、収束せず一部2条となる。底部外面はほぼ水平で、その中心部でタタキ痕が放射状に交差する。胴部内面は上部をヨコナデ、中部をナデ、下部から底部にかけて押えナデ整形する。その後で、下半部から上部にかけてヘラ削りを施こすが、下半部の方が密である。底部も一部ヘラ削りを施す。砂粒をあまり含まず、焼成は良く青灰色。

Fig 番号	土器 番号	口径 端部 径	受け 部外 径	器 高 (底部+脚部)	たち 上がり 高	たち 上がり 長	ヘラ 記号	胎 土	焼成	色 調	器面残	備 考	
10	1	11.4		5.0		最大径12.6	無	精製胎土	良	茶褐色	完	形	器内丸出し、外ヘラ削り 器内ヘラ研ぎ、外不明
	3	11.3	12.0	4.2	1.3	1.2	*	*	*	*	*	*	
	4	11.5	12.3	4.3	1.3	1.4	*	*	*	*	*	強	
	15-19	11.6	13.0	(4.4+3.8)	0.9	1.2	*	小砂粒を含む	普通	灰青色	*	弱	内底ヨコナデのまま
11	23	10.0	11.3	3.6	0.6	0.6	有	砂粒をあまり含まぬ	良	青灰色	完	形	内底ナデ
	27	10.8	12.2	約4.3	1.0	1.3	*	*	普通	灰青色	少	弱	内底不明
	28	10.2	11.6		1.1	1.3	*	*	*	*	*	強	*
	29	10.7	12.4	約4.3	0.8	1.2	*	*	良	古灰色	*	強	*
12	35	11.1	12.2	4.5	1.2	1.5	無	*	*	*	*	半完形	内底青褐色タタキ痕
	36	12.3	13.8	(4.2+?)	1.0	1.3	*	砂粒を含む	*	*	*	弱	内底ナデ
	39	12.0		4.7	最大径13.0	*	精製胎土	*	茶褐色	*	弱	器内ヘラ研ぎ、器外不明	

(単位: cm)

Tab. 1 ハサコの宮2号埴出土器・环身一覧表(註1)

Fig 番号	土器 番号	口径 端部 径	天井 部外 径	器 高 (底部+脚部)	体部 高	ヘラ 記号	胎 土	焼成	色 調	器面残	備 考	
10	2	13.0	12.3	4.8	3.0	無	精製胎土	良	茶褐色	完	形	器内ヘラ研ぎ、天井外部ヘラ削 天井部内面ナデ
	16	13.3	12.7	4.8	1.8	有	砂粒をあまり含まぬ	普通	灰褐色	少	弱	
	7	13.0	12.4	4.5	2.0	無	小砂粒を含む	良	古灰色	完	形	天井部内面ヨコナデのまま
	17	12.8	12.3	(4.8+0.6)	2.4	*	砂粒を含む	*	*	*	少	天井部内面ナデ
11	22	11.8	11.6	4.2	1.8	有	砂粒をあまり含まぬ	*	*	*	弱	*
	26	13.1	12.1	4.0	1.8	*	*	*	*	*	弱	*
12	30	12.4	12.1	3.9	1.5	無	砂粒を含む	*	*	*	弱	天井部ナデ
	31	12.8	12.8	約4.2	1.3	*	小砂粒を含む	普通	灰青色	少	弱	*
	32					*	*	良	青灰色	少	片	*
	33					*	*	*	*	*	少	*
	34	11.5	約1.9			*	*	*	*	*	少	*

(単位: cm)

Tab. 2 ハサコの宮2号埴出土环身一覧表(註1)

ガラス小玉 (Fig.16-1~6)

いづれもコバルト・ブルーで、6個の平均は長径×短径×厚さ×孔径で 8.5×8.0×6.0×1.75cmを測る。

ガラス練玉 (Fig.16-7、巻頭図版)

全体に淡乳白色を満びている。茶褐色のガラス胎地の外表面に6種の色調を持ったガラスを巻きつけて練り上げ、その文様は波状を呈す。この波状文は、一方が5連の波状文で1周するのに対し、他方は8連の波状文で1周する。5連文から8連文の順でその色調を記す。

5連文……(淡褐色)→茶褐色地→淡白青色→青色→赤茶色→淡緑色→淡白青色→青色→淡白青色→青色→(淡褐色)を呈す。最後の淡褐色の上部は5連で、下部は8連の波状をなす。次にこの淡褐色も含めて

8連文……淡褐色→茶褐色地→青色→淡白色→青色→茶褐色地→(淡褐色)→茶褐色地→(淡褐色)→茶褐色地→青色→淡白色→青色→茶褐色地→(淡褐色)の順である。

上記の構成は、やや幅広の(淡褐色)を呈する波状文で区分されている。外径×孔径×厚さで 18.8×7.0×17.0mmを測り、孔は巻きつけた円棒の抜き痕の為、両端および中央部共に同様である。

以上のとおり、当墳は著しい盗掘を受けており、石室の構造は不明確で、石室内からの原位置を保った遺物の出土もない。しかし、墳丘の構造や、主体部外での遺物の出土状態に留意すべきものがある。

墳丘構造 主体部裏込埋土を含めて墳丘の完成までには、少なくとも4段階があることが土層断面図から明らかとなった。調査時に今少しの時間的余裕があれば、墳丘の全面発掘をされたものをと痛感する。

遺物出土状態 墓道東部で土師器のみの一群が、杯類を中心に出土し、墳丘南西部で各種の須恵器群と陶質土器が出土している。上述第4段階で埋められた後者は墳丘築造時の祭祀を示し、前者は葬送時の祭祀であろう。南西部周溝埋土中からの大甕の破片は後者の大甕と接合したが、ミニチュアの横瓶の周溝床面上からの出土は、後者からの流入とするよりも、周溝内へも祭祀行為が意識的になされたことを示している。このことは、北東部周溝内での杯蓋のみ

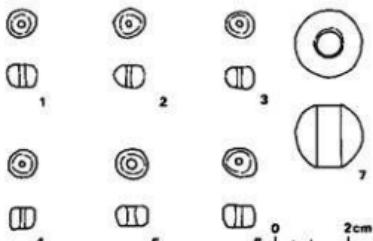


Fig.16 2号墳出土ガラス小玉・練玉実測図
(縮尺2/3)

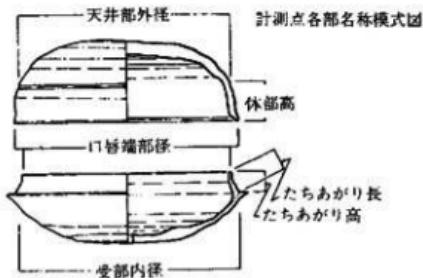
の検出からも言えよう。

遺物 菓道東部一括出土の上師器は、出土状態に加えて、杯蓋2の特徴が埴縫出土の須恵器杯蓋7に共通するものがあり、第1次葬送ないし、それに近い時期に属するものであろう。埴縫南西部一括出土の須恵器は、杯蓋7が、天井部と体部の屈折部に1条の沈線を施こし、口唇端部が段状を呈するなどの、小川氏編年(註2)のIII B式でも若古い特徴を残す。堀身12の底部へのヘラ削りにもその残影を認める。しかし、共伴の堀身16や高杯15はIII B式である。このことから、杯蓋7も含めてIII B式に属すると考えてよいであろう。なお、陶質土器8の出土は、この期の朝鮮半島移入土器の類例に新たな資料を加えたことになる。南西部周溝内の出土須恵器は、杯身23がIV A式で、同攪乱土層内出土はIII B式、北東部周溝内出土も同様にIII B式である。その他の出土須恵器は、杯蓋32、33がIV A式に属するものであろう。ガラス小玉は6個が埴縫の排土中から出土しているが、その数量が当初からの姿ではあるまい。また鉄器類はその小残片が埴縫中から出土したが、その種類は不明である。ガラス練玉は、その出土状態が若干危惧されるが、孔外端部の風化が認められる。類例として、奈良県の新沢千塚126号埴縫出土の練玉や福岡県の「こうしんのう古墳」出土の椎木玉がある(註3)。本例の特徴は、外径がその孔径と共に大きく、また練り上げた文様が精緻で、色調の種類が大きい。陶質土器の出土をみているので、古墳に伴う遺物の可能性を考慮してもよいであろう。

最後に、本墳の築造された時期は上述のことからIII B式の6世紀後半であり、その後少なくともIV A式までは葬送が継続したものであろう。

註

- Tab. 1・2 の計測点およびその呼称は福岡県教育委員会「南北バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第6集」1977年で使用した次の模式図のとおりである。堀身と杯蓋とのセット関係の場合蓋の口唇端先端部は身の受け部とたち上がり部との屈折点に位置させることが本来の姿であるから、その屈折点を以って受け部内径とし、通常の口縁径と区別した。



- 小田富士雄・柳田康雄「野添・大浦窯跡群」「福岡県文化財調査報告第43集」1970年
- 東京国立博物館「特別展観 古代東洋ガラス」1978年

(4) ハサコの宮4号墳

4号墳は大部分破壊されていたため、その構造については不明である。ここではわずかに残った墳丘擾乱土中から採集した須恵器について報告する。

壺(1・2) 両者ともに外側に強くふんばった高台を有するもので、1は口径13.5cm、器高4.5cm、2は口径14.1cm、器高4.6cmを測る。1・2ともに胎土は同質で、砂粒を多く含み、焼成は堅緻で灰黒色を呈する。また、外底部にはヘラ記号の一部が残っている、おそらく同窯のものと考えられる。

(5) 小 結

ハサコの宮古墳群は4基以上で形成されている。1基は谷を隔てたB地区の丘陵先端に、南北に並ぶ3基はA地区の丘陵上に造営されていた。この4基のうち実施したのは1・2号墳であるが、出土した遺物から1号墳の方が先行し、6世紀中葉頃と考えられる。2号墳は、出土する遺物に数は少ないが1号墳と共通する須恵器の壺類を有していることから、1号墳造営後まもなく築造されたと思われる。

2号墳は出土遺物中に、陶質土器を含み、また、出土位置が溝中ではあるが、ガラス製のねり玉が発見されたことは注目される。

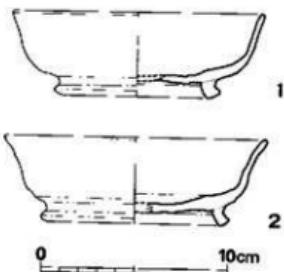


Fig.17 4号墳出土土器実測図(縮尺1/2)

2 北车田 1号墳

弥生時代の墳墓群を検出中に発見した古墳で、墳丘、石室の石材も完全なまでに除去され、幸うじて、石室掘り方と樋石のみが残存していた。

石室掘り方は略 S-19°30'-Eで、北に開口する古墳と考えられる。床面中央に浅い凹みがある他、腰石の掘り方もなく、また石室内からの出土遺物もなく発掘当初は古墳かどうか疑われだが、まわりに径約7.8mの須恵器を出土する溝を検出したことから、かろうじて古墳として捉えられたものである。出土須恵器から古墳時代後期のものと考えられる。

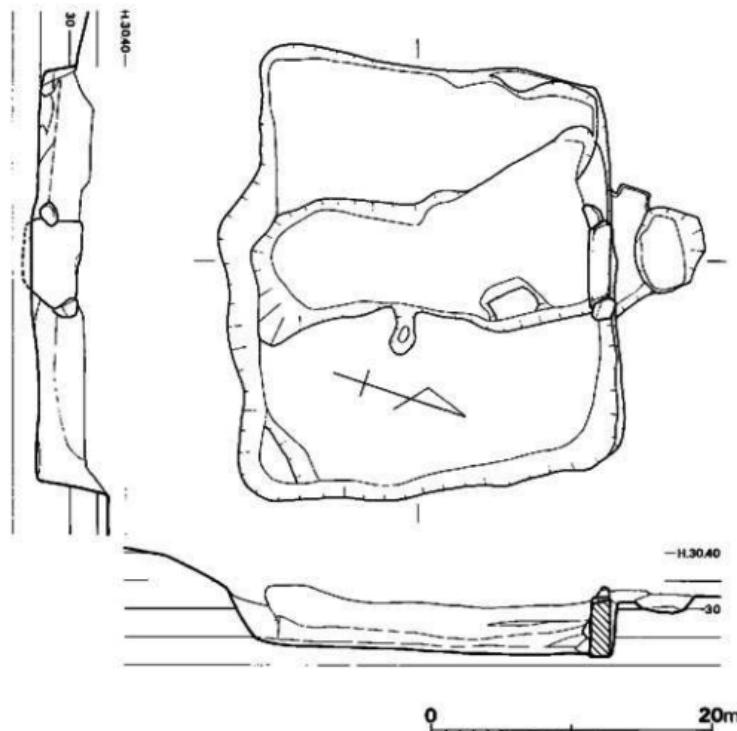


Fig.18 1号墳石室実測図（縮尺1/40）

3 松尾口古墳群

(1) はじめに

松尾口古墳群は北牟田遺跡の西方の丘陵上に位置し、7基の古墳と1基の横穴墓からなる。1号墳と1号横穴は丘陵先端近くに、2号墳は中程に、3・4・5号墳は丘陵基部、6・7号墳は1～5号墳がのる丘陵から派生する小丘陵上に築造されている。このうち、土取り作業により調査対象となったのは、1・4号墳と1号横穴墓である。

(2) 松尾口1号墳

南東にのびる丘陵の先端近くの南側斜面に築造されている。

墳丘

墳丘盛土は完全に削平されている。北・東側の周溝が残っており、それから復原すると径は約30mの大きな円墳となる。周溝は東側部分で、1号横穴のため東方に分岐する。

石室 (Fig.19, PL.107)

石室は、主軸をN-18°-Wにとり、玄室の一部と羨道・墓道部を欠失している。地山を深い所（北）で約1.3m掘り下げ、平坦にした墳底に花崗岩を用いて胴張りの石室を構築している。控え積みは全く認められず、また裏込めの上も突き固めた状態ではなかった。石室の幅は奥壁側で1.85m、復原最大幅は2.5mを測る。石室前面の大きな石は西側の袖石が横転したものと考えられる。

遺物出土状態

出土した遺物は須恵器、土師器、金環2、銀環1である。このうち、金環1は石室前面、銀環は玄室内から出土したが、いずれも原位置を動いていた。比較的まとまって出土した地点は周溝北側の溝中で、完形の須恵器壺蓋・身が各1、壺が3、ほぼ完形の壺蓋が1、光程の壺身が1、完形の土師器壺、高环が各1出土した。恐らく、石室北側の墳丘上で祭祀を行ったものが、溝があいている間に落ち込んだものと考えられる。

遺物

土器 (Fig.20, PL.108)

須恵器

全て回転ヘラ削りを施し、ロクロ回転方向は右まわりである。8は底部を欠失しているためヘラ記号の有無については不明であるが、他は全てヘラ記号を施している。

壺蓋 (1・2) 口縁部は丸く、体部と天井部との境は不明瞭である。口径12.4cm、12.3cm

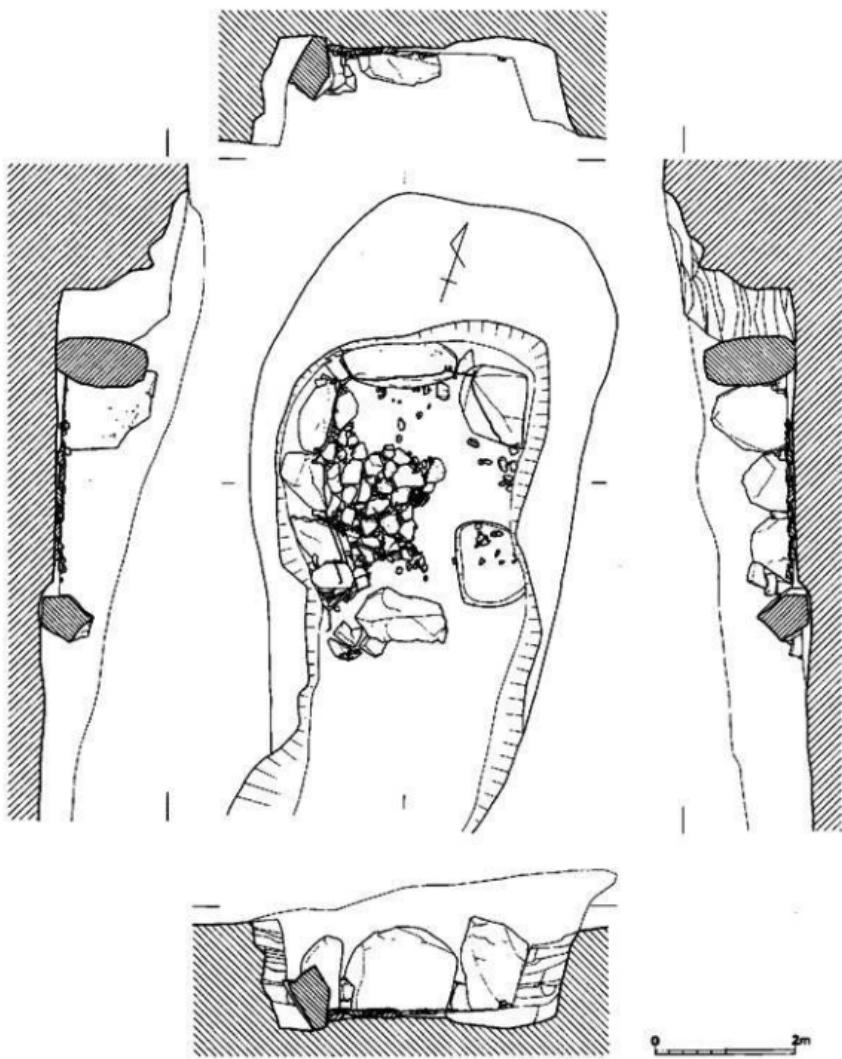


Fig.19 1号填石室平面图 (缩尺1/40)

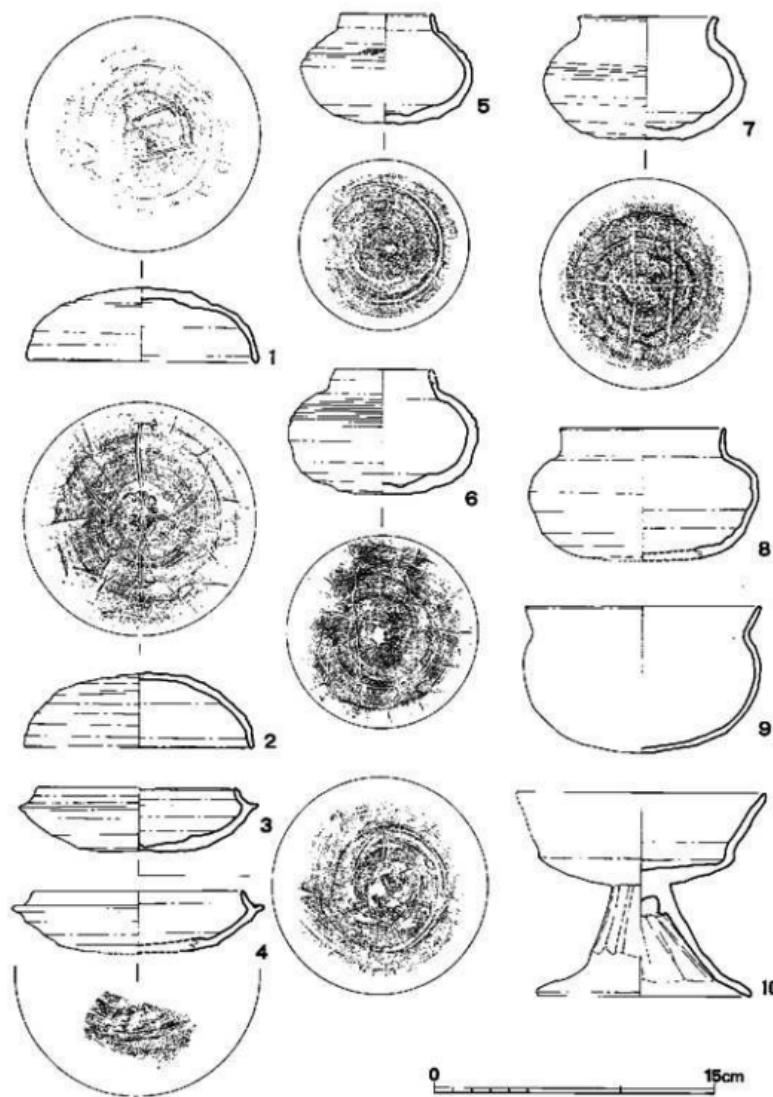


Fig.20 1号墳出土土器実測図 (縮尺1/3)

器高3.9cm、3.5cmを測る。焼成は堅緻で青灰色を呈する。

杯身（3・4） たち上りは内傾し低い。たち上りと内傾斜面との境に不明瞭であるが鈍い棱線が入る。3は完形品で10.1cm、器高3.4cmを測る。4は元程からの復原で、口径10.2cm、器高3.3cmを測る。両者とも焼成は堅緻で3は灰青色、4は灰黒色を呈する。

壺（5～8） 近代の溝から出土した7以外は、北側周溝中から出土した。5は肩部に浅い沈線を2条めぐらし、その間に帶状工具による刺突文を施している。口径は5.0cm、(5.2)cm、7.5cm、8.8cm、器高は5.9cm、(6.7)cm、6.6cm、(7.1)cm、胴部最大径は9.2cm、10.2cm、10.8cm、12.3cmを測る。

土師器

壺（9） 非常に薄い器壁を有するもので、口縁部はヨコナデ、体部外面は不定方向のヘラ削り状のミガキを施し、器面調整を行っている。内面は風化が著しく調整は不明。胎土は精良で、ほとんど砂粒は含まない。淡赤褐色を呈する。口径12.5cm、器高7.9cm、胴部最大径12.7cmを測る。

高杯（10） 脚筒部外面は縱方向に削ることにより面取りを行い、内面は横方向に削りを止めながら強く削っている。胎土は精良で、殆ど砂粒を含まない。若干赤味を帯びた黄褐色を呈する。口径12.9cm、器高11.0cmを測る。

项環（Fig. 21）

金環 径は1.80×1.85cm、断面は0.4～0.55cmを測る。

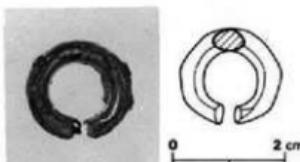


Fig.21 1号墳出土金環および実例図
(縮尺1/1)

（3）松尾口1号横穴

1号墳西側の周溝に接続して、東西の溝を掘削し、その北壁に横穴を穿って横穴墓としている。処女墓であったが、調査中に天井の一部が落下した。

主体部（Fig.22, PL. 109）

主軸をN-53°-Eにとる。溝の中位まで削平し、下端幅約0.55mを測る平坦な面をつくり狭道としている。玄室天井は丸く、ドーム状を呈している。幅1.5m、復原高0.5mを測る。狭道部に拳大から人頭大の花崗岩を乱石積みして、玄室を閉塞している。

遺物出土状態

玄室から鉄製品のみが出土した。入口近くに、主軸に対して直交するように直刀1、剣1、鎌・刀子を数本、西側に鎌・刀子数本、東側に刀子1が出土した。大刀、剣以外は不注意により紛失したので、鎌と刀子の正確な数は不明である。

遺物（Fig.23）

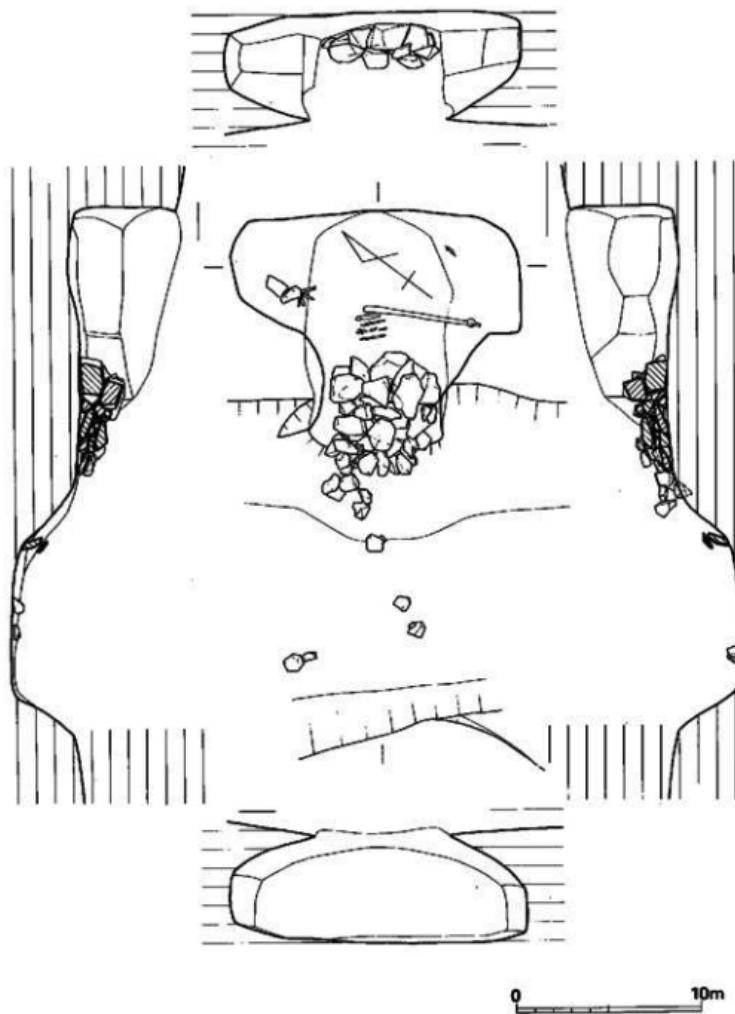


Fig.22 1号横穴実測図 (縮尺1/30)

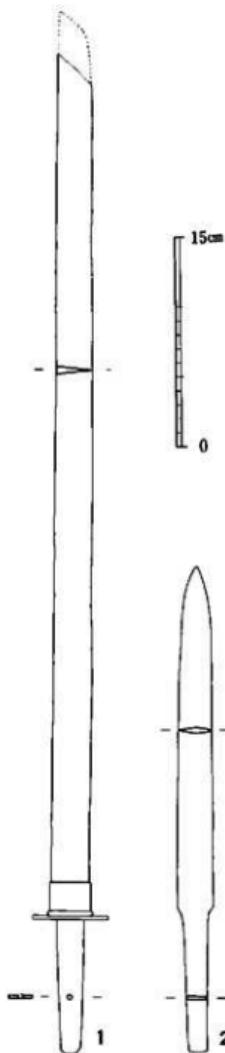


Fig.23 1号横穴出土鉄器復原
実測図 (縮尺1/4)

直刀と剣を報告するが錆化が著しいので、報告する凶および数値については、面として残っている部分からの復原である。

直刀（1） 厚さ0.5cm、刀幅25cm、刀長 $61+\alpha$ cm、全長 $71.3+\alpha$ cmである。鍔の大部分が残存しており、径5.4cm、厚さ2.5cmを測る。目釘穴は径0.4cmを測り茎尻から4.0cmの所にある。

剣（2） 厚さ4mm、幅は中央部で2.4cm、関部で2.6cm、刀長24.4cm、全長34.6cmを測る。関の部分は錆のため開示したように斜めになるかどうか定かでない。目釘穴は不明。

（4）松尾口4号墳

東南に延びる丘陵の基部に3・4・5号墳が構接して、築造されている。

墳丘 (Fig.25)

南側斜面に築造されているため、盛土は流失し、表土を除去すると、すぐに地山（花崗岩バイラン上）に達した。石室西側に、谷に向って大きな凹みがあるが、盛土が流失しているため、後世の自然・人為的作用のために依るものか、填丘を造るためのものか判断できなかった。

石室 (Fig.26, PL. 110)

地山を0.95m掘り下げ、その壙底に小型の複室横穴式石室を構築し、南へ開口する。主軸はN-4°30'-Wである。墓壙は、不整長方形で、玄室中央部で幅2.73mを測り、前室中央部から狭道にかけて狭ばまる。

前室東袖石北端から奥壁までは2.96mを測る。

玄室は奥壁部が広く1.78m、玄門側では1.44mと狭い。長さは1.81mを測る。玄門袖石間は1.3mである。前室は、長さ3.8m、幅は玄門側で1.26m、奥門側で1.31mを測る。狭道は幅0.58m、長さ0.76mで短い。この狭道の南側に短い墓道を設けている。

閉塞は、狭道部全体に行っており、まず奥門袖石部分4個石を並べ、かつ狭道入口部分に幅60cm程の大きな石を置

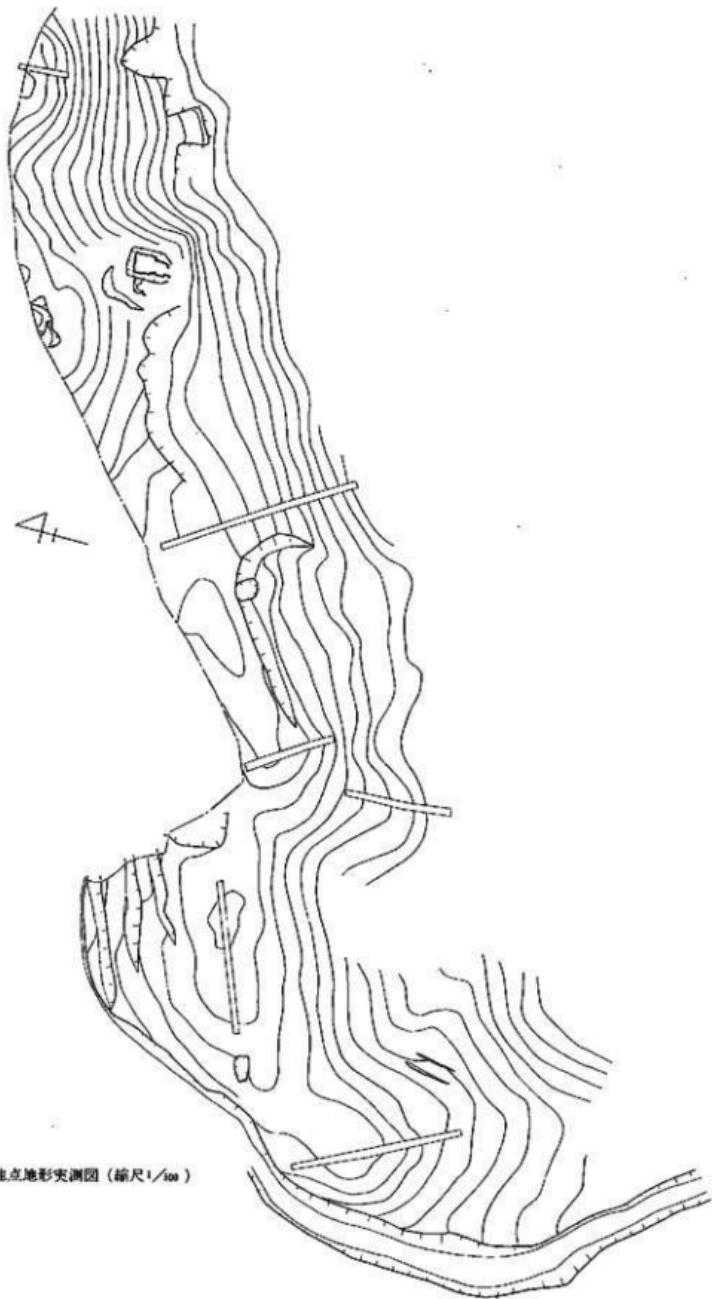


Fig.24 B地点地形实测图 (比例尺1/100)

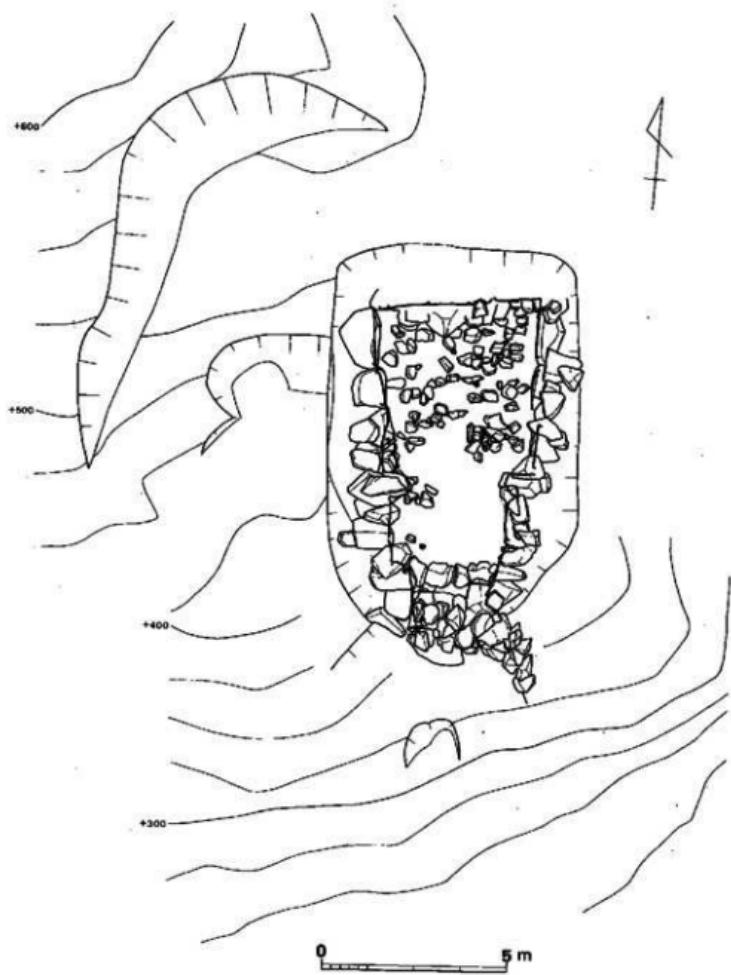


Fig.25 4号石室・地形尖測図（縮尺1/60）

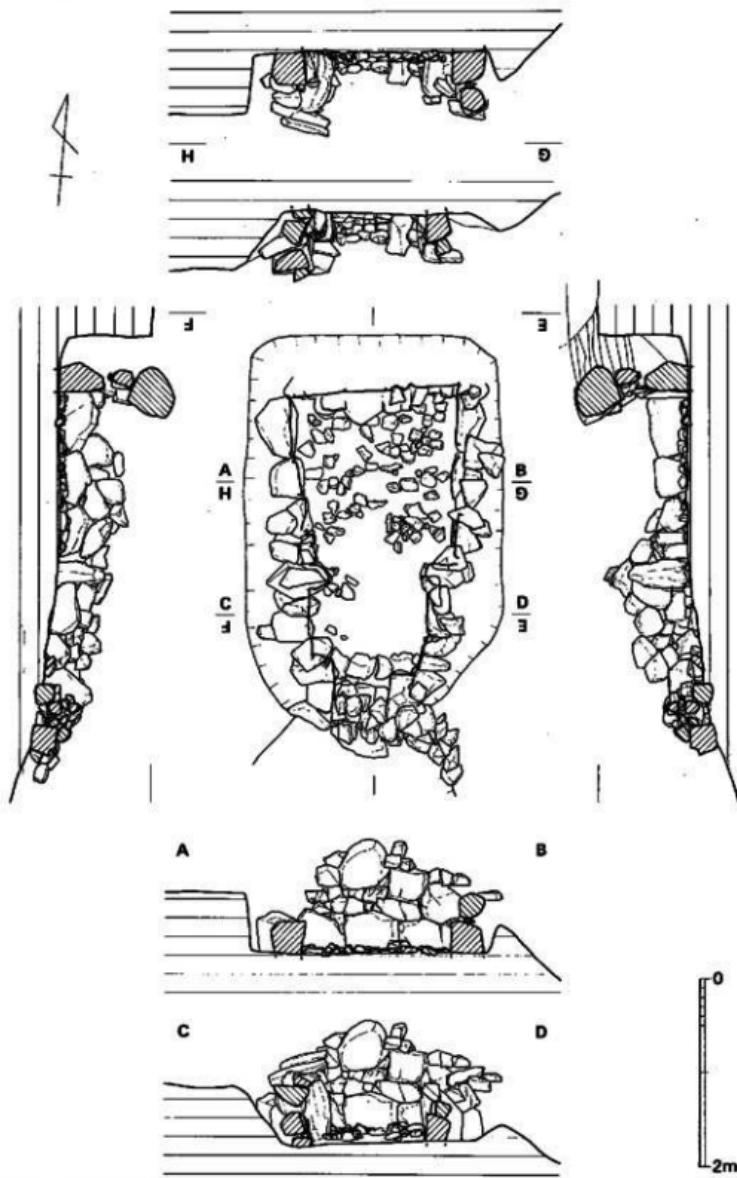


Fig.26 4号墳石室実測図 (縮尺1/60)

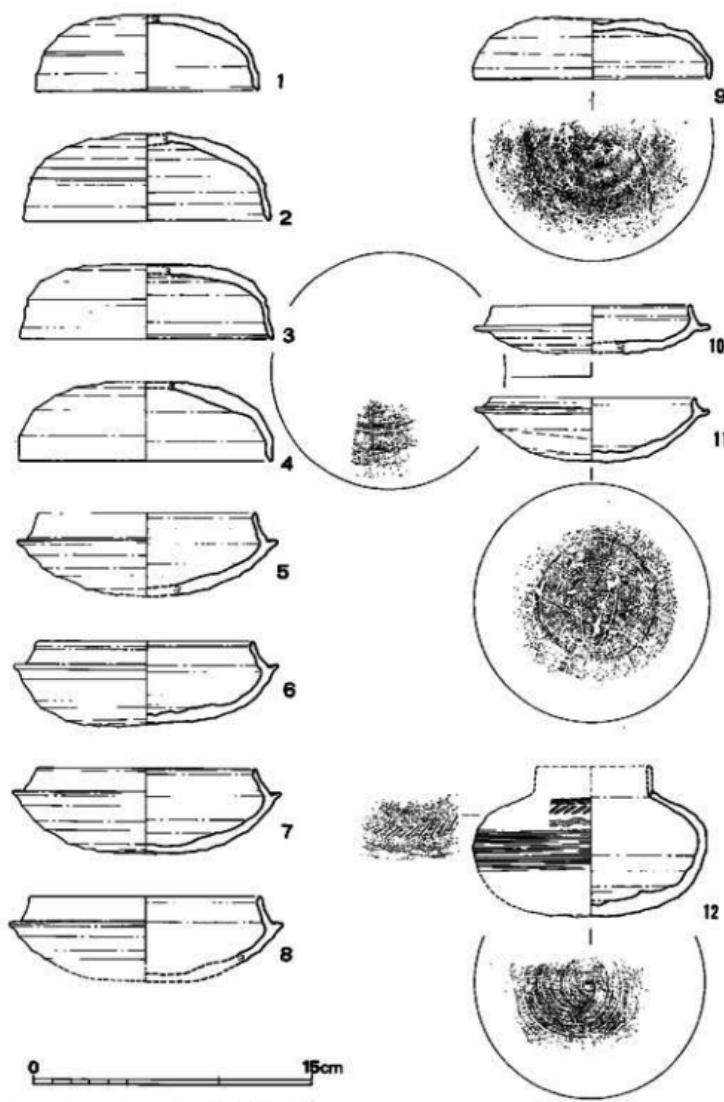


Fig.27 4号墳出土土器実測図（縮尺1/3）

きその間に石を詰め、その上に自然石を略平積みしている。

遺物出土状態

須恵器と金環が出土した。石室内から出土したものは、狭道部床面から出土した金環Ⅰのみで、他は全て、墳丘のまわりに散在して出土した。

遺物 (Fig.27, PL. 111)

須恵器

全て、天井部および底部は回転ヘラ削りを行っている。

壺 (1~11) 蓋・身ともに形態上2つに別れる。

I類 口縁端部内面が平坦な面をなすか、沈線がめぐるものをI類とする。

壺蓋 (1~4) 4を除いて体部と天井部との境は明瞭であり、特に3は鋭い。口径は12.0~13.8cm、器高4.1~4.7cm。

壺身 (5~8) たち上りは内傾するが高く1.2~1.4cmを測る。口径は11.6~12.4cm、器高は4.5~4.6cmを測る。

II類

壺蓋 (9) 口径12.2cm、器高3.2cmを測る。内天井部に4本線のヘラ記号を有する。

壺身 (10~11) 底部にヘラ記号を有している。10は3程度の細片からの復原なので正確な法量は知りえないが、口径10.6cm、器高2.6cmを測る。11は完形品で、口径11.0cm、器高3.4cmを測る。

壺 (12) 脊部が約1/2程残存する。肩部に2条の櫛描波状文を施し、その間にヘラによる刺突文を施している。脊部最大径以下はカキ目を行った後に、脊部下半から底部にかけて回転ヘラ削り調整をしている。残存高6.6cm、脊部最大径12.5cmを測る。底部にヘラ記号を有する。壺1類に伴うものと考えられる。

(5) 小 結

松尾山遺跡の調査は古墳2基、横穴墓1基を検出したが、横穴墓の発見は、小郡周辺地域では初めての発見であった。1号墳の周溝を設けた後に、横穴のための溝を掘るといった地業の先後関係はあるにしても、同時期と考えて良いあり方である。しかし、石室の中に副葬品を入れるかわりに横穴を掘ってその中に入れた可能性もある。だがその可能性は、横穴式石室を有する古墳の場合、副葬品を石室内に持ち込むのを通例とし、また、横穴出土遺物の出土状態は玄室入口および東端に整然と並べられ、中央には配されていないことから、遺体を安置した後に副葬品を入れたものと考えられる。4号墳は小型ながら、立派な複室を有する古墳で、これも小郡周辺地域での発見例は少ない。4号墳出土土器は原位置を保ったものがないので、北に接する5号墳に伴うものも含んでいる可能性を有している。

II 歴史時代の遺構と遺物

1 北牟田遺跡中世古墓

(1) はじめに

北牟田中世古墓は、種畠場遺跡の保存に伴いその代替地として、弥生時代の生活遺構とともに調査されたものである。

土取前の分布調査では、小規模な古墳の可能性があるとして把握された。調査の結果、2号古墓表土直下から宋銭・明銭が発見され、また、4号古墓盛土基底部から龍泉窯系の青磁が出土するにいたり、これは中世古墓であると判断された。

(2) 1号古墓 (Fig.28・29, PL.112)

墳丘

墓域のための周溝を掘り、その土を直ちに、すぐ近くに盛り上げ、墳丘の一部としていることが、南側の土層で観察でき、他の部分は褐色系の粘質土を積み上げている。南北幅は周溝内側の肩から肩まで8.1mを測る。

主体部および古墓に伴う遺物は発見されなかった。

(3) 2号古墓 (Fig.28・29, PL.112)

墳丘

旧表土を除去することなく盛土している。この旧表土の上に、黒色土（表土）と褐色土（地山）とを互層に積み上げて墳丘としている。墳丘は6.0×6.5mを測る。

周溝は、南側が斜面になっているため、四周にはまわらない。

主体部

調査した5基の古墳のうち、唯一主体部と考えられる痕跡を墳丘中央部付近で検出した。しかし、主体部検出のため墳丘を半分除去した後に断面から発見したため、その平面規模については明らかでない。まず旧表土に、約5cm程の浅い壙を穿ち、その底に薄く炭を敷いている。この壙の上の層が若干乱れていることから、この浅い壙に木棺を入れて棺としたのかも知れない。

遺物

表土上の褐色土層上面から「□和元宝」「紹熙元宝」「永樂通寶」の3枚が出土した。

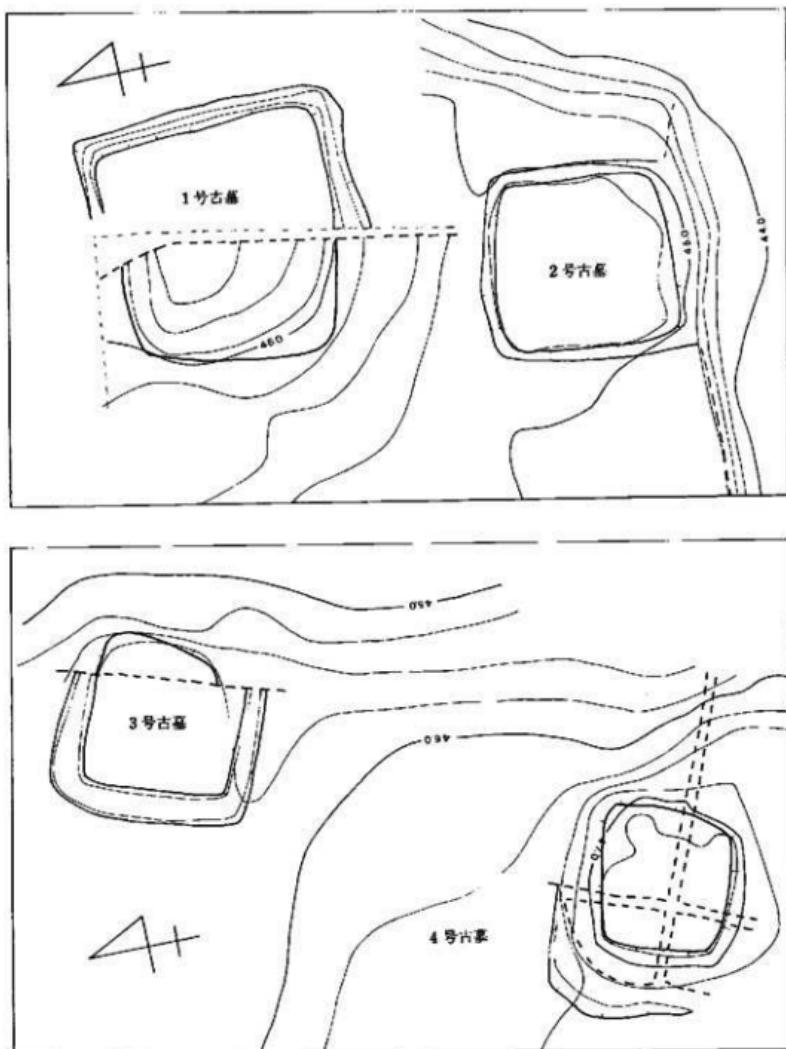


Fig.28 1~4号古墓遺構・地形実測図(縮尺1/200)

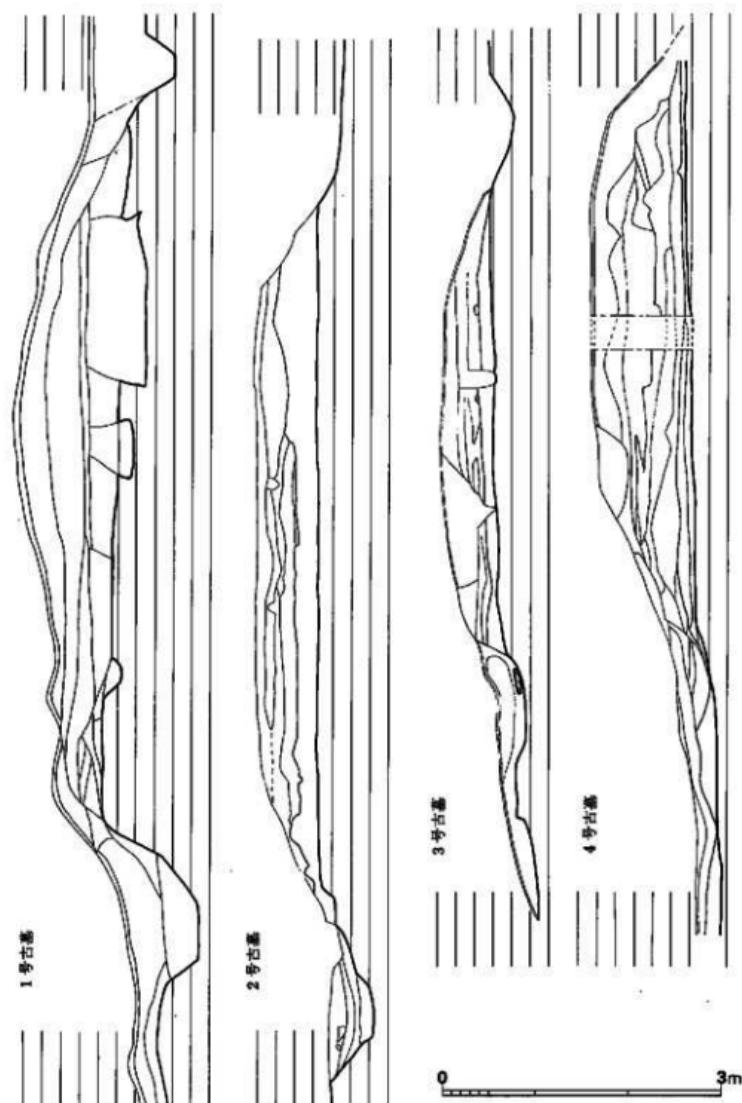


Fig.29 1~4号古墓填丘断面图 (缩尺1/60)

(4) 3号古墓 (Fig.28・29)

墳丘

旧表土の上にまわりの表土を2層積みその上に地山の褐色土を積みあげている。完掘していないので、周溝は四隅にめぐるかどうか明らかでない。周溝内側肩から肩までの南北幅は5.4mを測る。

主体部・遺物ともに検出できなかった。

(5) 4号古墓 (Fig.28~30, PL.112)

墳丘

1号墳と同様に周溝掘穿の土を直ちにすぐ内側に盛って、その後に内側に盛土したと考えられ、周縁が高く、内側が凹み土層になっている。旧表土は除去していない。

主体部は検出できなかった。

遺物

墳丘底部から青磁壺が1点出土した。約1/3程残存している部分から復原すると口径13.2cm、器高3.4cm、高台径6.9cmになる。外面に片彫による蓮弁を無難作に描き、また内面見込みに圓線を設け、その内側にスタンプで花文を描いている。灰白色の胎に黄色味をおびた緑色の釉をかけている。内外に大きな貫入がある。高台見込み部分には釉がなすことから、円筒状の焼き台に載せて焼成したものと考えられる。龍泉窯系の青磁で、15世紀頃のものと思われる。

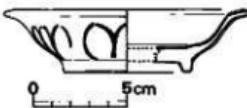


Fig. 30 4号古墓出土青磁壺測図
(縮尺1/3)

(6) 5号古墓

墳丘

約1m強盛り上している。旧表土の上に表土まじりの土を積みあげ、上部には地山の上を盛っている。墳丘は南北4.9mを測り、1~4号と同様に平面形は方形である。

(7) 小 結

北牟田丘陵上で検出した中世古墓は計5基である。この5基は全て方形の周溝を有し、高さ1m内外の墳丘を有している。内部主体は2号墓でみられたように、浅い墓壙の中に木棺を直葬したものと考えられ、検出困難なためか、他の4基は発見できなかった。

このような周溝をめぐらす古墓の例は最近除々にではあるが、増加している。この周溝をめ

ぐらす古墓にも3つの埋葬形態が認められる。

- 1 墓域設定のための周溝掘りと同時に地山に墓壙を設ける例。
- 2 盛土の上に多くの小区画を設け、焼骨を置く例。
- 3 本道跡のように、旧表土の上に浅く墓壙を設け木棺(?)直葬する例。

北部九州では、1の例は千渕遺跡(註1)、飯氏鏡原遺跡(註2)、千塔山遺跡(註3)、黒部古墳群(註5)の5例を数え、遺物が共伴し、年代の知れるものでもっとも古期に属するものは千渕遺跡で平安時代中期に考えられ、もっとも新しい例は千塔山遺跡で平安時代末から鎌倉時代初めである。

2の例は、皆見の範囲では1遺跡のみで、針摺遺跡(註6)である。未整理のため、正確な年代の確定はできないが、室町時代のものと考えられる。

3の例は、当遺跡のみで2・4号墳出土遺物から15世紀頃と思われる。

このようにみると、同じように周溝を有するものでも、その埋葬形態により時期差を見い出すことができる。

詳細な内容については資料の増加を俟ちたい。

註

1. 橋口達也氏の御教示による
2. 福岡県教育委員会『今宿バイパス関係埋文化財調査報告 第2集』1971年
3. 千塔山遺跡調査会『千塔山遺跡』1979年
4. 酒井仁夫氏の御教示による
5. 宮小路賀宏氏の御教示による

図 版

図 版 目 次

上 卷

北牟田遺跡

- PL. 1 (1) 三沢丘陵と宝満川航空写真(西より)(西谷正撮影)
(2) 三沢丘陵航空写真(北より)(西谷撮影)
- PL. 2 (1) 北牟田遺跡・ハサコの宮遺跡航空写真(北西より)(西谷撮影)
(2) 北半遺跡群(北より)(前川誠洋撮影)
- PL. 3 (1) 10号住居跡(北より)(酒井仁夫撮影)
(2) 11・12・22号住居跡(北より)(酒井撮影)
- PL. 4 (1) 6号住居跡(東より)(前川撮影)
(2) 6号住居跡内木製櫛出土状況(西より)(酒井撮影)
- PL. 5 (1) 16・26号住居跡(北より)(前川撮影)
(2) 20号住居跡(北東より)(山本信夫撮影)
- PL. 6 (1) 21号住居跡(北より)(前川撮影)
(2) 25号住居跡(北西より)(前川撮影)
- PL. 7 (1) 5号住居跡(南西より)(山本撮影)
(2) 9号住居跡(南東より)(山本撮影)
(3) 9号住居跡(北西より)(山本撮影)
(4) 34号住居跡炉内支脚出土状況(山本撮影)
- PL. 8 3・5・6号各住居跡出土土器(岡紀久夫撮影)
- PL. 9 10・11号各住居跡出土土器(岡撮影)
- PL. 10 12・16号各住居跡出土土器(岡撮影)
- PL. 11 17号住居跡出土土器①(岡撮影)
- PL. 12 17号住居跡出土土器②(岡撮影)
- PL. 13 17号住居跡出土土器③(岡撮影)
- PL. 14 17号住居跡出土土器④(岡撮影)
- PL. 15 17号住居跡出土土器⑤(岡撮影)
- PL. 16 17号住居跡出土土器⑥(岡撮影)
- PL. 17 17号住居跡出土土器⑦(岡撮影)
- PL. 18 17号住居跡出土土器⑧(岡撮影)
- PL. 19 18・20・24・25・32号住居跡出土土器(岡撮影)
- PL. 20 4・7・16・38・40号各貯蔵穴出土土器(前田次郎撮影)

- PL. 21 40号貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 22 52・62各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 23 62号貯藏穴出土土器①(前田撮影)
- PL. 24 62号貯藏穴出土土器②(前田撮影)
- PL. 25 76・79号各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 26 80・81・82・83号各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 27 85号貯藏穴出土土器①(前田撮影)
- PL. 28 85号貯藏穴出土土器②(前田撮影)
- PL. 29 85号貯藏穴出土土器③(前田撮影)
- PL. 30 86・89・90・91号各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 31 91号貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 32 93・94・95・96・97号各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 33 99・100・101・120号各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 34 103・104・107・109・121号各貯藏穴出土土器(前田撮影)
- PL. 35 (1) 打製石器
 (2) 挖器
- PL. 36 (1) 石核
 (2) 勾玉・磨製石器
- PL. 37 石庖丁
- PL. 38 (1) 石鎌・石鑿・偏平片刃石斧
 (2) 柱状块入石斧
- PL. 39 (1) 磨製石斧①
 (2) 磨製石斧②
- PL. 40 (1) 砧石
 (2) 磨石
- PL. 41 (1) 石製紡錘車・石製円盤
 (2) A・B 1類紡錘車
 (3) B 2・C類紡錘車
- PL. 42 (1) 投彈
 (2) A類土製円盤
- PL. 43 (1) B類土製円盤
 (2) C類土製円盤

ハサコの宮遺跡

- PL. 44 (上) 1号住居跡全景(東から)
(左下) 「炉」跡(北から)
(右下) P 4 柱根跡断面(南から)
- PL. 45 (上) 1号貯蔵穴(南から)
(下) 3号貯蔵穴(北から)
- PL. 46 (上) 4号貯蔵穴(北から)
(下) 5号貯蔵穴(北から)
- PL. 47 (上) 6号貯蔵穴(南から)
(下) 7号貯蔵穴(東から)
- PL. 48 1号(1)2号(3)3号(4・5)7号(6)貯蔵穴出土土器

松尾口遺跡

- PL. 49 (上) 松尾口遺跡A地点全景(東から—北車田遺跡から—)
(下) 松尾口遺跡全跡(西から)
- PL. 50 (上) 1号住居跡(南から)
(左下) 2号貯蔵穴(西から)
(右下) 1号貯蔵穴(西から)

中　　巻 北車田遺跡

- PL. 51 北車田遺跡B地点発掘調査区全景(南から)
- PL. 52 (上) D 2(南から)
(上) D 3(北から)
- PL. 53 (上) D 4(西から)
(下) D 5(南から)
- PL. 54 (上) D 6・7(北から)
(上) D 12・22(北から)
- PL. 55 (上) D 18(東から)
(下) D 24(西から)

- PL. 56 (上) D16・17(北から)
(下) D27・28(北から)
- PL. 57 (上) D22・23・24(西から)
(下) D39(東から)
- PL. 58 (上) D30・31・33・52・55・K33(西から)
(下) D29・30・31・33・51(北から)
- PL. 59 (上) D36(北東から)
(下) D41(北東から)
- PL. 60 (左) D12出土銅劍片
(右上) D48出土石劍片
(下) D48石劍片出土状態
- PL. 61 (上) K1 出土状態
(左下) K6 出土状態
(下) K6 細部合せ口の状態
- PL. 62 (上) K11-12(東から)
(下) K15・16(東から)
- PL. 63 (上) K13(東から)
(下) K18(西から)
- PL. 64 (上) K20(西から)
(下) D50・K24(東から)
- PL. 65 (上) K22(北から)
(下) K33(南から)
- PL. 66 (上) K26(西から)
(下) K27・D40(南から)
- PL. 67 (上) K29・30(東から)
(下) K32(北西から)
- PL. 68 (上) K35(西から)
(下) D48・K36(南から)
- PL. 69 (上) D41・43・47・K30・31(南から)
(下) K10・28・30・31・34・35・D41・43・47(北から)
- PL. 70 K6・K7・K18・K23
- PL. 71 K24・K26・K27
- PL. 72 K30・K31・K33

PL. 73 K34・K35・K22

PL. 74 K28・K29・K32・K36

PL. 75 (1) K4凸帯部断面

(2) K13口縁部断面

(3) K5上口縁部断面

(4) K5上凸帯上部に包埋された布片

PL. 76 (1) K27下口縁部断面

(2) K33下口縁部断面

(3) K34下口縁部断面

ハサコの宮遺跡

PL. 77 遺跡全景(南から)

PL. 78 D4全景及び側板压痕

PL. 79 (1) D4北側木口部

(2) D4南側木口部

PL. 80 (1) 上埴輪・木棺墓出土石鏡および石劍

PL. 81 (1) K5・K6出土状態

(2) K6によって切られたK7下襲

PL. 82 (1) K5出土状態

(2) D16・K18出土状態

PL. 83 (1) K8出土状態

(2) K8人骨出土状態

PL. 84 (1) K16出土状態

(2) K19出土状態

PL. 85 (1) K17出土状態

(2) K17人骨出土状態

PL. 86 第2次K2・K1・K2

PL. 87 K5・K7・K6

PL. 88 K8・K9・K11

PL. 89 K13下・K16下・K17・K18

PL. 90 K19下・K20下・K21・K22

PL. 91 K1・K10・K14・K23・K24

- PL. 92 (1) K 1 上口縁部断面
 (2) K 5 下口縁部断面
 (3) K 19 上口縁部断面
 (4) K 22 下口縁部断面

正 原 遺 跡

PL. 93 (1) K 2 出土状態

(2) K 4 出土状態

PL. 94 (1) K 5 出土状態

(2) K 6 出土状態

PL. 95 K 1 · K 2 · K 4

PL. 96 K 5 · K 6

下 卷

古墳時代 ハサコの宮古墳群

PL. 97 (上) 1号墳全景(西から)

PL. 98 (下) 1号墳墳丘・石室(南から)

PL. 98 1号墳出土土器

5号墳出土土器

PL. 99 (上) 2·3号墳全景(B地点から)

(下) 2号墳全景(南から)

PL. 100 (上) 2号墳全景(南から)

(下) 2号墳全景(上から)

PL. 101 (上) 2号墳墓道東側遺物出土状態(南から)

(下) 2号墳墓道東側遺物出土状態

PL. 102 (上) 2号墳墳裾南西部遺物出土状態(東から)

(下) 2号墳墳裾南西部遺物出土状態(南から)

PL. 103 2号墳墓道東側出土上師器(1~4)墳裾南西部出土須恵器(5~10)

PL. 104 2号墳周溝内南西部(1~6)北東部(7·8)排土(9)墳丘擾乱土(10)出土遺物

PL. 105 (上) 2号墳墳裾南西部出土陶質土器

(下) 2号墳墳裾南西部出土人形變形土器

北牛田遺跡

PL.106 (上) 1号墳全景(北西から)

(下) 東西大溝(東から)

松尾口古墳群

PL.107 (上) 1号墳石室全景(西から)

(下) 1号墳石室全景(南から)

PL.108 1号墳出土土器

PL.109 (上) 1号横穴全景(南から)

(下) 1号横穴遺物出土状態(北から)

PL.110 (上) 4号墳全景(南から)

PL.110 (左下) 4号墳石室全景(南から)

(右下) 4号墳石室全景(南から)

PL.111 4号墳出土土器

歴史時代

北牛田遺跡

PL.112 (上) 1号古墓全景(北から)

(左下) 4号古墓出土青磁

(右下) 2号古墓出土古錢



(1) 三沢丘陵と宝満川航空写真（西より）



(2) 三沢丘陵航空写真（北より）



北牟田→
遺跡

↑
ハサコの宮
遺跡
↑
北牟田遺跡

(1) 北牟田遺跡、ハサコの宮遺跡航空写真（南西より）



(2) 北半遺構群（北より）



1. 10号住居跡（北より）



2. 11・12・22号住居跡（北より）



1. 6号住居跡（東より）



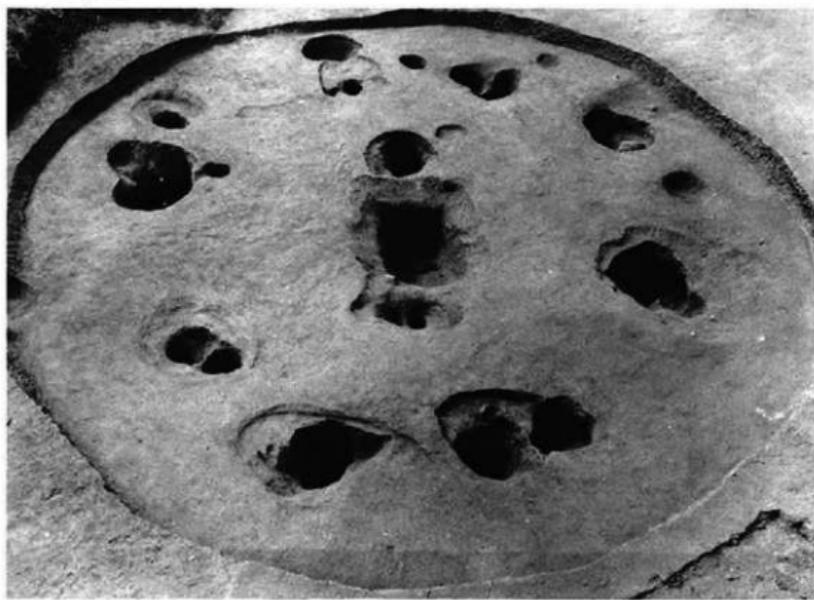
2. 6号住居跡内木製鋤出土状況（西より）



1. 16号・26号住居跡（北より）



2. 20号住居跡（北東より）



1. 21号住居跡（北より）



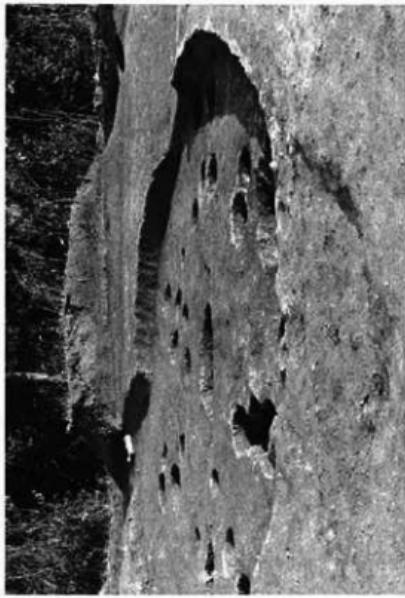
2. 25号住居跡（北西より）



1. 5号住居跡（南西より）



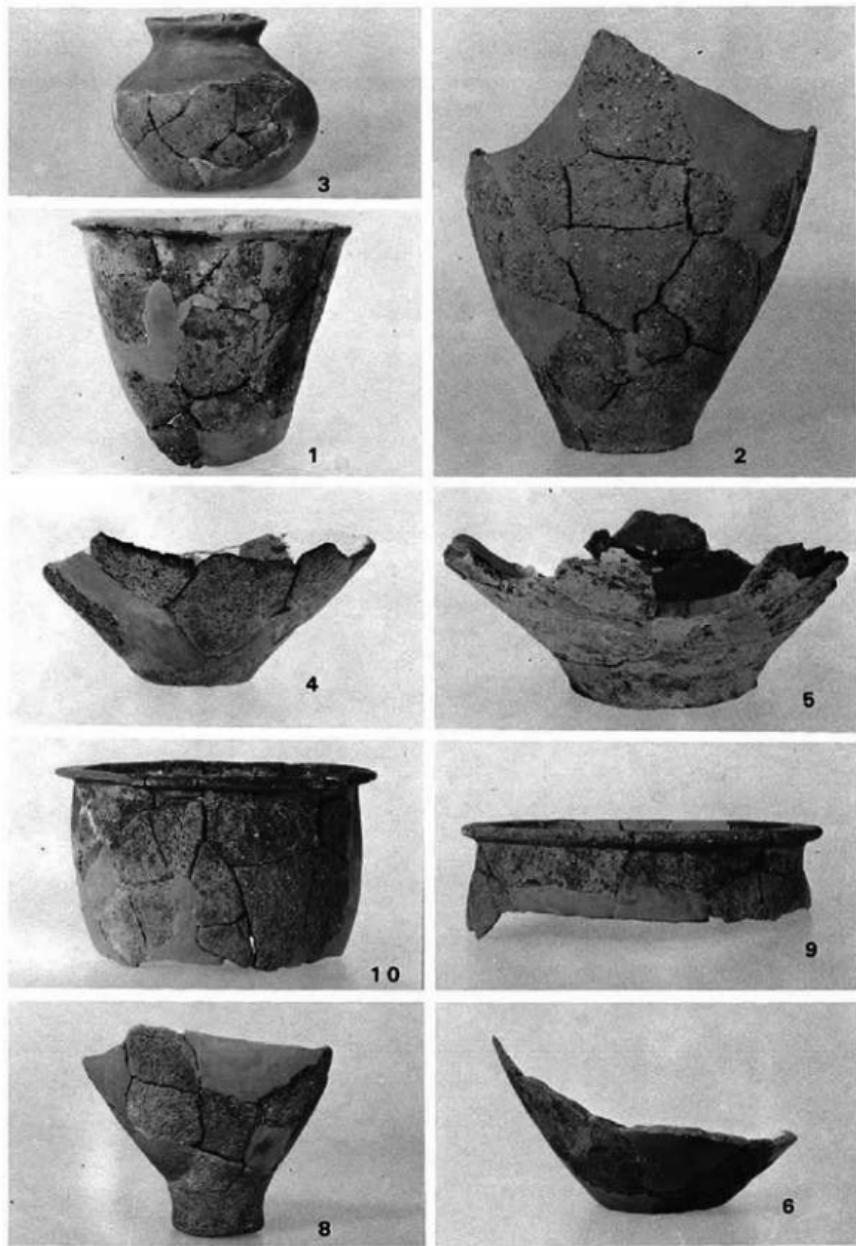
2. 9号住居跡（南東より）



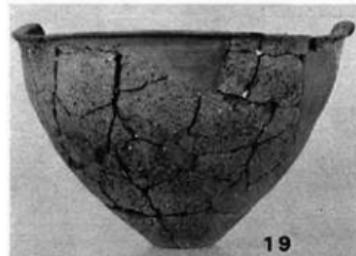
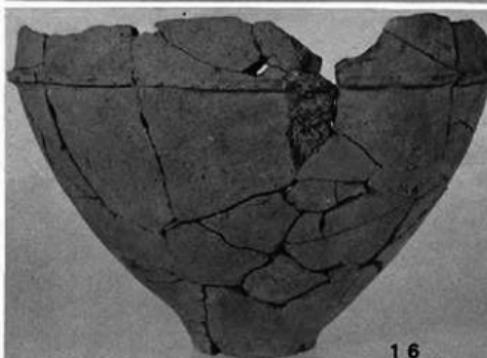
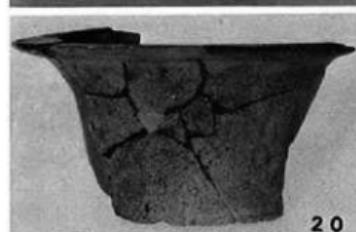
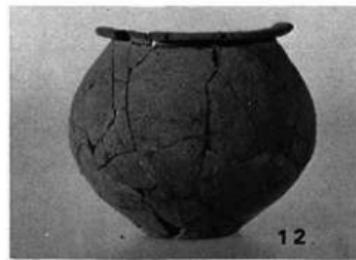
3. 9号住居跡（北西より）



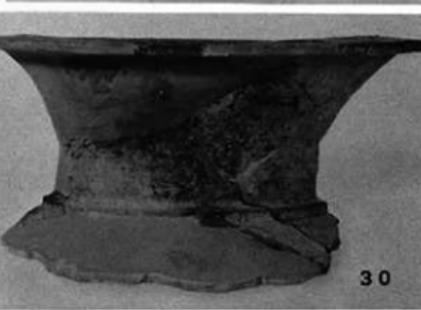
4. 34号住居跡炉内支脚出土状況

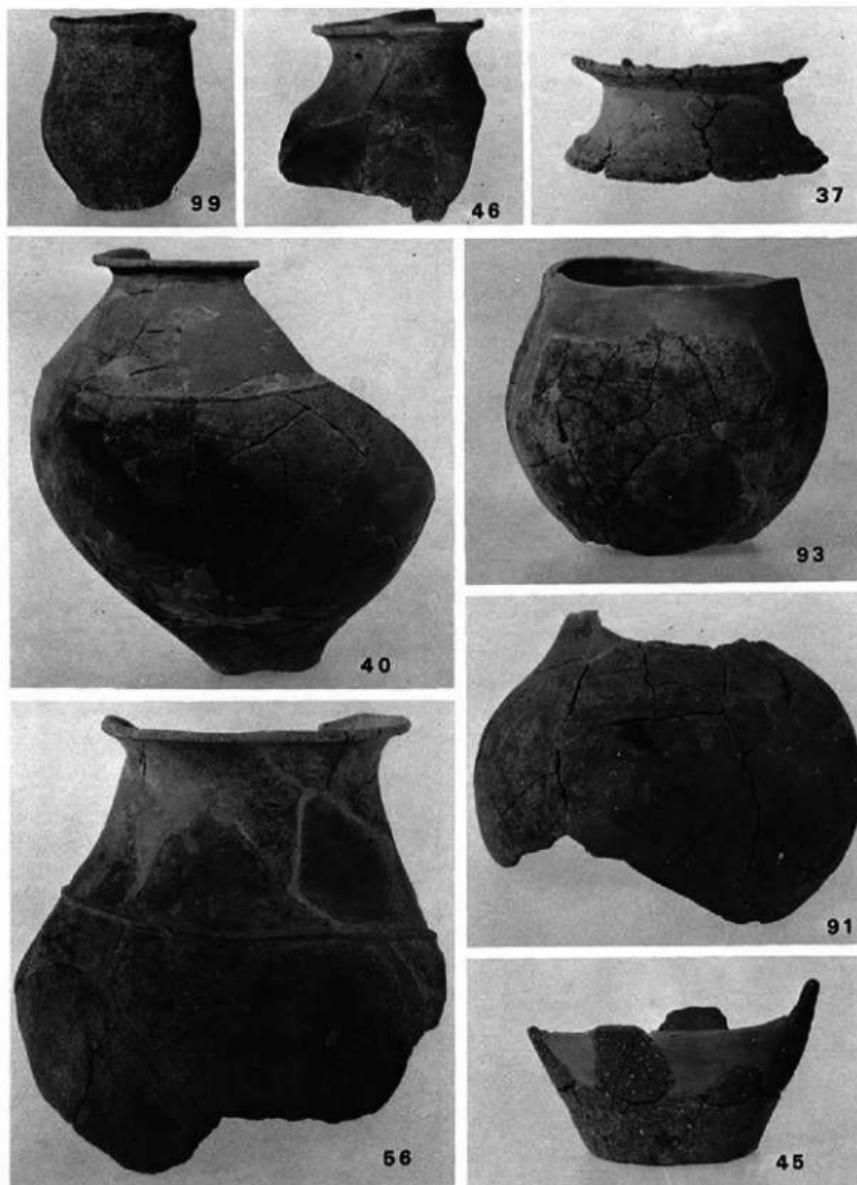


3・5・6号各住居跡出土土器

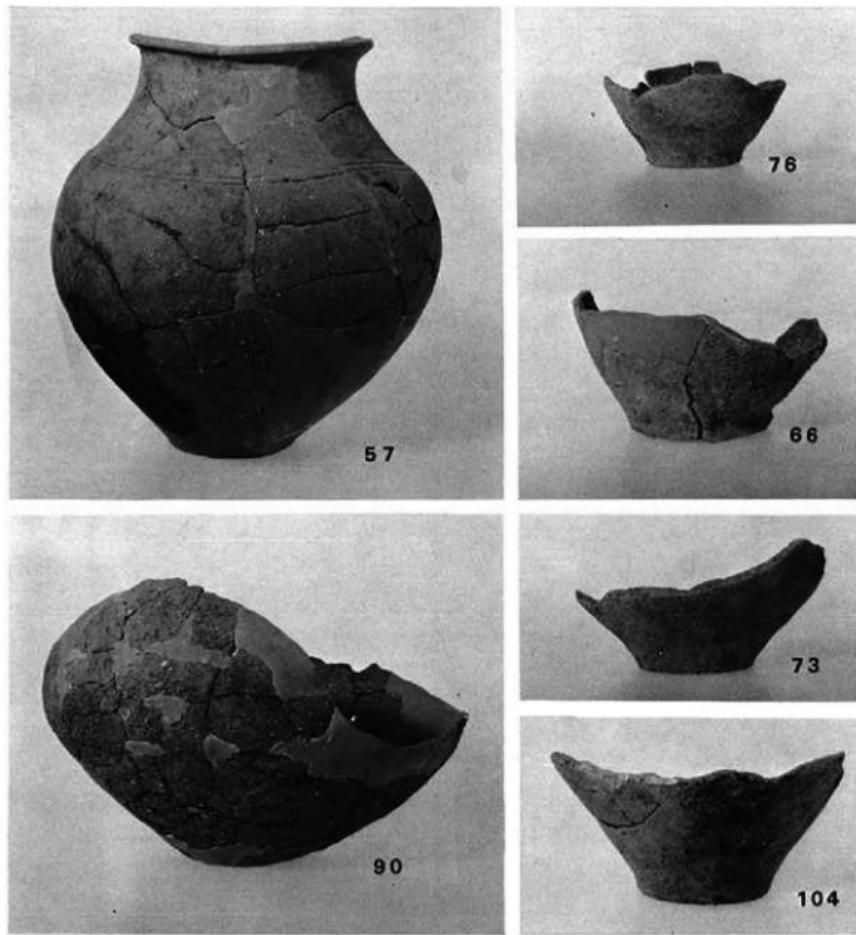


10・11号各住居跡出土土器

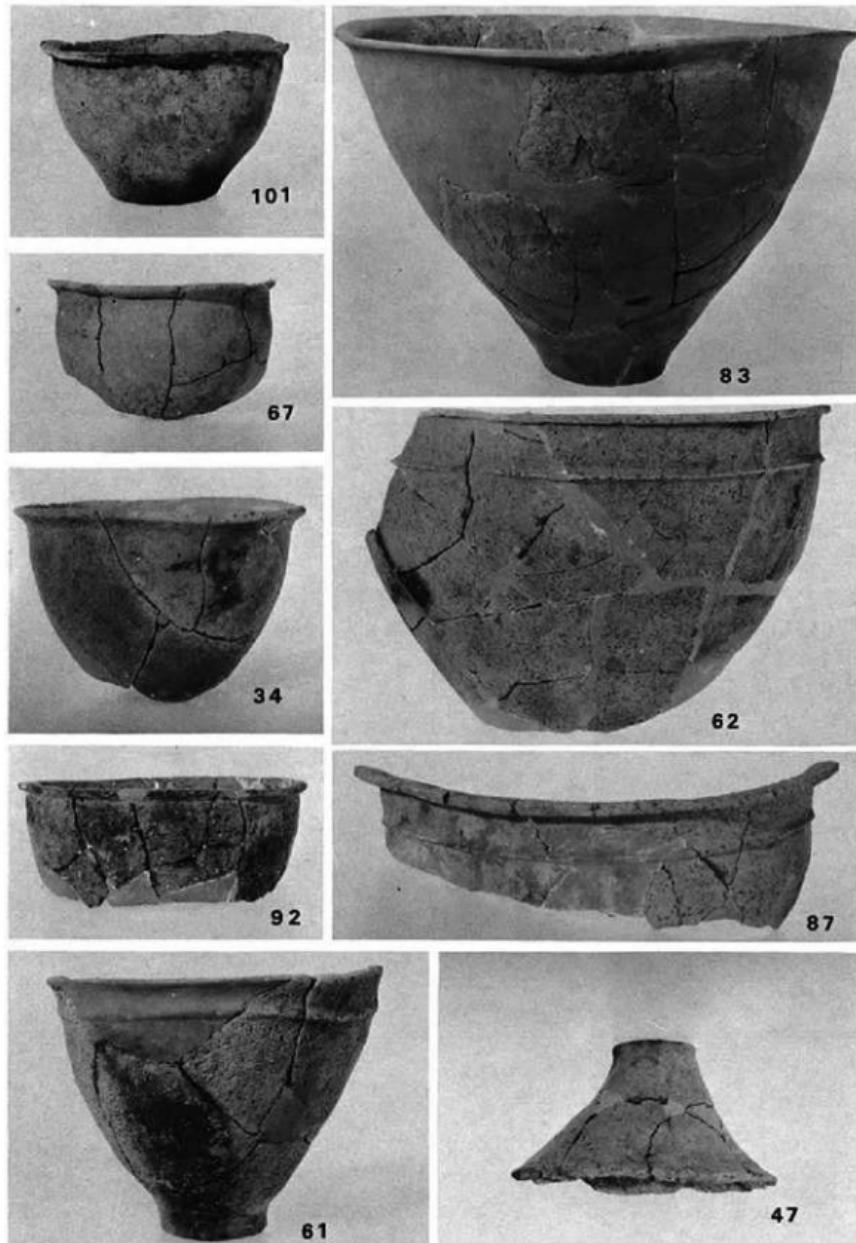




17号住居跡出土土器①



17号住居跡出土土器②



17号住居跡出土土器③



94



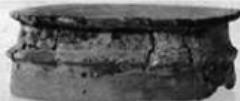
48



51



55



97



98



65



103



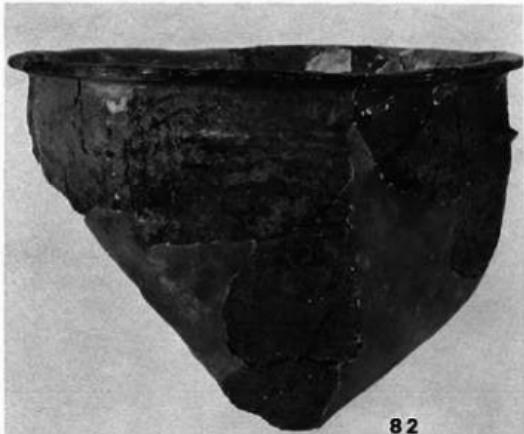
60



96



81



82



80

17号住居跡出土土器⑤



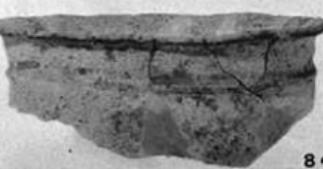
63



64



32



84



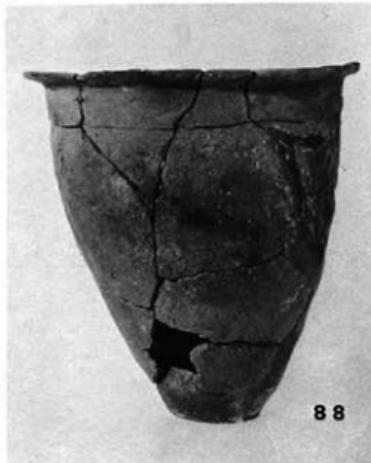
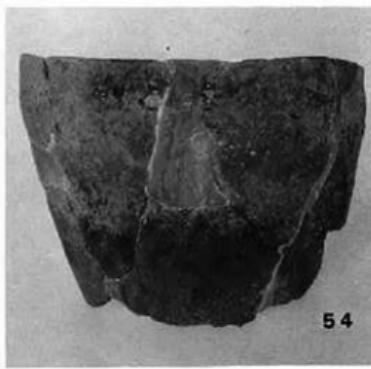
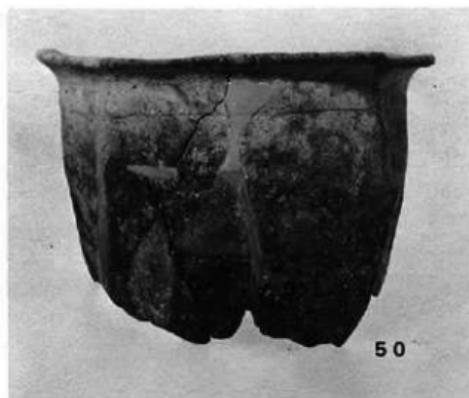
38

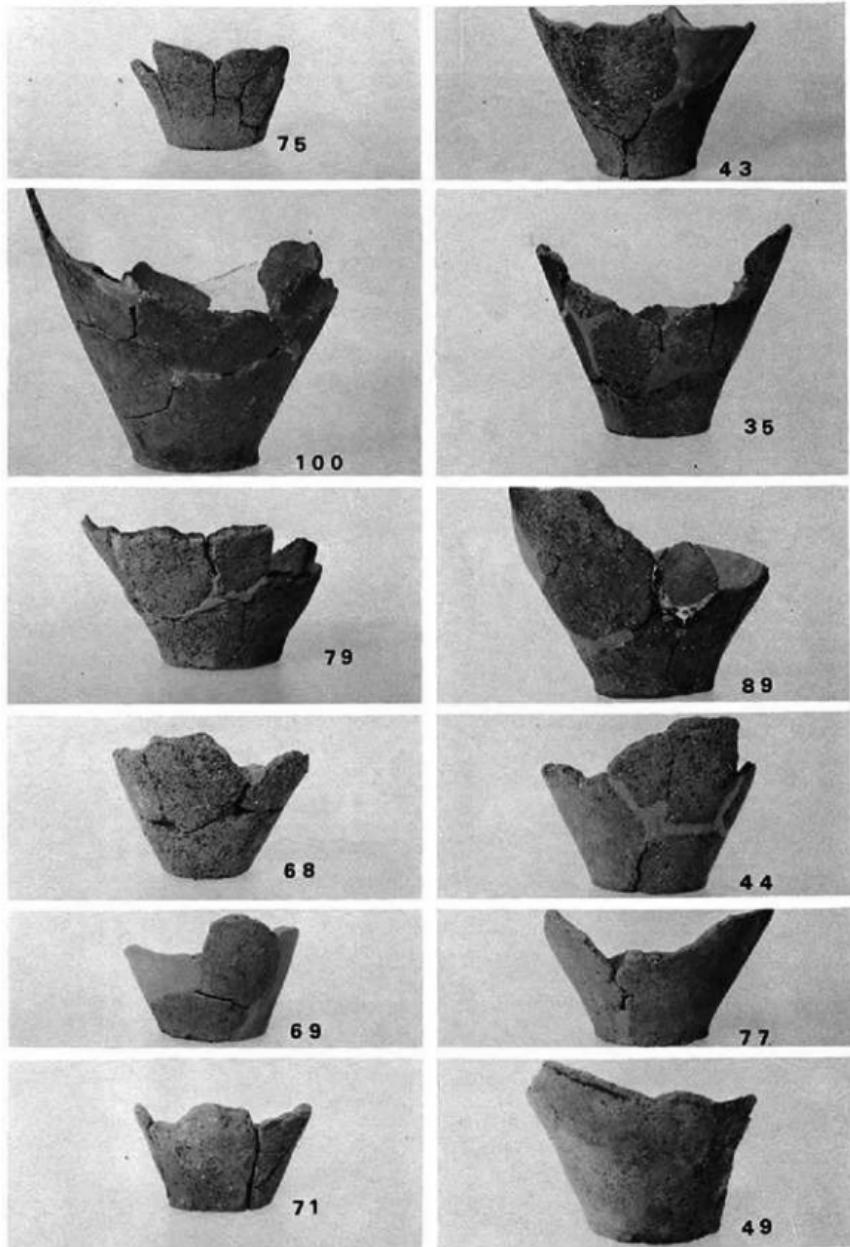


58

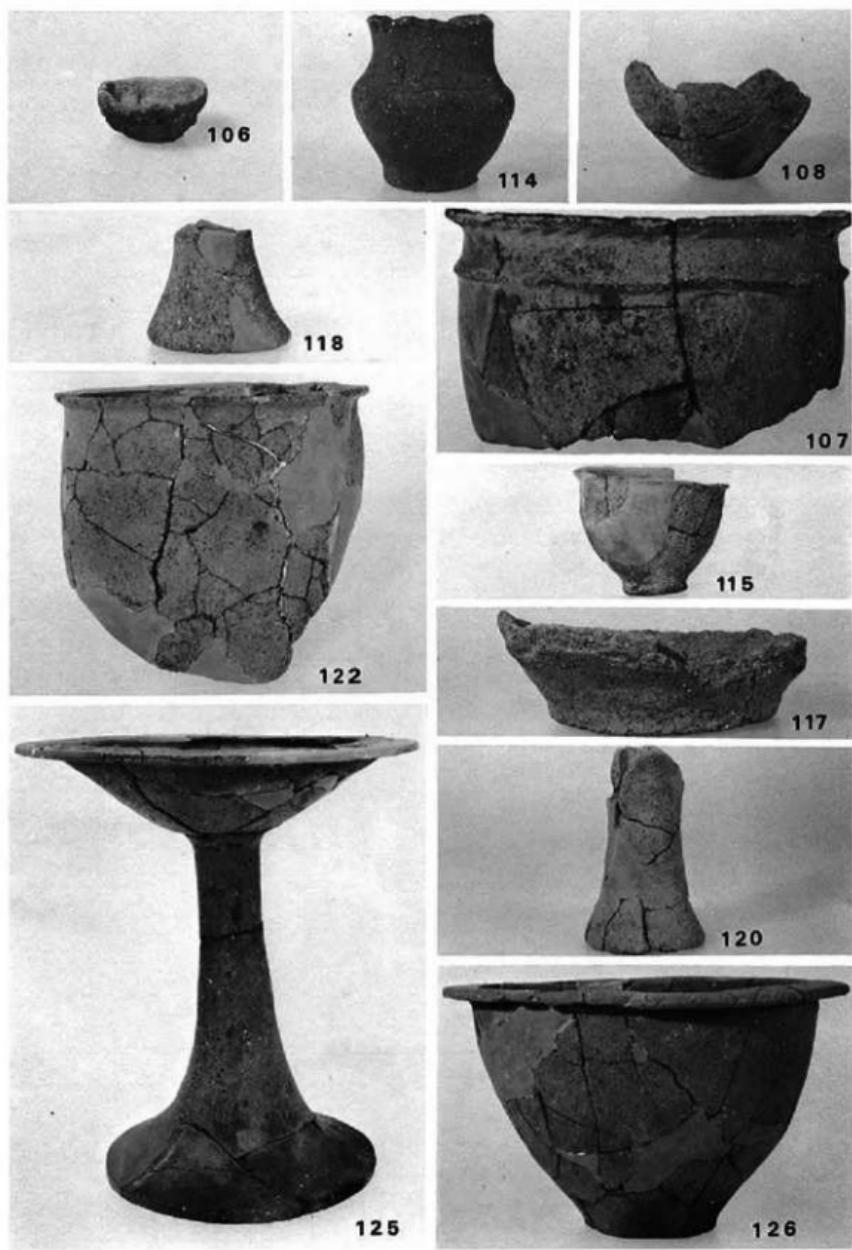


85



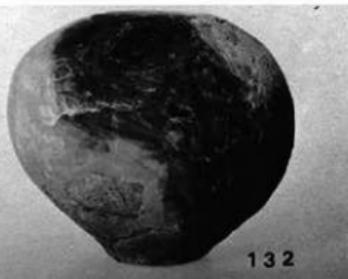


17号住居跡出土土器⑧





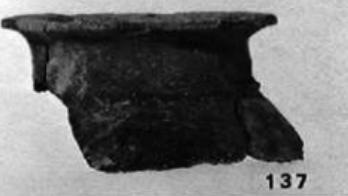
131



132



136



137



138



148



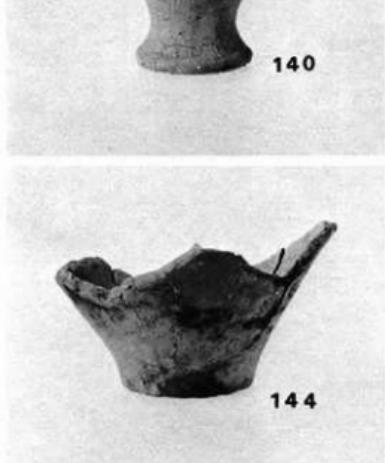
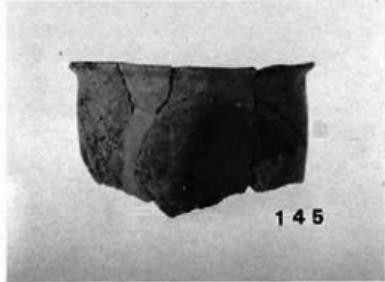
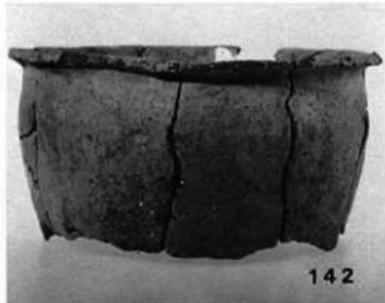
143



141



146





156



159



160



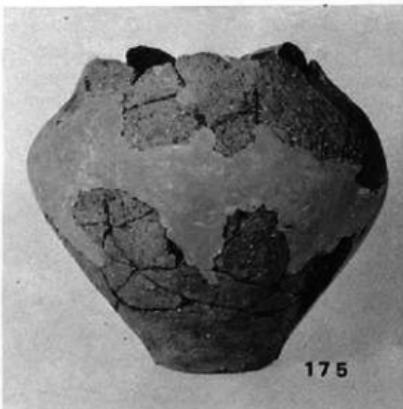
158



162



161



62号貯藏穴出土土器①



174



178



166



165



167



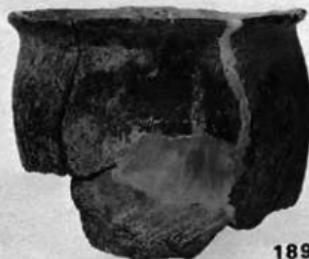
163



185



186



189



187



190



188



195



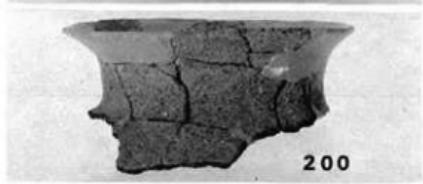
199



196



203



200



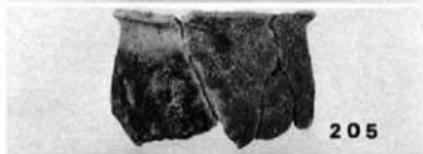
208



202



207



205

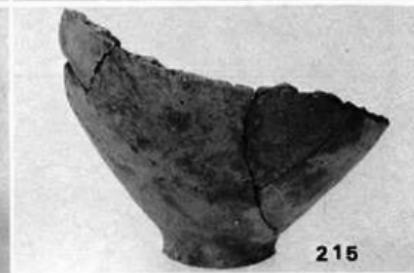


204



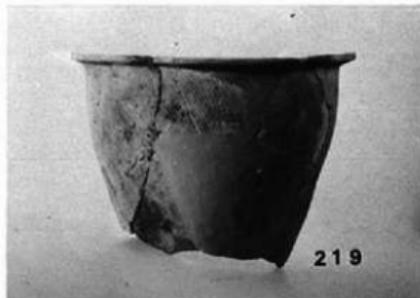
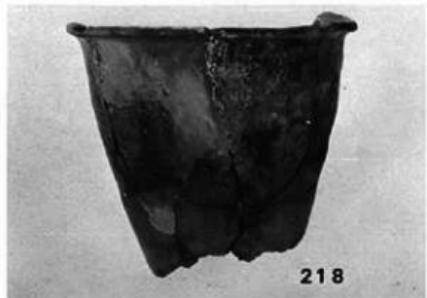
206



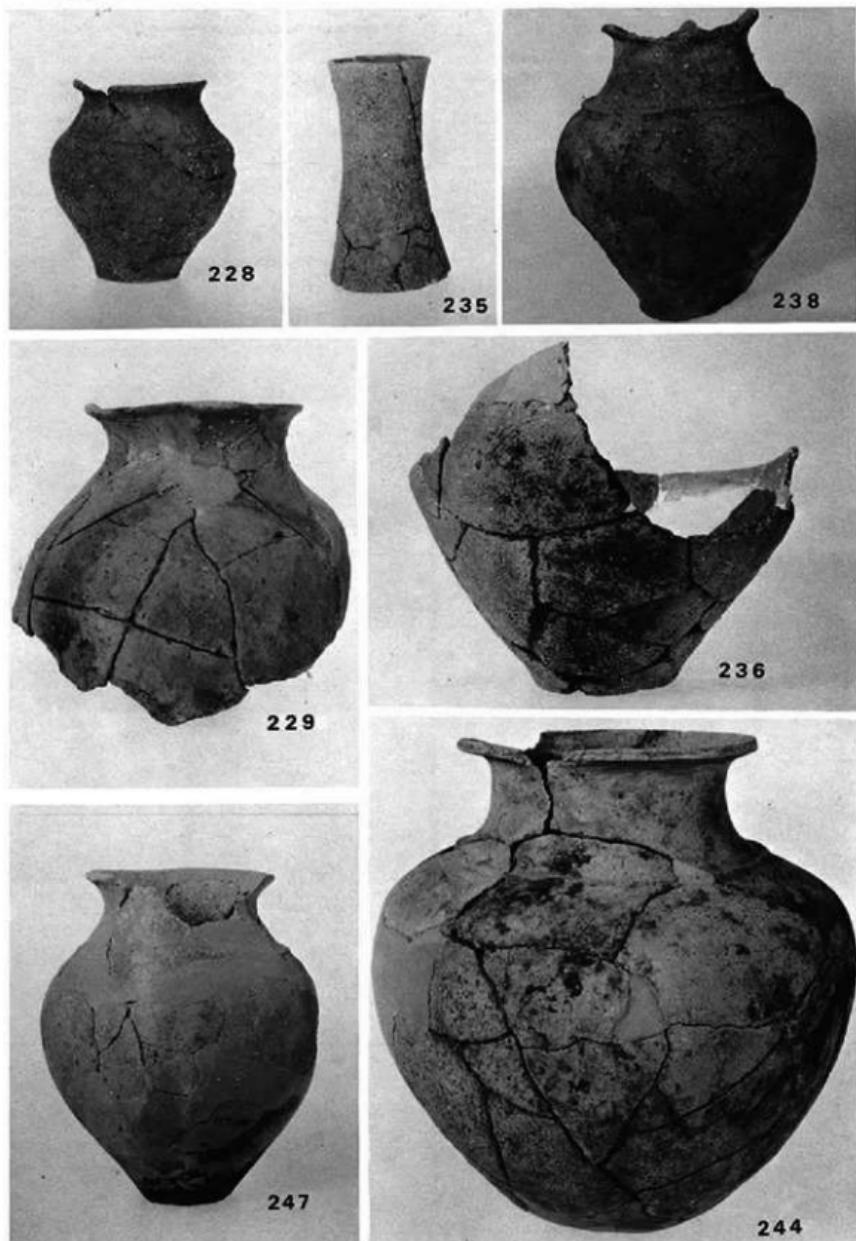




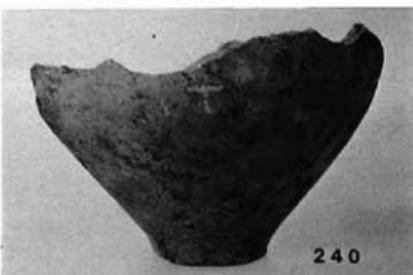
85号貯藏穴出土土器②

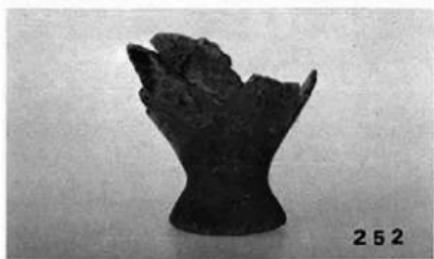


85号貯藏穴出土土器③



86・89・90・91号各貯藏穴出土土器







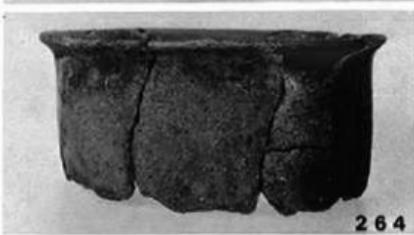
262



263



261



264



265



267



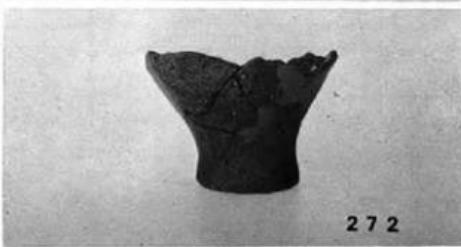
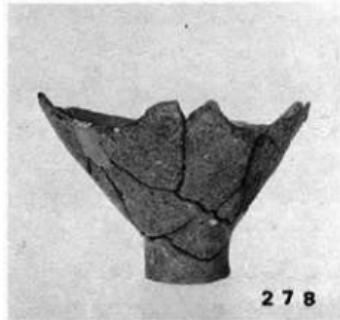
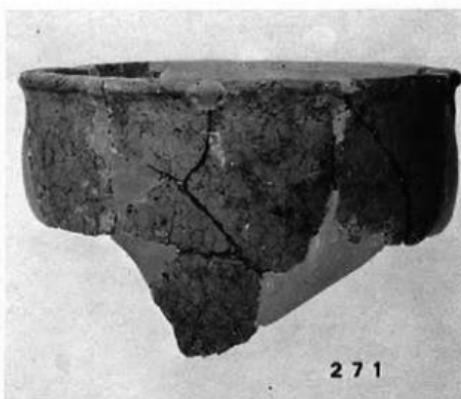
268



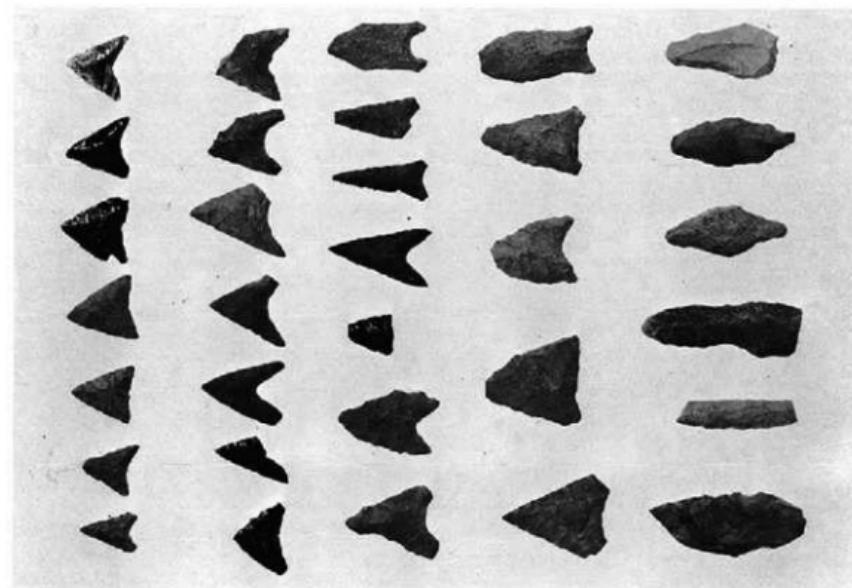
266



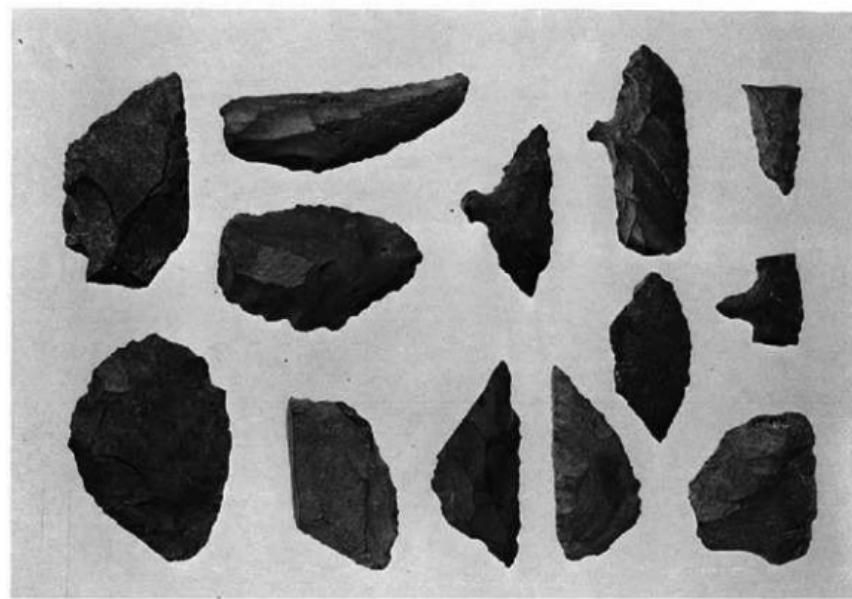
277



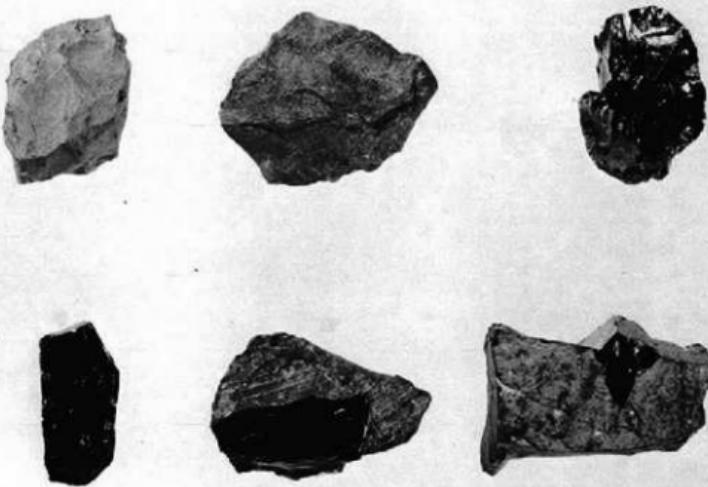
103 · 104 · 107 · 109 · 121号各貯藏穴出土土器



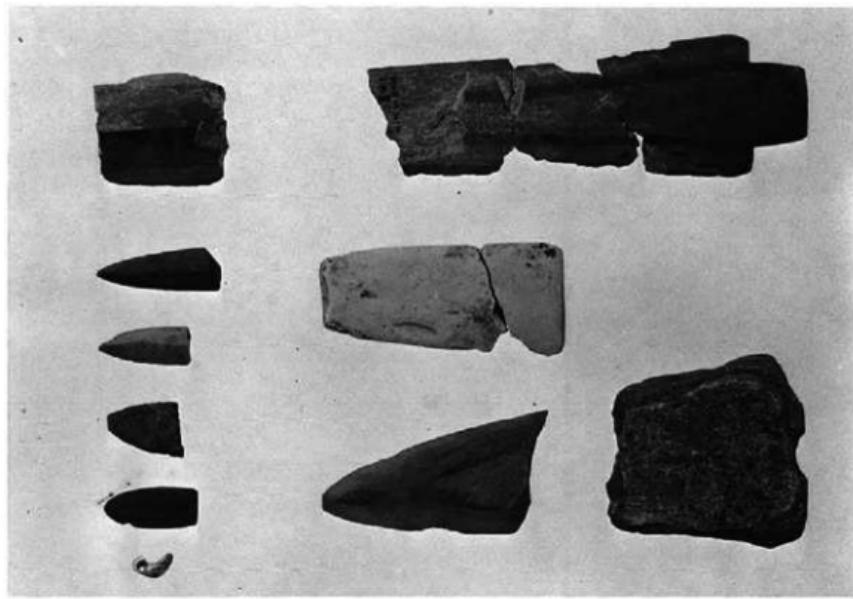
(1) 打製石核



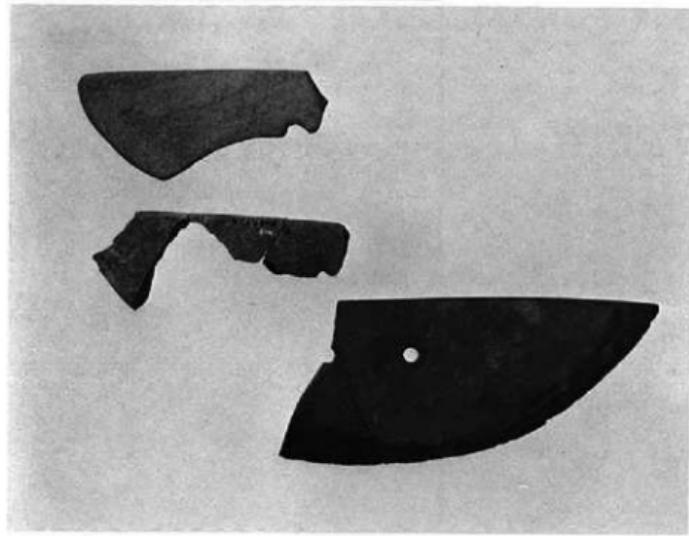
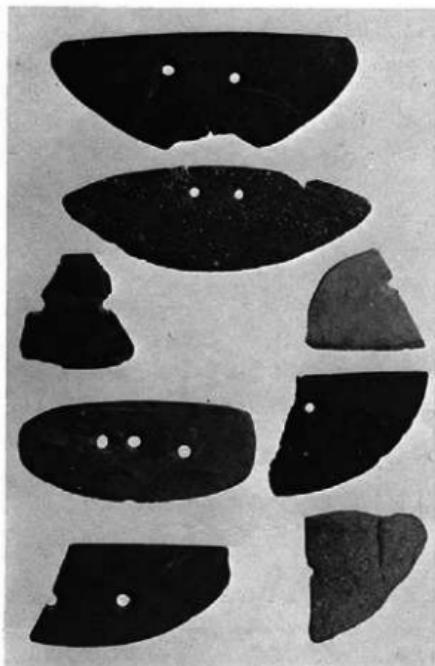
(2) 擦器



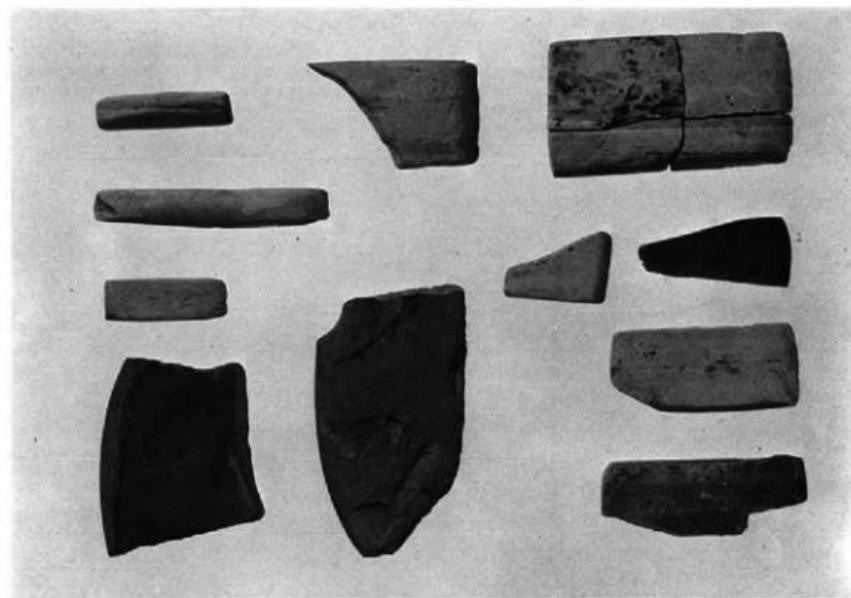
(1) 石核



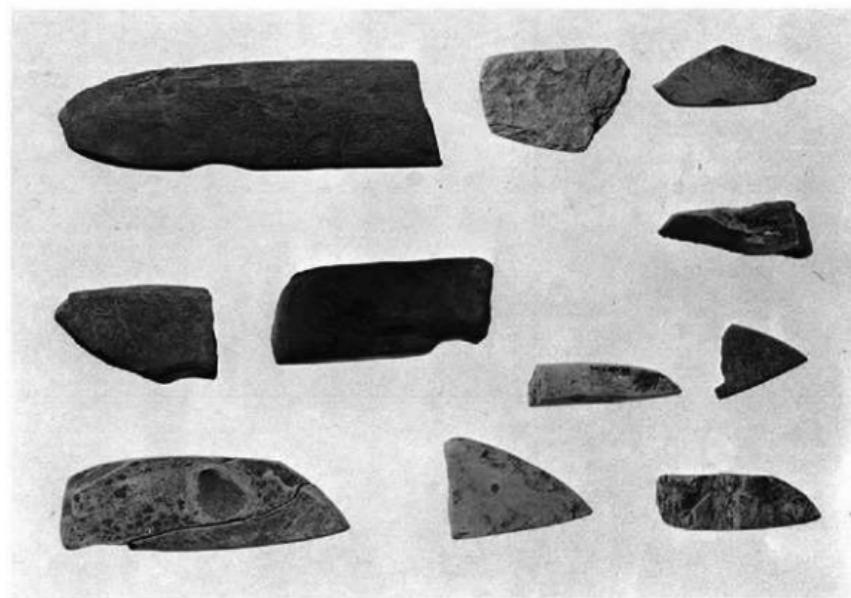
(2) 勾玉、磨製石核、磨製石劍、石戈未製品



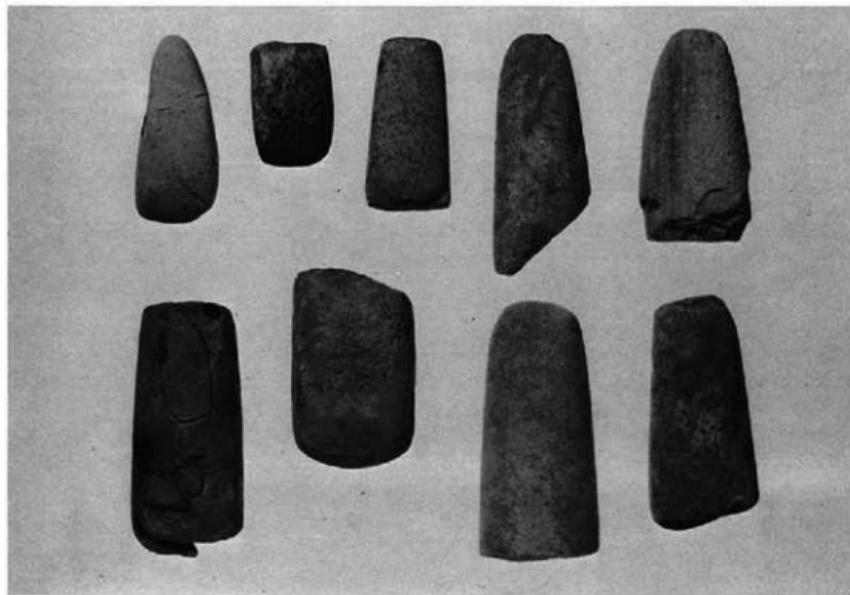
石庖丁



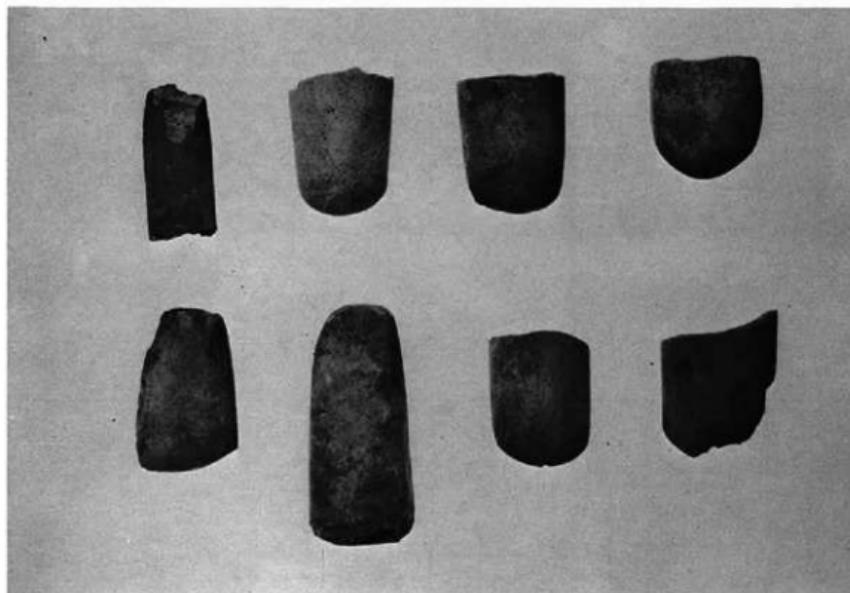
(1) 石鏃・石鑿・扁平片刃石斧



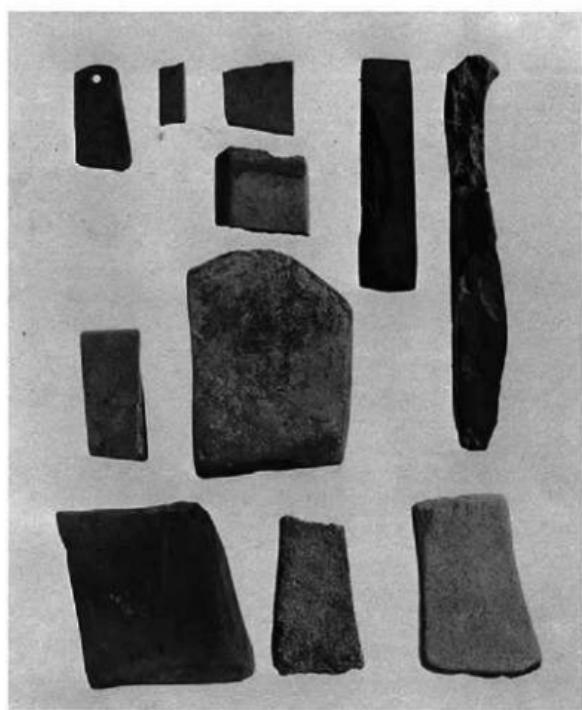
(2) 杖扶块入石斧



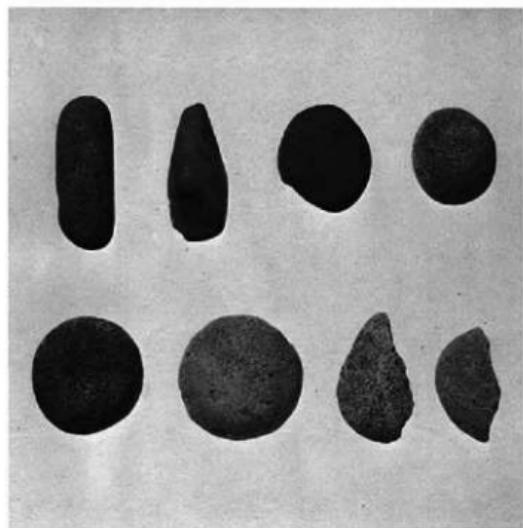
(1) 刮刀石斧①



(2) 刮刀石斧②



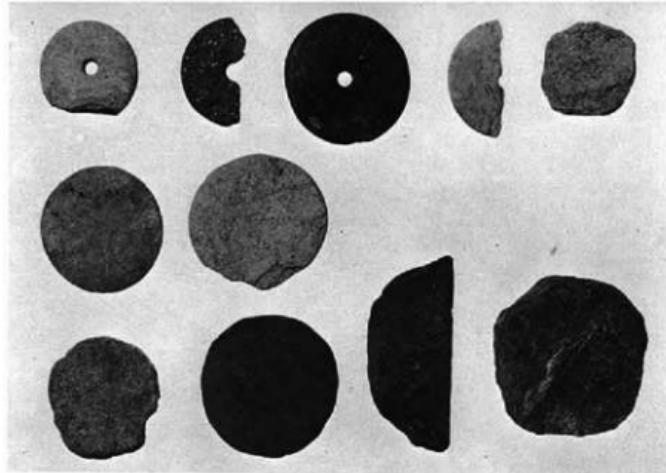
(1) 碾石



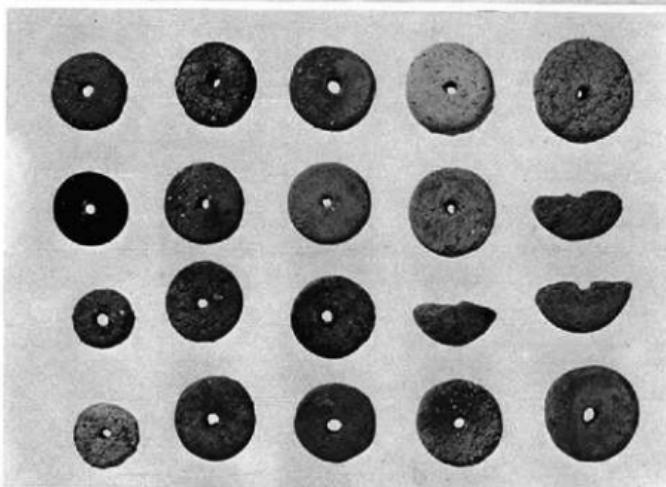
(2) 磨石



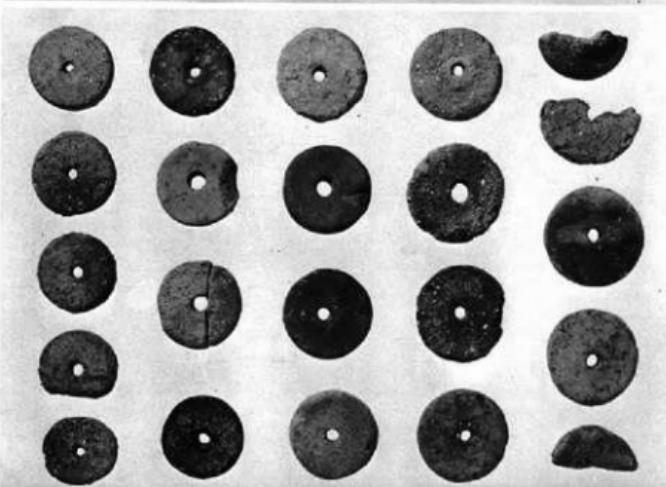
(1) 石製紡錘車・石製円盤

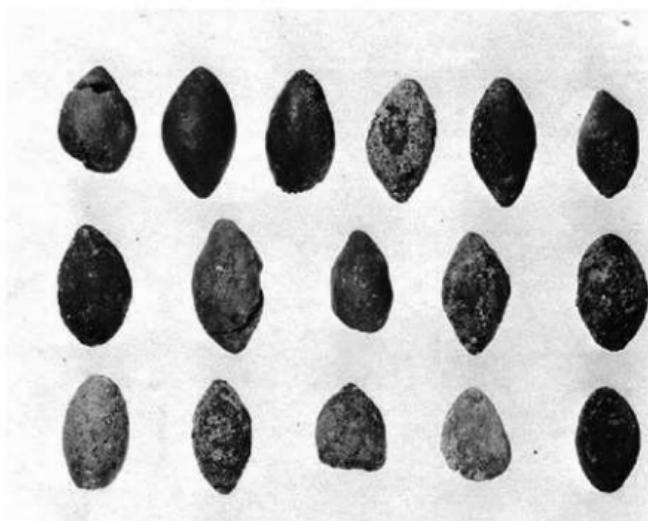


(2) A・B1 紡錘車

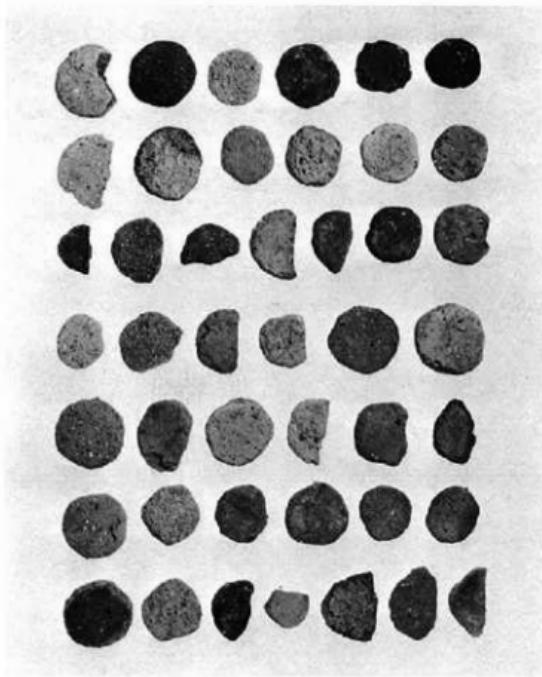


(3) B2・C 紡錘車

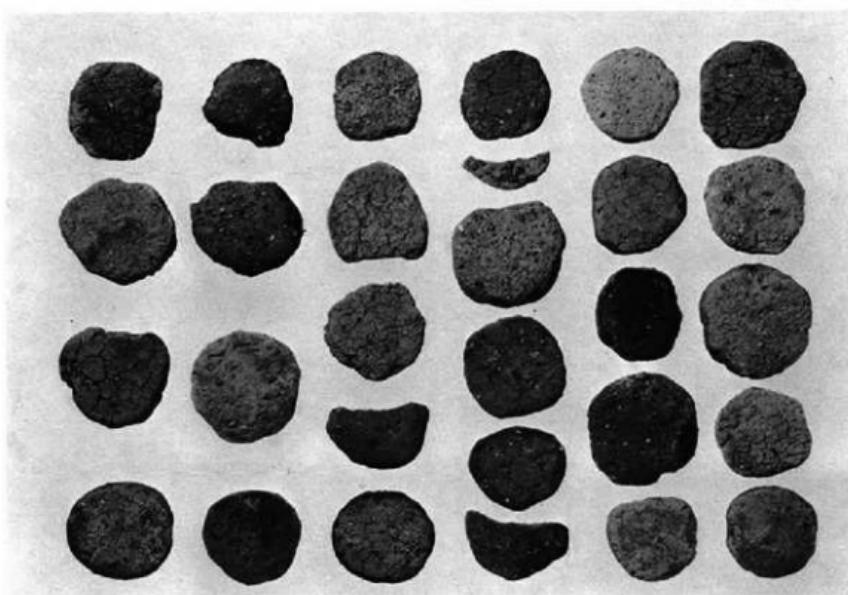




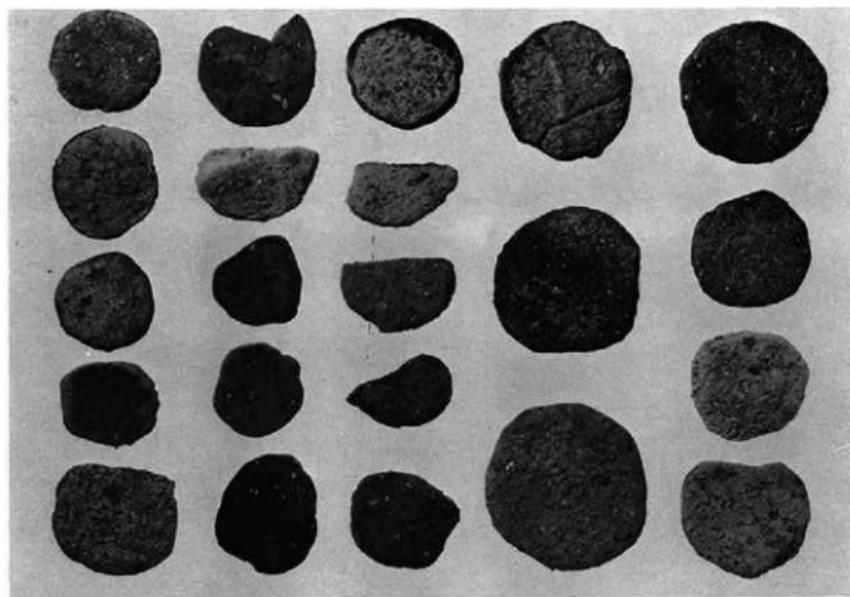
(1) 投弹



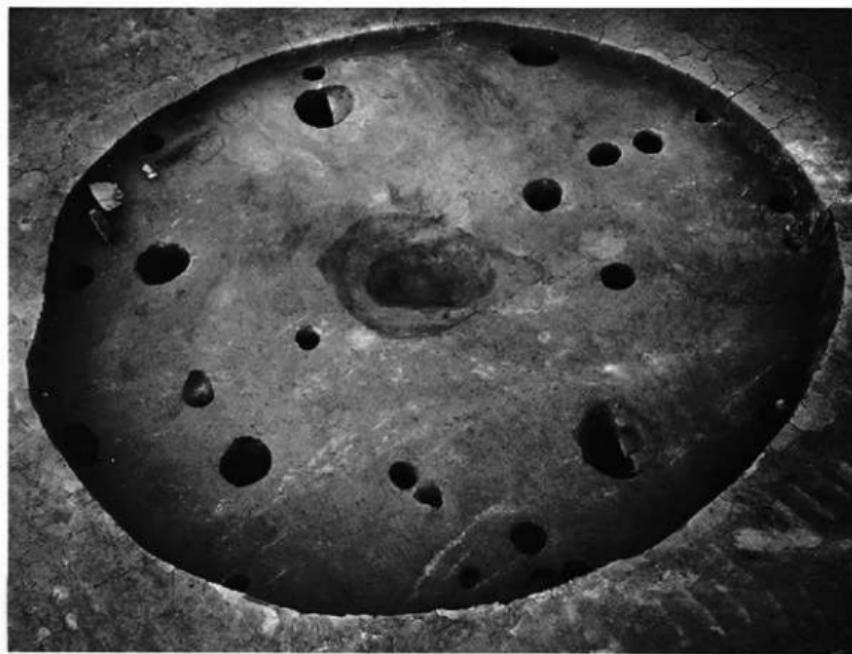
(2) A 瓷土製凹盤



(1) B類土製凹鑿



(2) C類土製凹鑿



1号住居跡全景（東から）



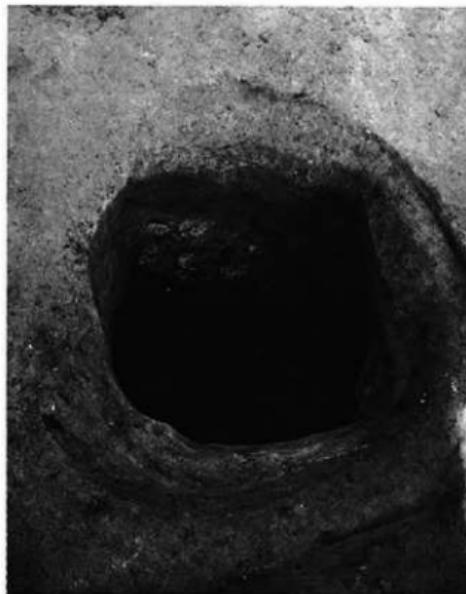
「炉」跡（北から）



P 4 柱根跡断面



► 1号貯蔵穴（南から）



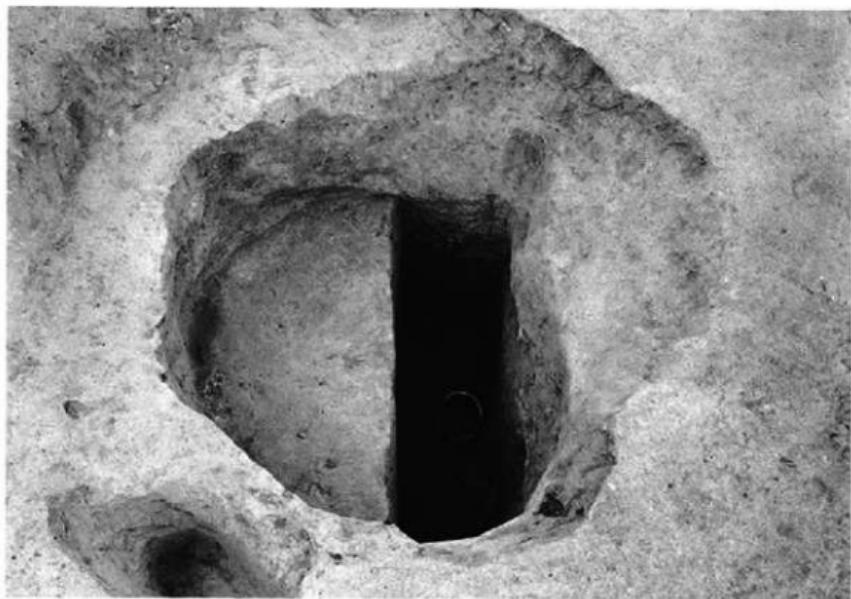
◀ 3号貯蔵穴（北から）



◀ 4号貯藏穴（北から）



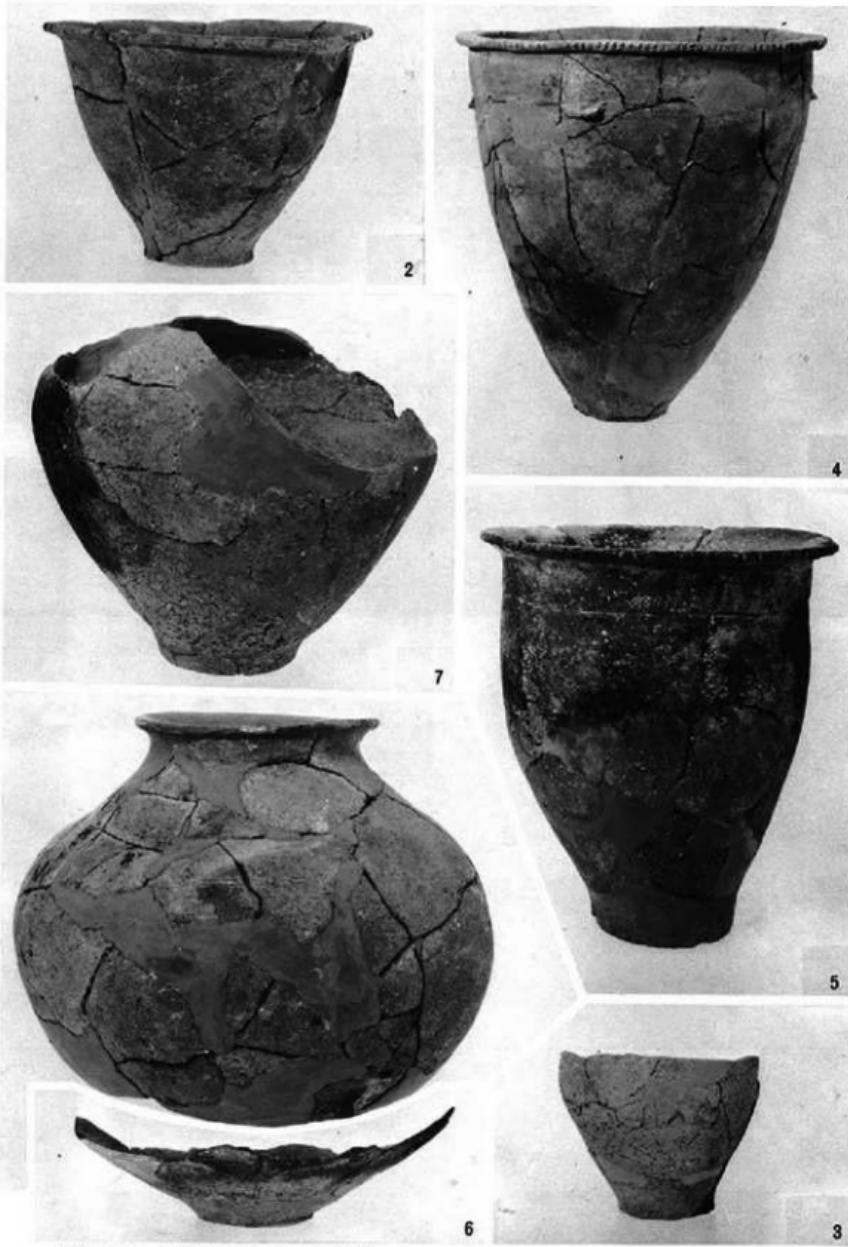
▼ 5号貯藏穴（北から）



6号貯藏穴（南から）



7号貯藏穴（東から）



1号 (2)・2号 (3)貯藏穴出土土器



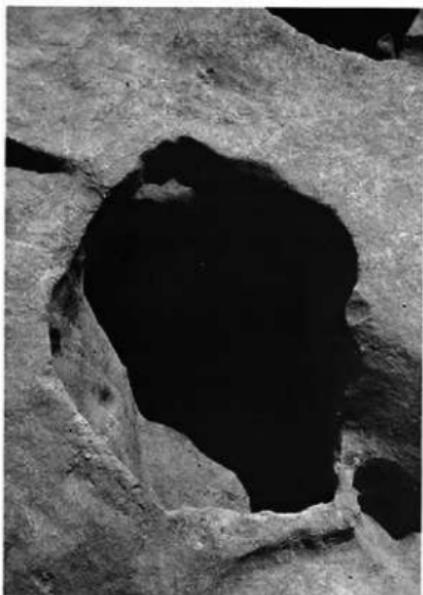
松尾口遺跡 A 地点全景（東から一北牟田遺跡から眺む—）



椚出遺構全景（西から）



1号住居跡（南から）



2号貯藏穴（西から）



1号貯藏穴（西から）



北牟田 B 地点発掘調査区全景（南から）



◀ D 2 (南から)



◀ D 3 (北から)



D 4 (西から)



D 5 (南から)



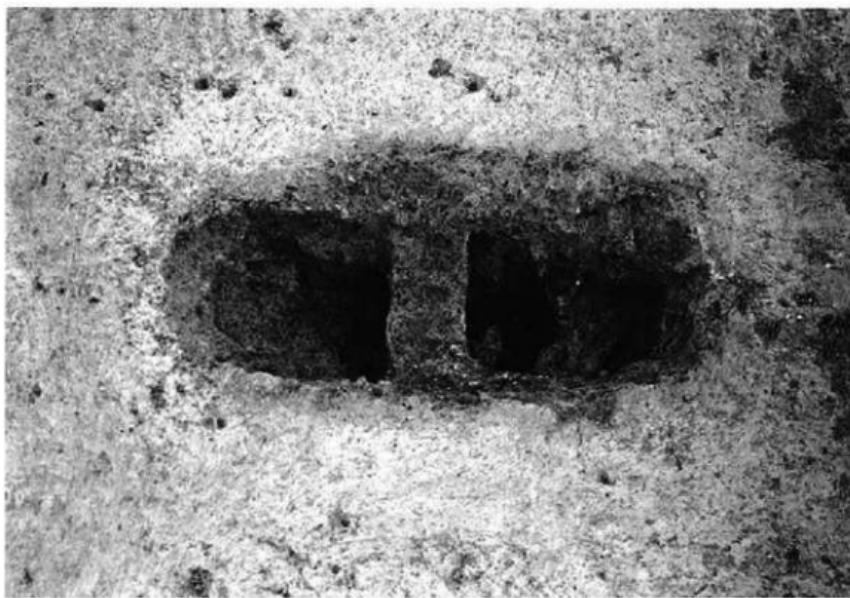
D 6・7 (北から)



D 12・22 (北から)



D 18 (東から)



D 24 (西から)



D16・17 (北から)



D27・28 (北から)



D 22・23・24 (西から)



D 39 (東から)



◀ D 30・31・33・52・55
K 33 (西から)

D 29・30・31・33・51 (北から) ▼

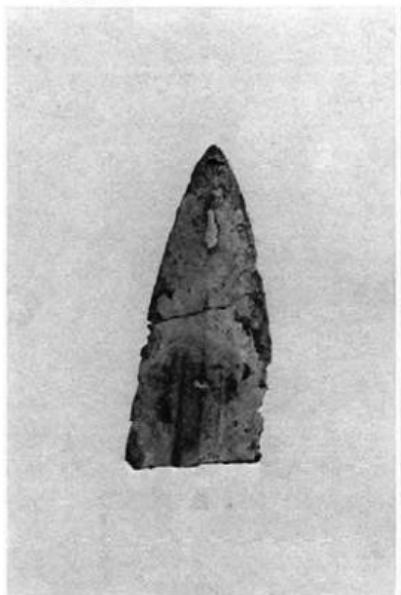




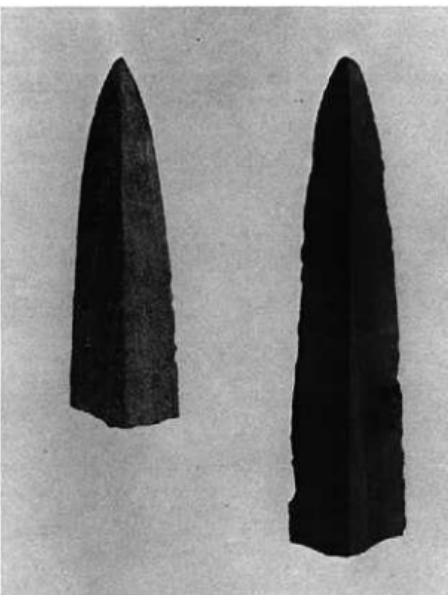
D36 (北東から)



D41 (北東から)



D12出土銅劍片



D48出土石劍片



D48石劍片出土状態（東から）



K 1 出土状態



K 6 出土状態



K 6 合せ口の状態



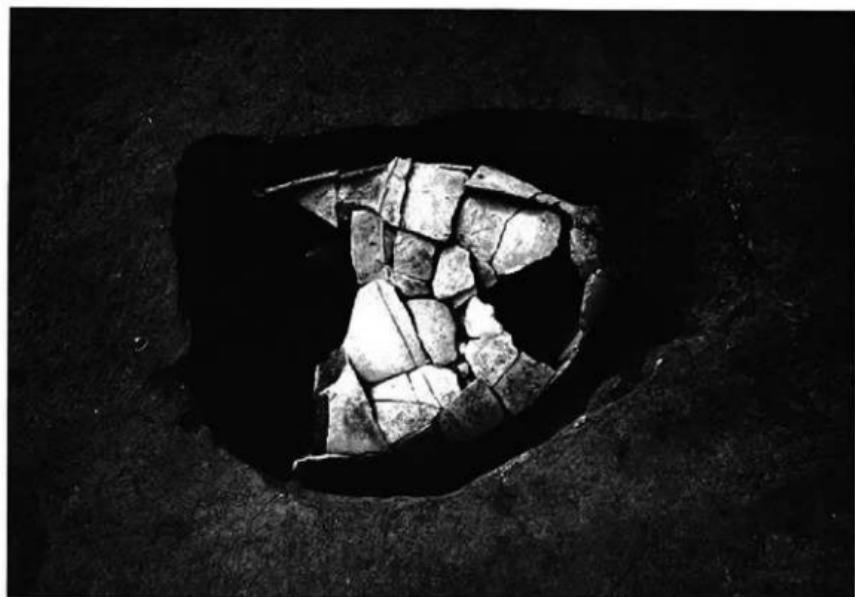
K 11・12 (東から)



K 15・16 (東から)



K13 (東から)



K18 (東から)



D 50 K 24 (西から) ▼





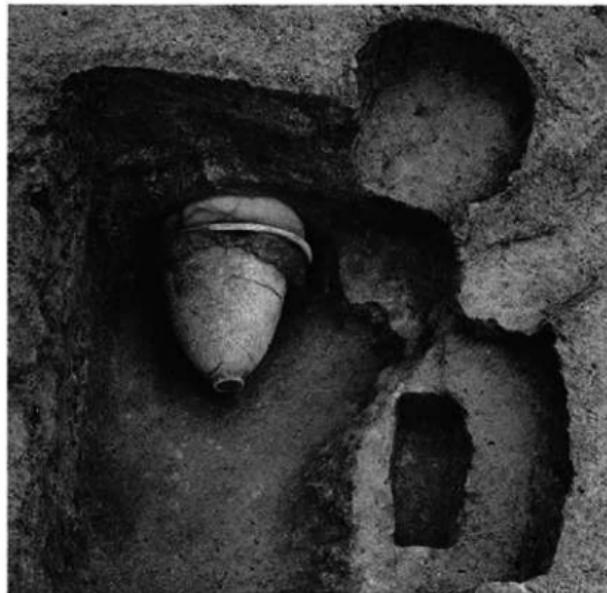
◀ K 22 (北から)



◀ K 33 (南から)



▲K26（西から）



◀K27 D40（南から）



◀ K 29・30 (東から)



◀ K 32 (北西から)



◀ K35 (西から)

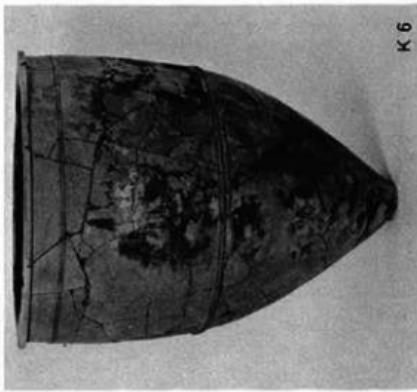
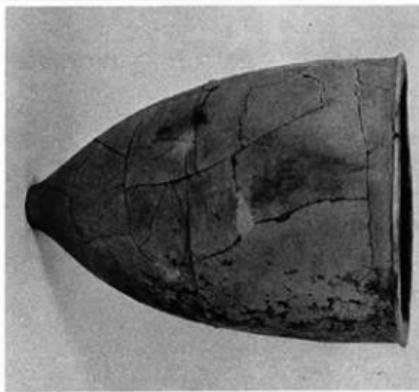
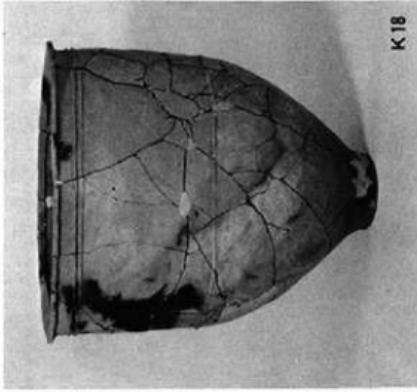
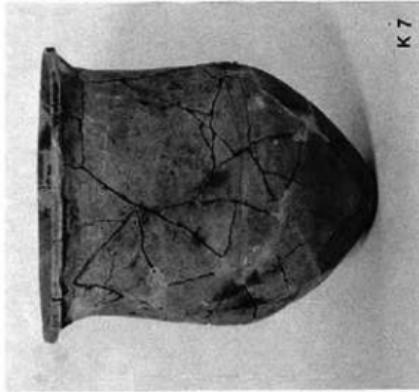
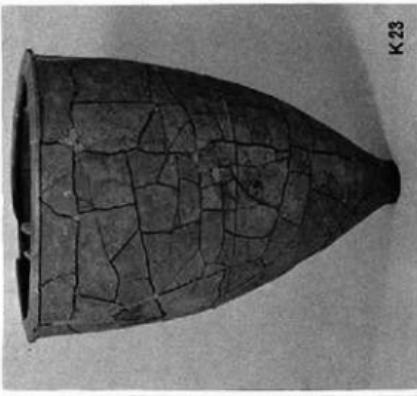
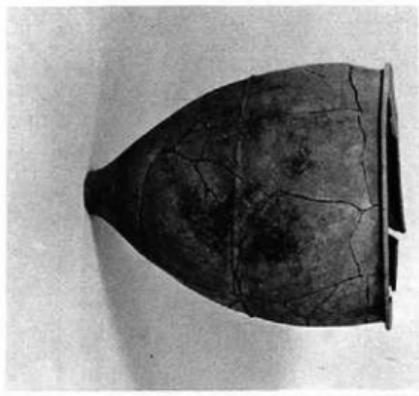
D48 K36 (西から) ▼

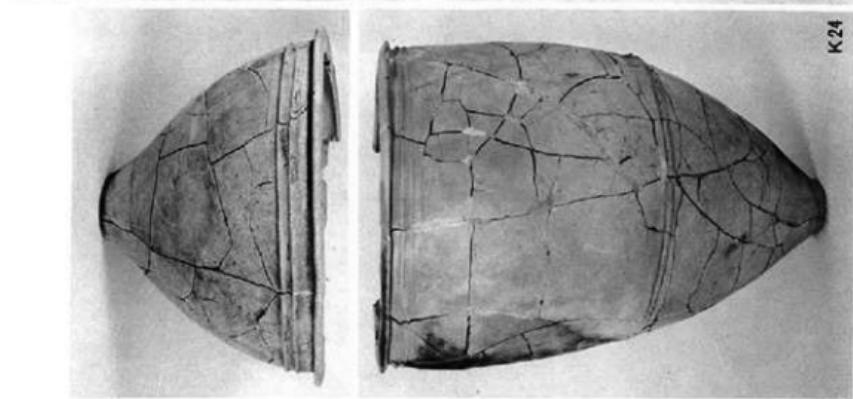
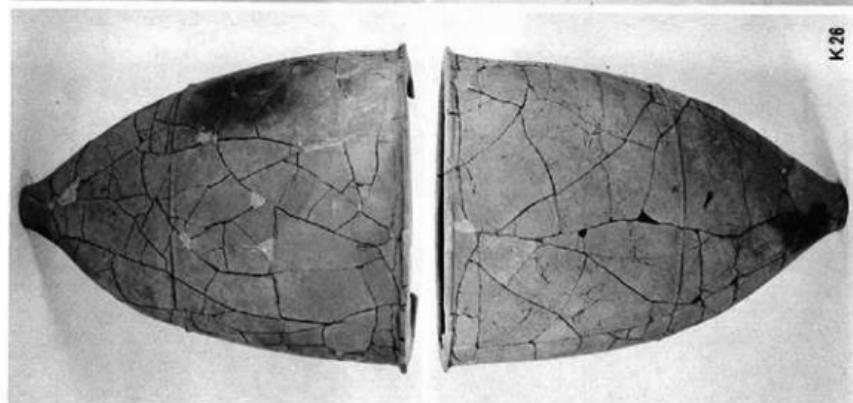
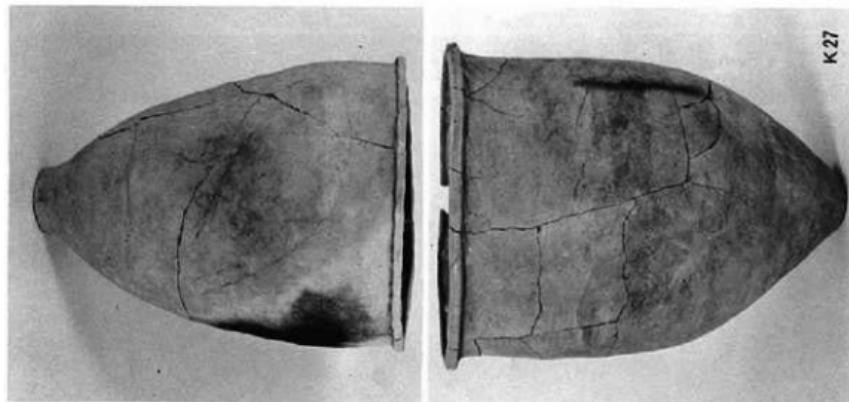


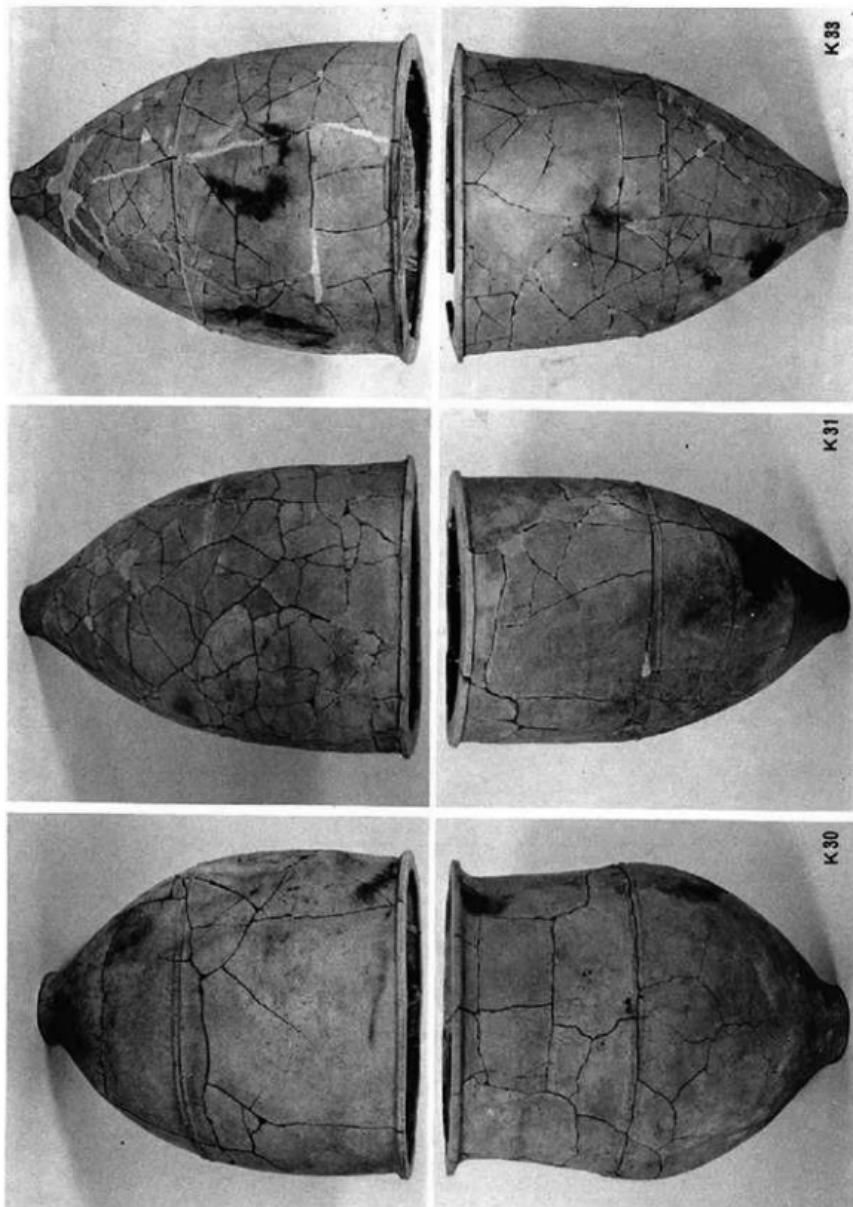


K10・28・30・31・34・35
D41・43・47 (北から)
▼









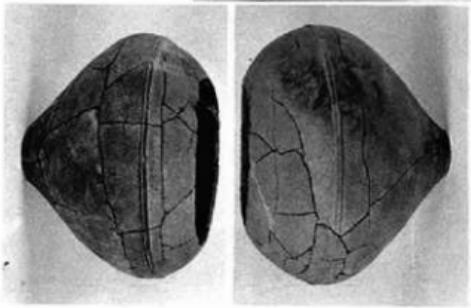
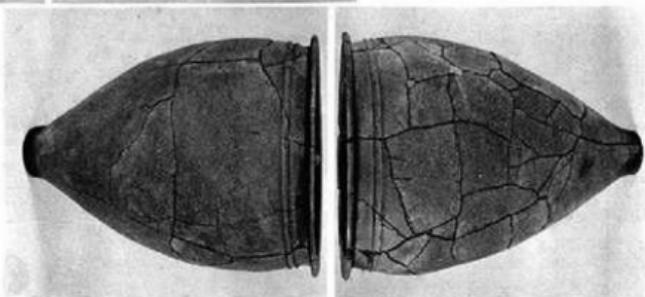
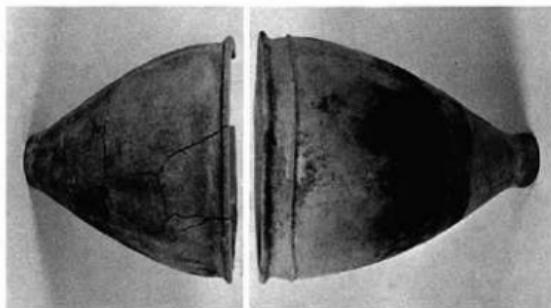


K34〔左〕

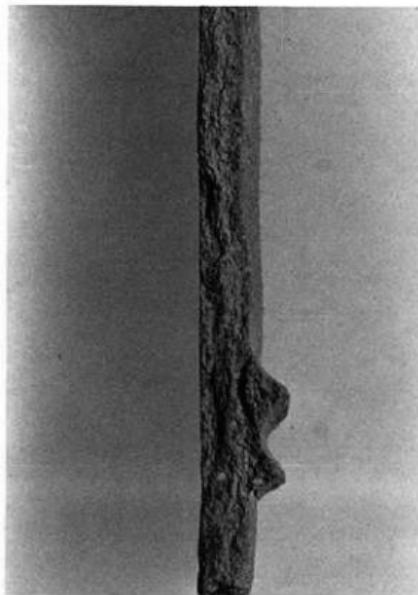
K35〔右上〕

K22〔右下〕





K28 (左上)
K29 (左中)
K32 (右中)
K36 (右上)



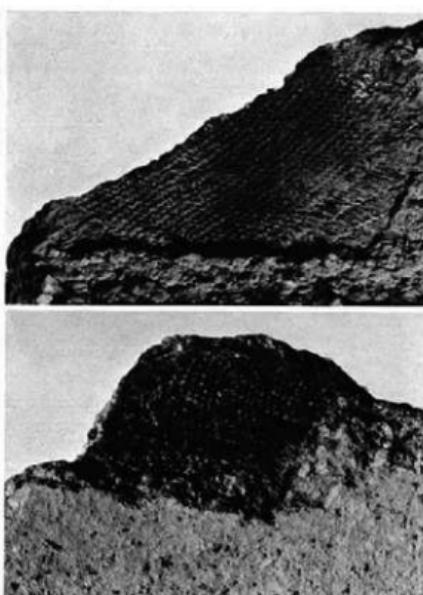
(1) K 4 凸帶部断面



(2) K 13 口縁部断面



(3) K 5 上 口縁部断面



(4) K 5 上 突帶上部に埋められた布片



(1) K27下 口縁部断面



(2) K33下 口縁部断面



(3) K34下 口縁部断面

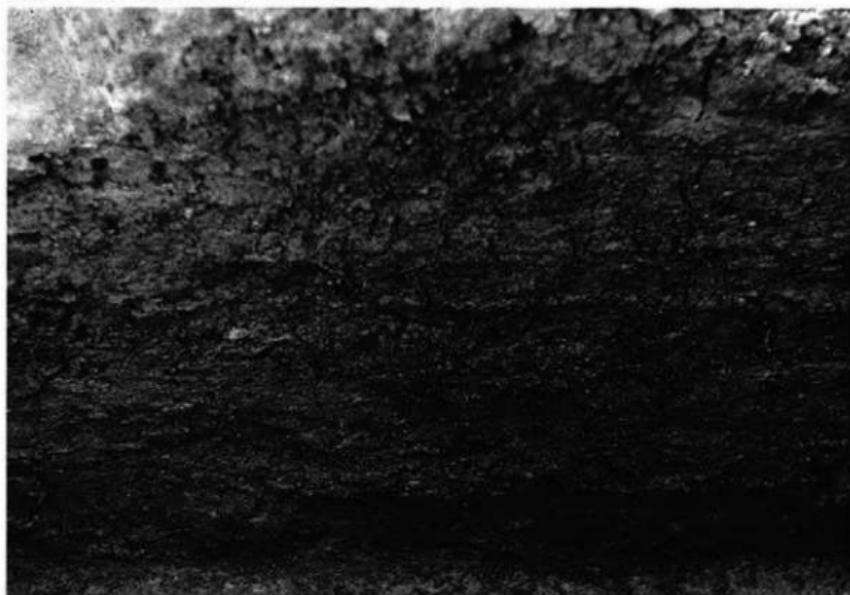


遺跡全景（南から）



PL. 78

D 4 [左上]
D 4 個板压痕 [下]





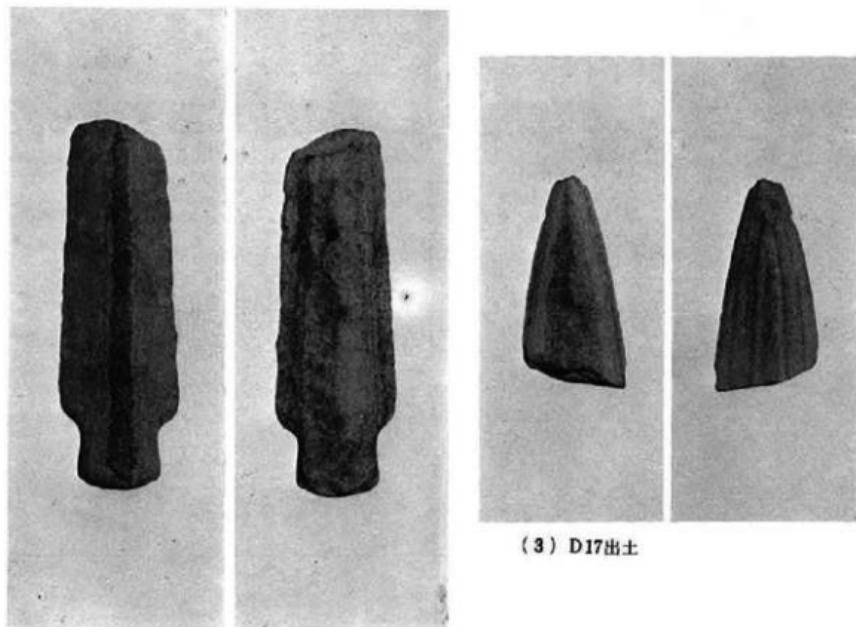
(1) D 4 北側木口部



(2) D 4 南側木口部



(1) 第2次調査出土



(2) D16出土

(3) D17出土



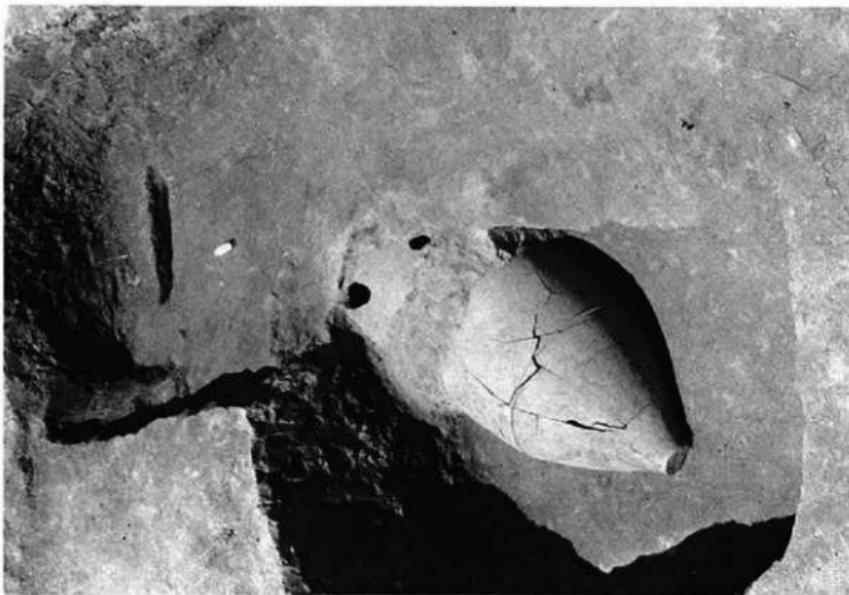
(1) K5・K6 出土状態



(2) K6によって切られたK7下表



(1) K5出土状態



(2) D16・K18出土状態



(1) K8出土状態



(2) K8人骨出土状態



(1) K16出土状態

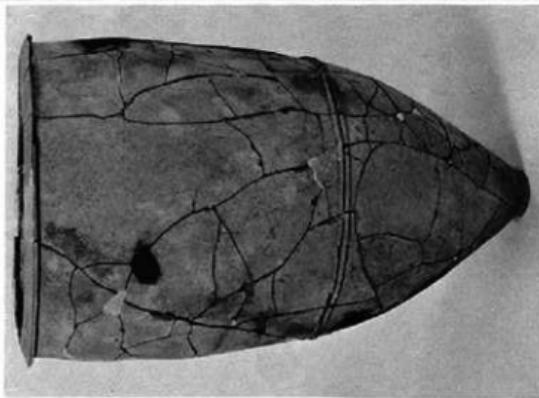
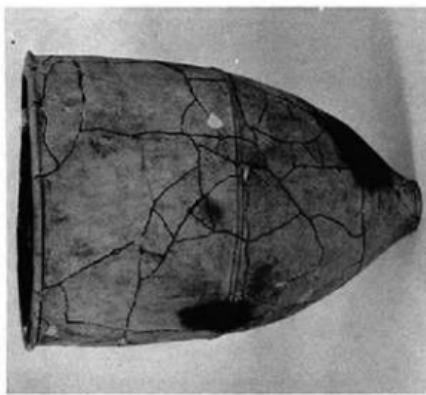
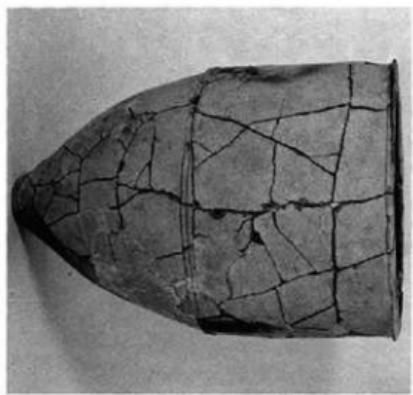


(2) K19出土状態



(1) K17出土骨塊〔右〕
(2) K17人骨出土状態〔左〕

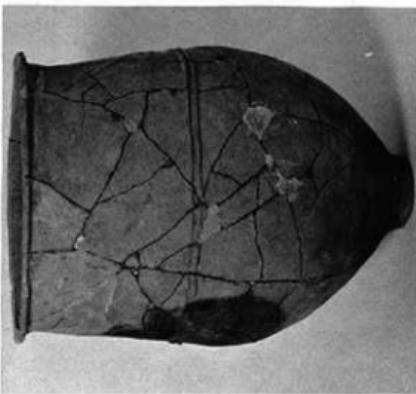
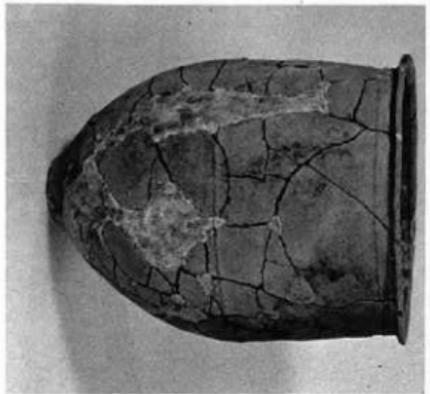




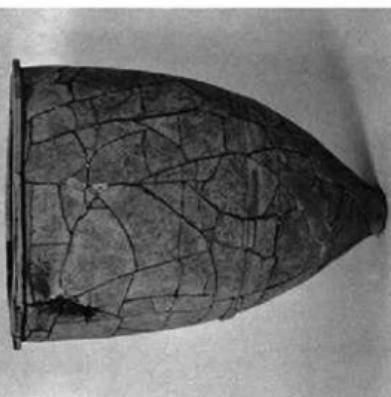
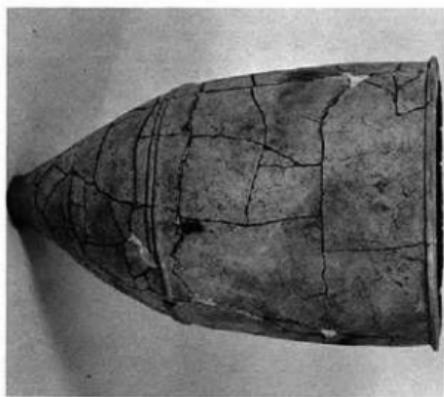
K 2



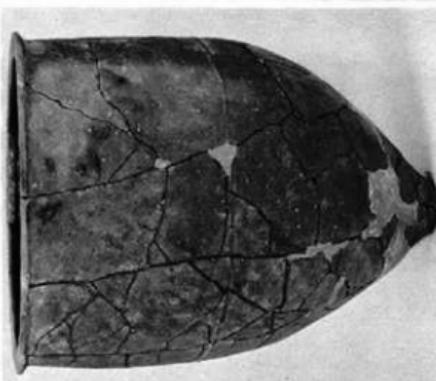
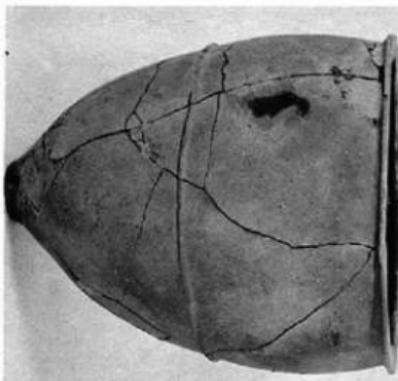
K 1



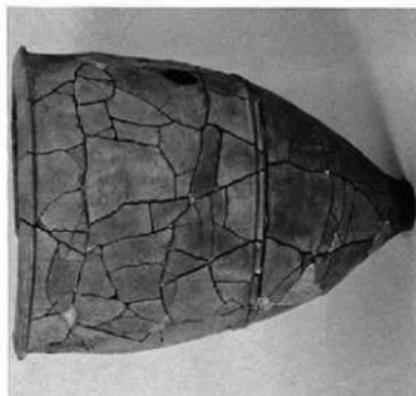
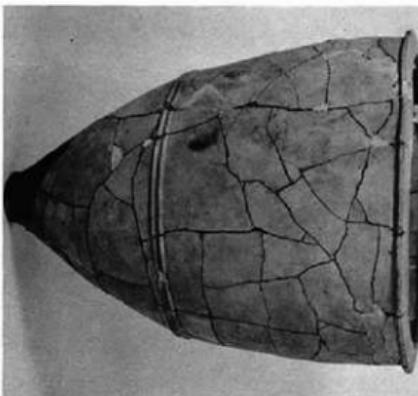
第2次 K 2



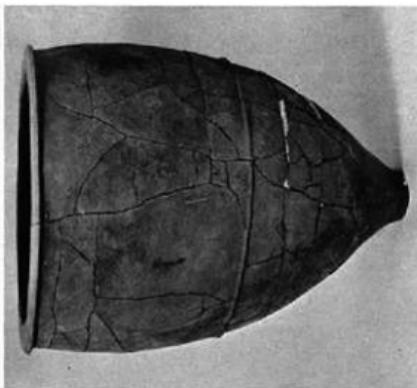
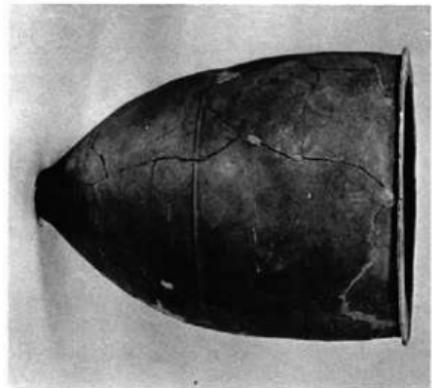
K 6



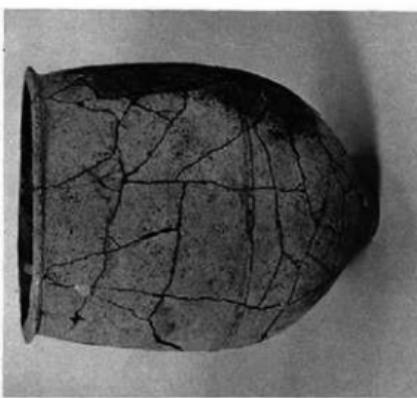
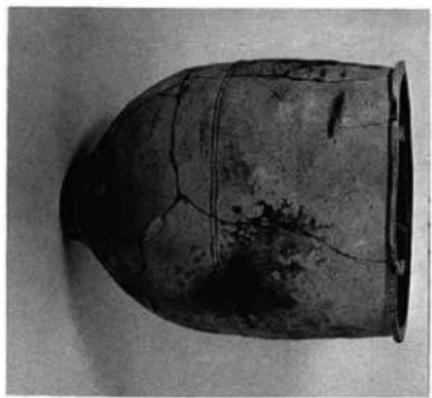
K 7



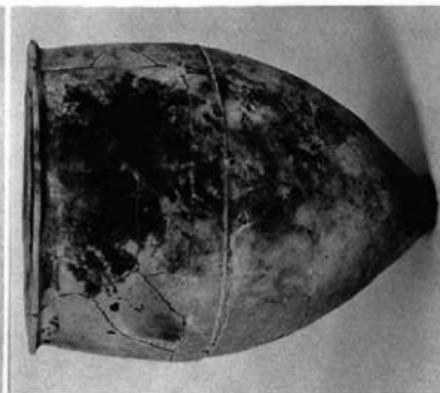
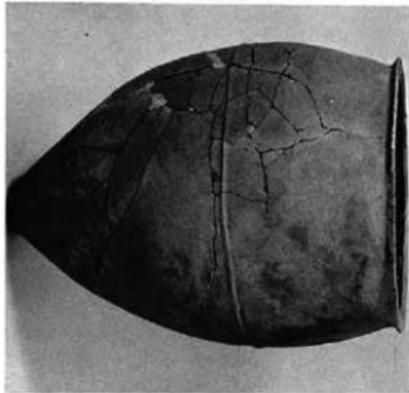
K 5



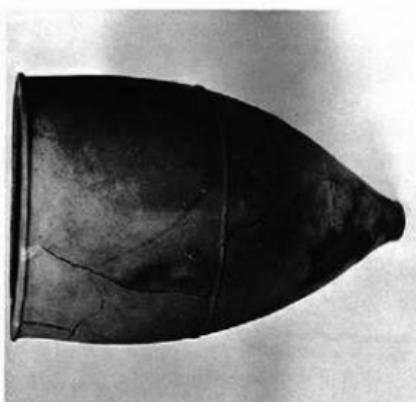
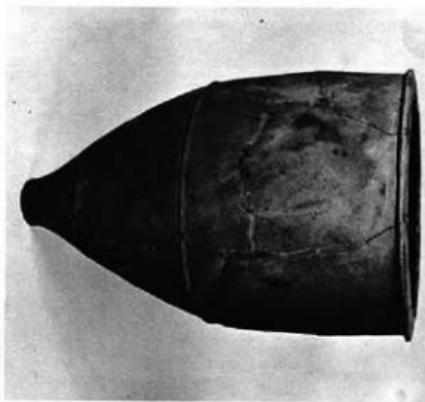
K 11



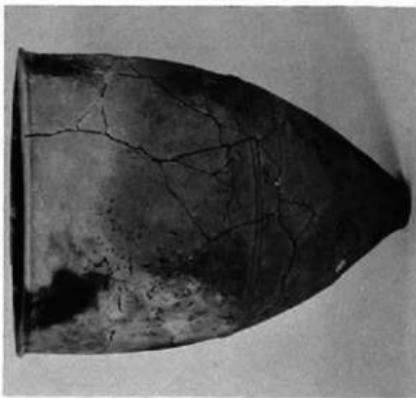
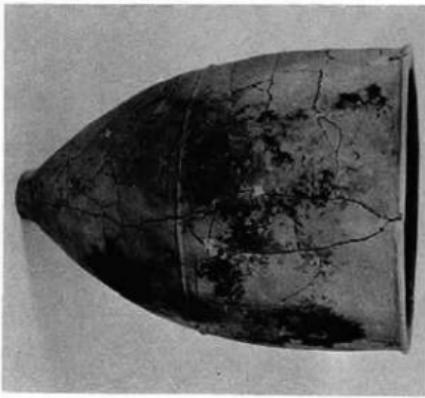
K 9



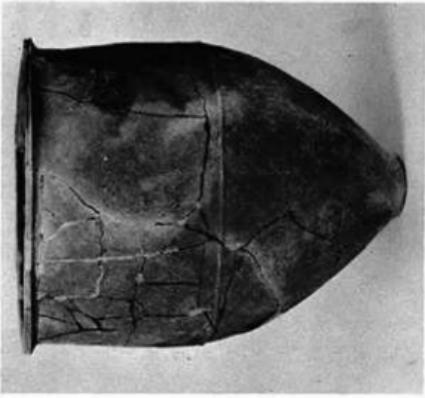
K 8



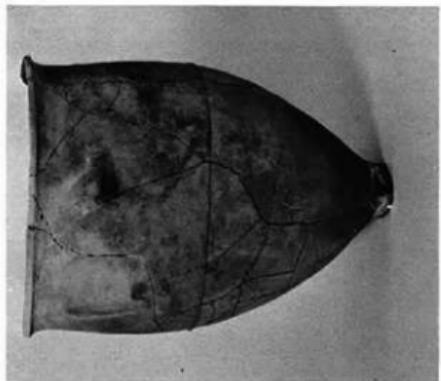
K16



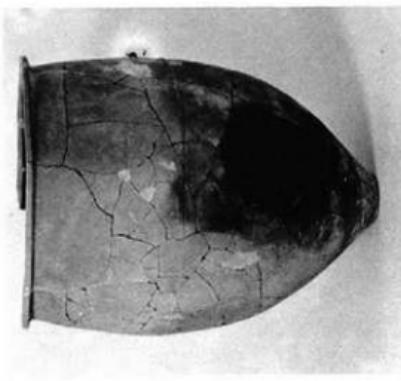
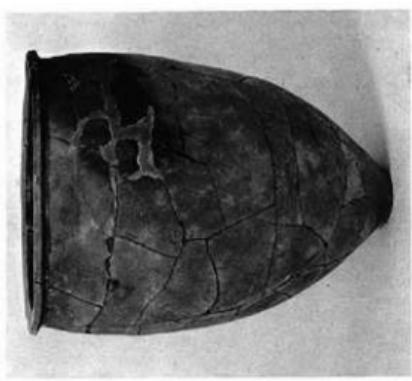
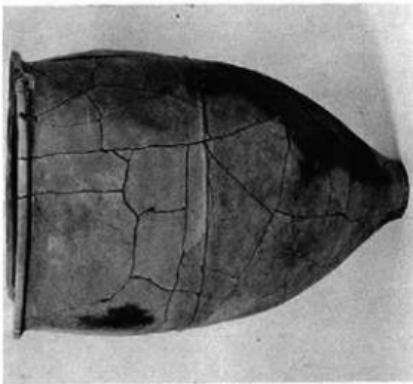
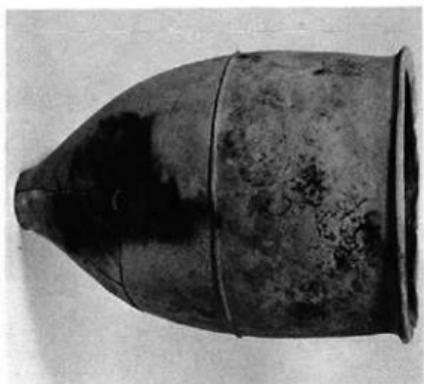
K17

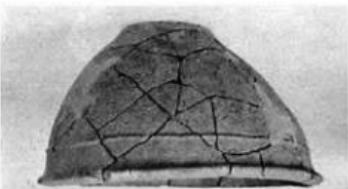


K13 F [上]
K16 F [下]



K19下 (左上)
K20下 (左下)
K21 (中央)
K22 (右上)





K 1 [左上] K23 [右中]
K10 [右上] K24 [右下]
K14 [左下]



(1) K1上 口縁部断面



(2) K5下 口縁部断面



(3) K19上 口縁部断面



(4) K22下 口縁部断面



(1) K 2 出土状態



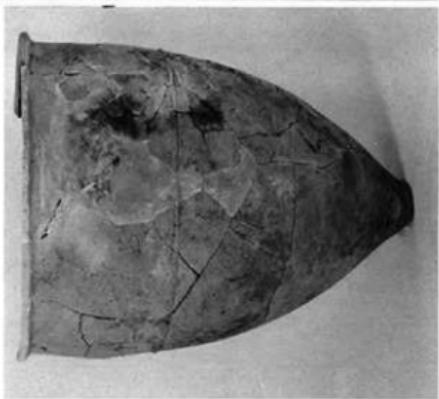
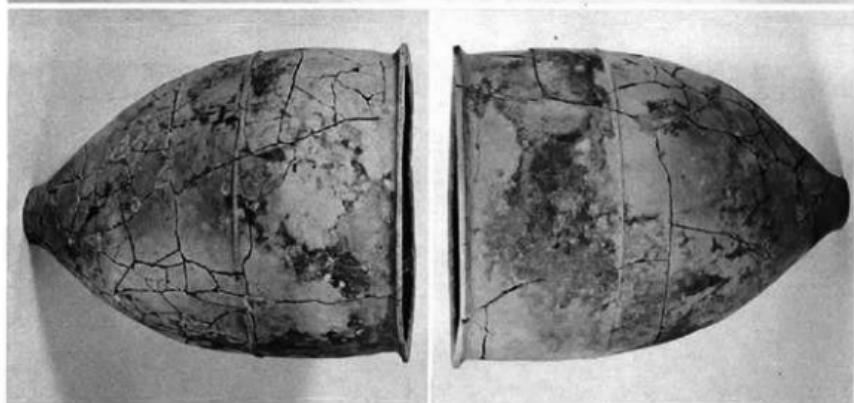
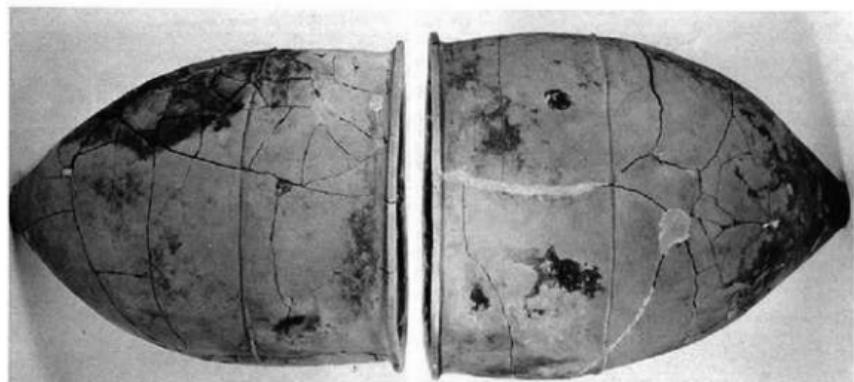
(2) K 4 出土状態

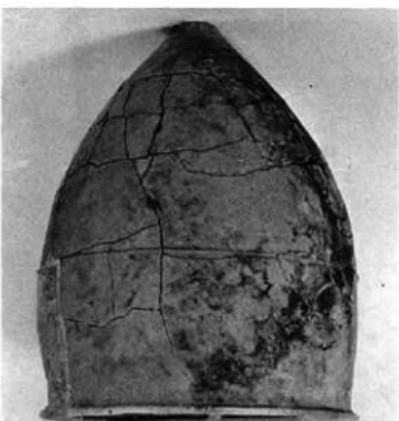


(1) K5 出土状態

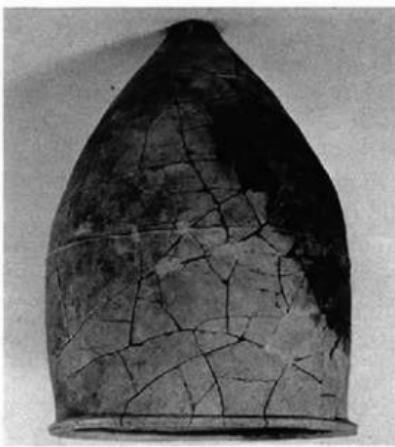


(2) K6 出土状態





K 5 [左]
K 6 [右]

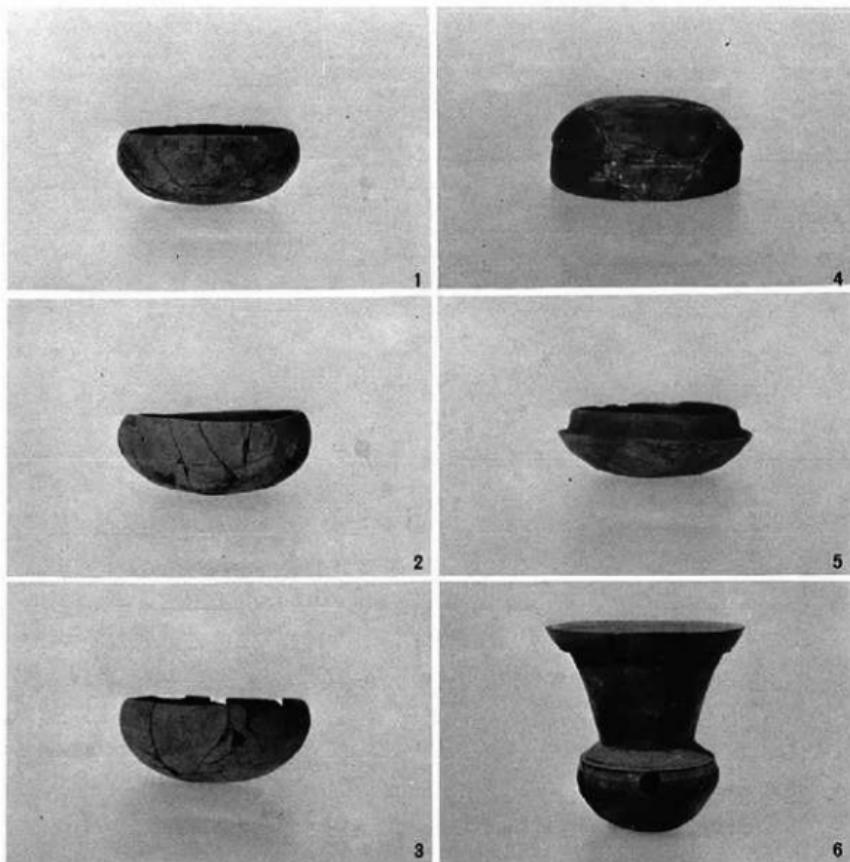




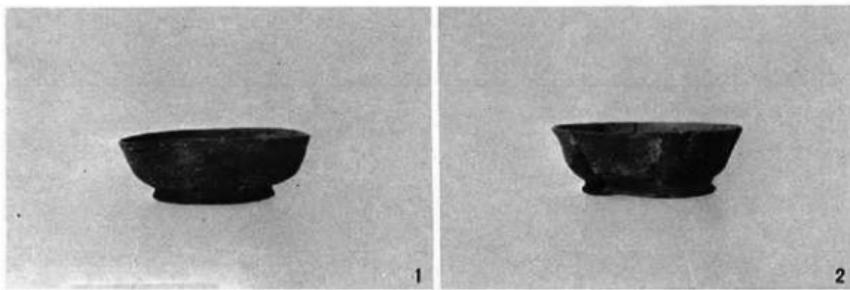
1号墳全景（西から）



1号墳石室・墳丘（南から）



1号墳出土土器



4号墳出土土器



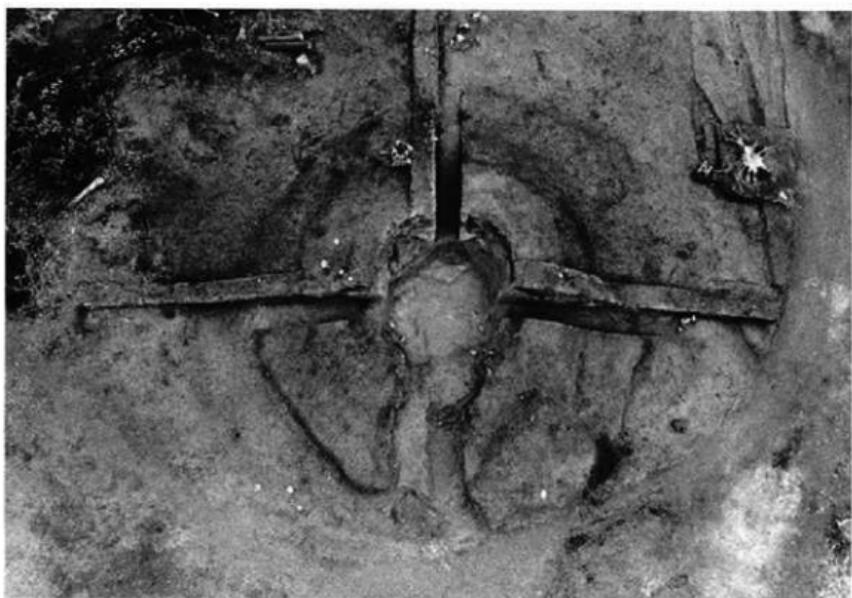
2・3号墳全景（B地点から）



2号墳全景（南から）



2号墳全景（南から）



2号墳全景（上から）



2号墳墓道東側遺物出土状態（南から）



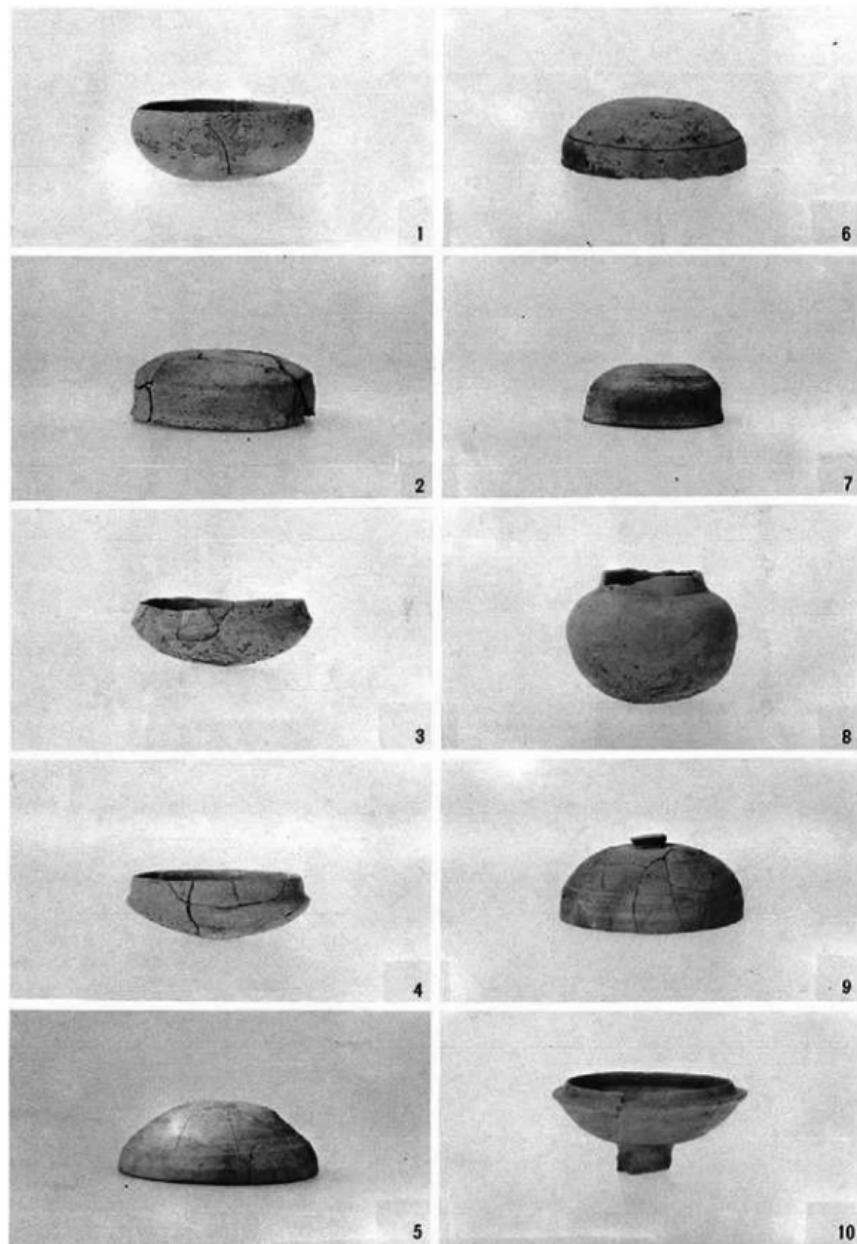
2号墳墓道東側遺物出土状態（西から）



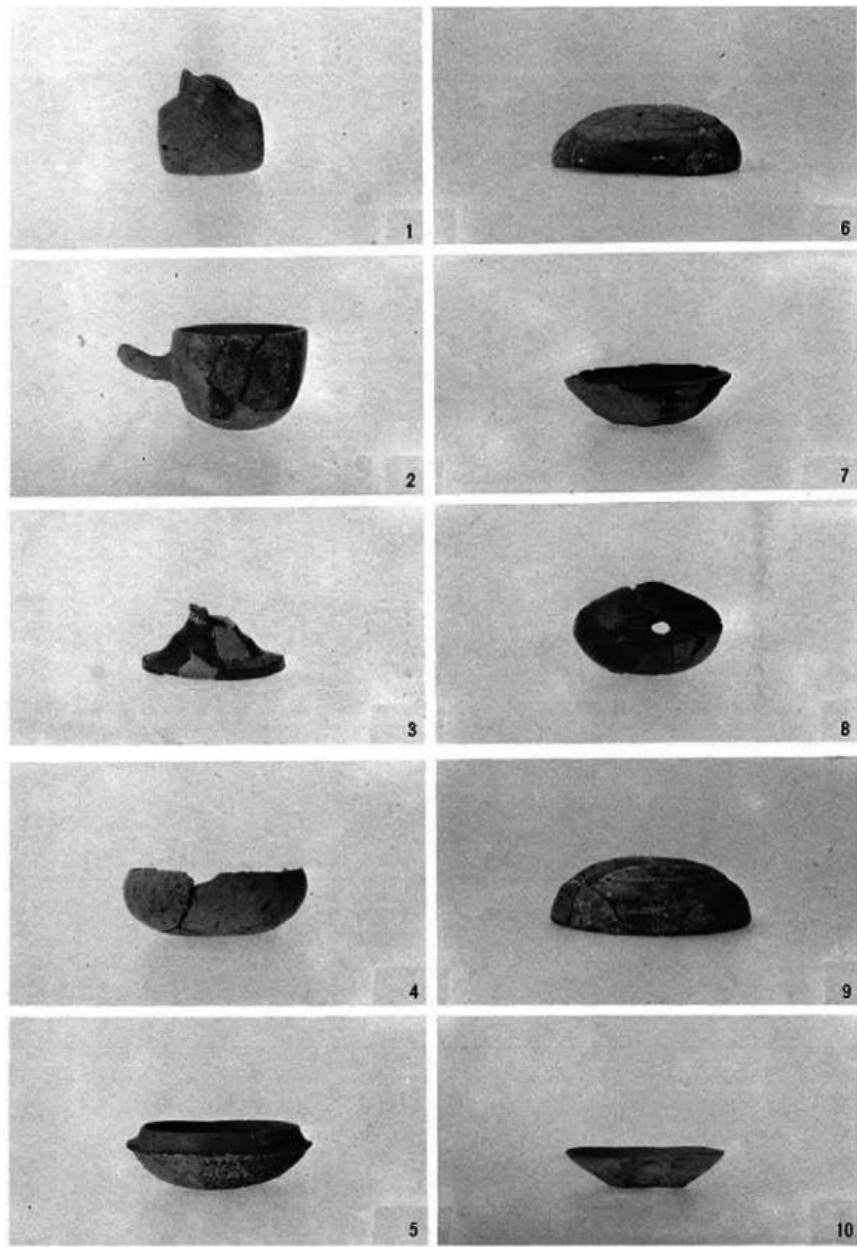
◆ 2号墳墳裾南西部
遺物出土状態（東から）



2号墳墳裾
南西部遺物出土状態（南から）
▼



2号墳墓道東側出土土師器（1～4）・墳裾南西部出土須恵器（5～10）



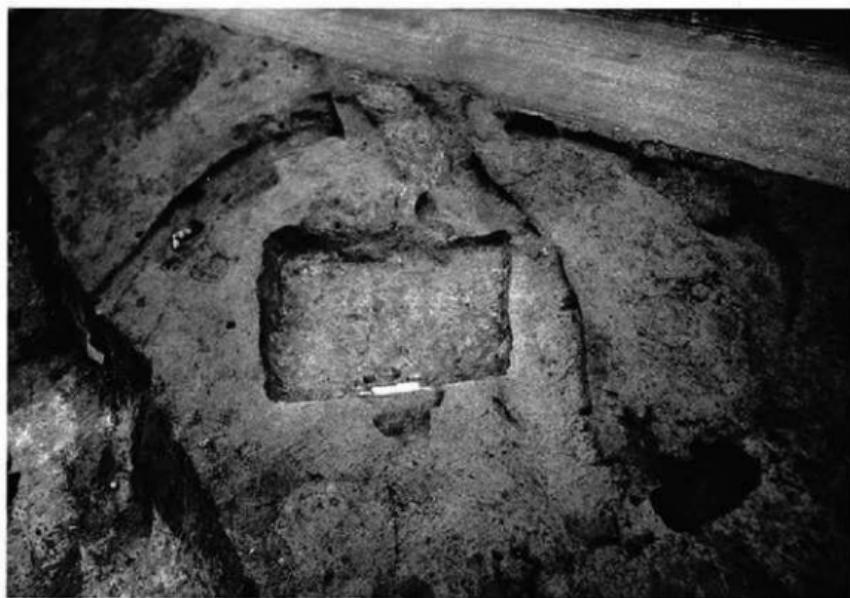
2号墳周溝内南西部(1~6)・北東部(7・8)・排土(9)・填丘擾乱土(10)出土遺物



▲ 2号墳墳裾南西部出土陶質土器



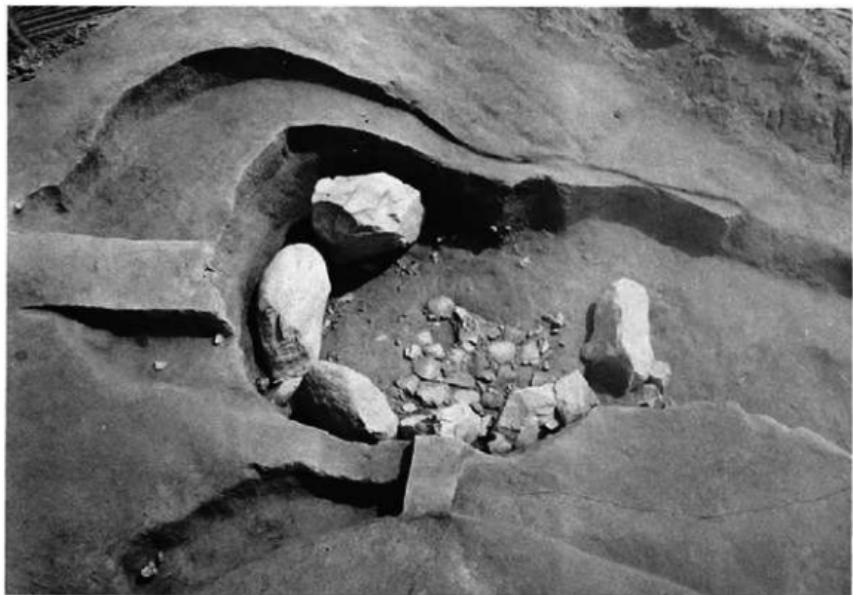
◀ 2号墳墳裾南西部出土大形裴形土器



▲ 1号墳全景（北西から）



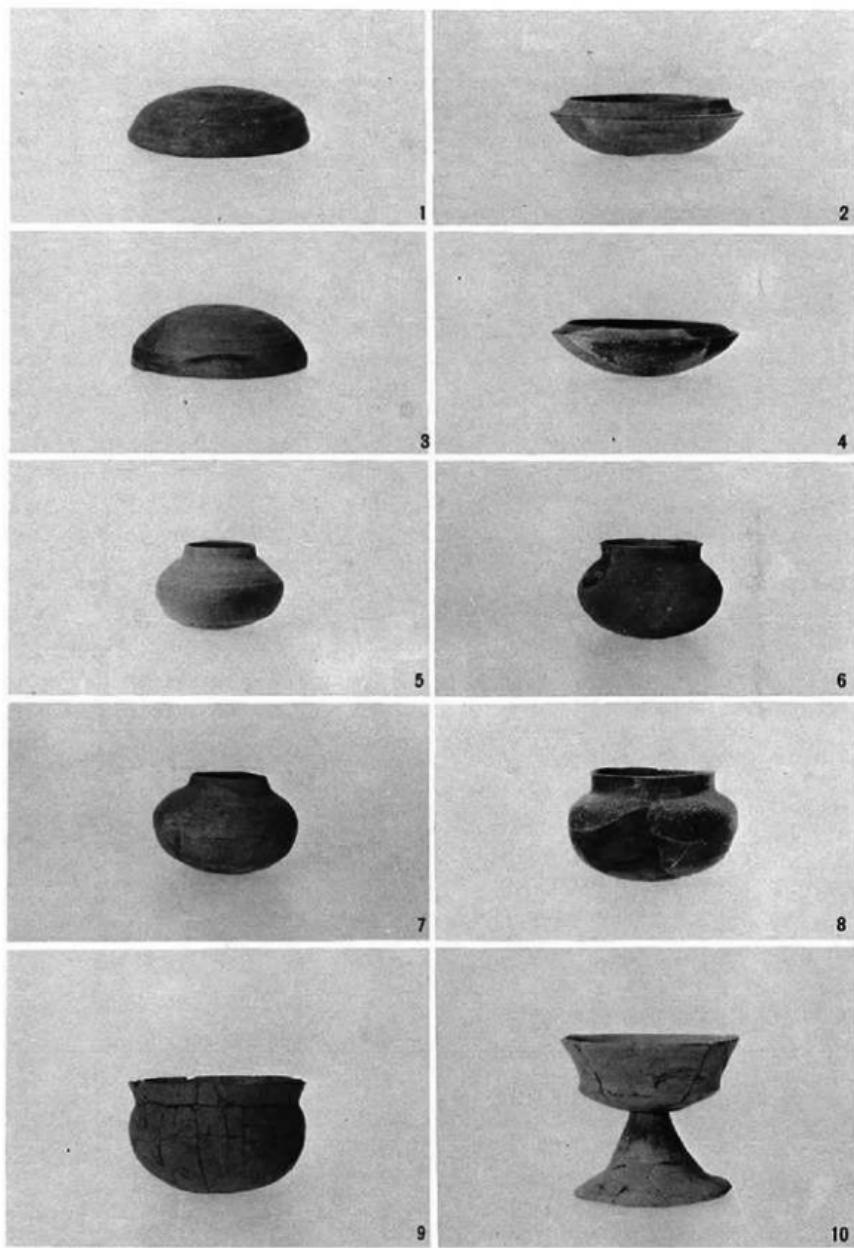
◀東西大溝（東から）



1号墳石室全景（西から）



1号墳石室全景（南から）



1号墳出土土器



◀ 1号横穴全景（南から）



1号横穴遺物出土土状態（北から）▼

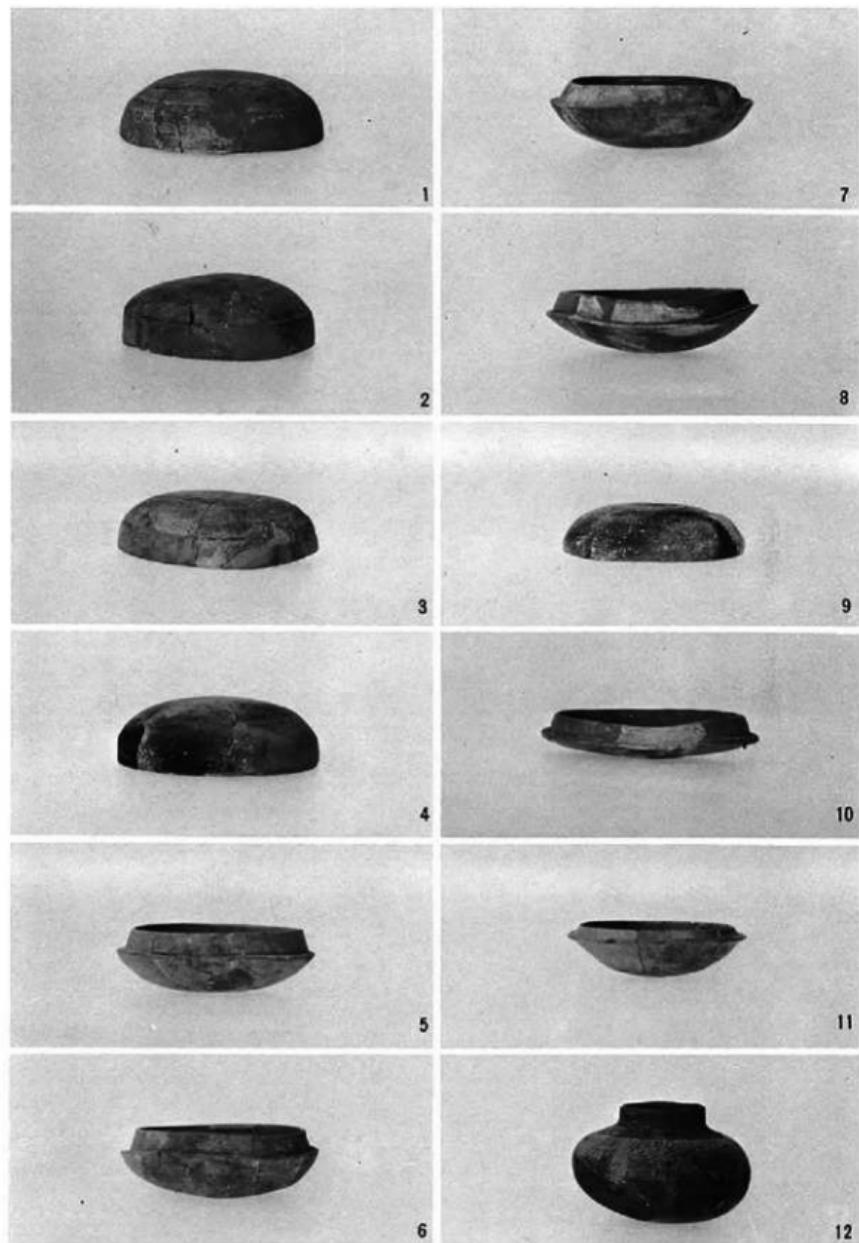


▲ 4号墳全景（南から）



4号墳石室全景（南から）

4号墳石室全景（南から）



4号墳出土土器



1号古墓全景（北から）

表



裏



4号古墓出土青磁

表



裏



2号古墓出土古銭

九州縦貫自動車道関係
埋蔵文化財調査報告

下 卷

昭和 54 年 3 月 31 日

発 行 福岡県教育委員会
福岡市中央区西中洲6-29

印 刷 赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8番34号